

検出、展開、およびリタイアリファレンス

Novell. ZENworks® 10 Asset Management SP2

10.2

2009年5月27日

www.novell.com



保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、「[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/)」の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007-2009 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複製・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本文書に記載されている製品に実装されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、「[Novell Legal Patents \(http://www.novell.com/company/legal/patents/\)](http://www.novell.com/company/legal/patents/)」の Web ページに記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell のマニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

Novell の商標

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて	9
ページのパート I デバイス検出	11
1 基本的な概念	13
1.1 検出の方法	13
1.2 IP および LDAP ディレクトリ検出タスク	13
1.3 IP 検出技術	13
1.4 LDAP 検出技術	19
1.5 検出済みデバイス	19
1.6 展開可能なデバイス	21
2 IP アドレスを使用したデバイスの検出	23
2.1 検出設定の設定	23
2.2 検出と展開プロキシサーバの指定	26
2.3 IP 検出タスクの作成	27
3 LDAP ディレクトリ内のデバイスの検出	35
4 CSV ファイルからのデバイスのインポート	41
5 デバイス詳細の表示または更新	43
ページのパート II ZENworks Adaptive Agent の展開	45
6 基本的な概念	47
6.1 展開方法	47
6.2 展開パッケージ	47
6.3 Adaptive Agent または Inventory-Only モジュール	48
7 展開パッケージの管理	51
7.1 パッケージのタイプとアーキテクチャ	51
7.2 デフォルトシステムパッケージとカスタムパッケージ	52
7.3 パッケージのカスタマイズ	52
7.4 パッケージの再構築	55
7.4.1 デフォルトパッケージの再構築	56
7.4.2 カスタムパッケージの再構築	56
8 デバイスを登録する	57
8.1 登録処理の内容	57
8.2 登録キーおよびルールの作成	58

8.2.1	登録キーの作成	58
8.2.2	登録ルールの作成	61
8.3	登録時に使用されるデバイス命名テンプレートの変更	65
8.4	登録時におけるデバイスの動的名前変更の有効化	66
8.4.1	管理ゾーンの設定の有効化	67
8.4.2	デバイスフォルダの設定の有効化	67
8.5	登録ルールの使用の無効化	68
8.6	手動でのデバイスの登録	69
8.6.1	初期登録の実行	70
8.6.2	追加登録キーを使用したデバイスの登録	70
8.7	デバイスの登録解除	70
9	ZENworks Adaptive Agent の展開	73
9.1	エージェント機能のカスタマイズ	73
9.1.1	展開前の機能のカスタマイズ	73
9.1.2	展開後の機能のカスタマイズ	75
9.2	ターゲットインストールディレクトリの変更	75
9.3	エージェントの展開のためのタスクの使用	75
9.3.1	デバイスに展開するための前提条件	76
9.3.2	検出されたデバイスへの展開	79
9.3.3	検出されていないデバイスへの展開	84
9.4	手動でのエージェントの展開	102
9.5	Agent のアンインストール	104
10	ZENworks Adaptive Agent の Linux サテライトへの展開	105
10.1	エージェントの Linux サテライトへの展開	105
10.2	Linux サテライトからの ZENworks Adaptive Agent のアンインストール	107
11	インベントリのみモジュールの展開	109
11.1	ZENworks サーバからのモジュールのダウンロード	109
11.2	Linux/UNIX でのインストール	110
11.3	NetWare でのインストール	111
11.4	Windows でのインストール	111
11.5	Macintosh OS X へのインストール	112
	ページのパート III デバイスの削除およびリタイア	115
12	ZENworks システムからのデバイスの削除	117
13	デバイスのリタイアまたはリタイア解除	119
	ページのパート IV 付録	123
A	定義済みレポート	125
B	スケジュール	127
B.1	今すぐ	127
B.2	スケジュールなし	127

B.3	特定の日付	127
B.3.1	開始日付	127
B.3.2	イベントを毎年実行する	127
B.3.3	スケジュールの実行を開始するタイミングを選択する	127
B.3.4	協定世界時 (UTC) の使用	128
B.4	繰り返し	128
B.4.1	曜日	128
B.4.2	月	128
B.4.3	固定間隔	129
C	ZENworks 向けの NMAP の設定	131
D	検出、展開、およびリタイアのトラブルシューティング	133

このガイドについて

この『』『Novell ZENworks 10 Asset Management 検出、展開、およびリタイアリファレンス』では、ZENworks 管理ゾーンにデバイスを追加し、追加したデバイスに ZENworks Adaptive Agent または Inventory Only Module をインストールする方法について説明します。また、Linux デバイスに ZENworks Adaptive Agent をインストールして、Linux デバイスを ZENworks サテライトにする方法についても説明します。

このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ 11 ページのパート I 「デバイス検出」
- ◆ 45 ページのパート II 「ZENworks Adaptive Agent の展開」
- ◆ 115 ページのパート III 「デバイスの削除およびリタイア」
- ◆ 123 ページのパート IV 「付録」

対象読者

本ガイドは、ZENworks システムの設定および管理に携わるすべてのユーザを対象としています。

フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

追加のマニュアル

ZENworks 10 Asset Management には、製品の概要とその実装方法を説明したその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式) が用意されています。追加のマニュアルについては、[ZENworks 10 Asset Management のマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/zam10/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/zam10/index.html) を参照してください。

マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (l) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux* など、スラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

デバイス検出

次のセクションでは、デバイスを ZENworks® データベースに追加するための情報および手順について説明します。デバイスがデータベースに追加されると、ZENworks サーバは自動的に ZENworks Adaptive Agent をデバイスに展開することができます。

- ◆ 13 ページの第 1 章「基本的な概念」
- ◆ 23 ページの第 2 章「IP アドレスを使用したデバイスの検出」
- ◆ 35 ページの第 3 章「LDAP ディレクトリ内のデバイスの検出」
- ◆ 41 ページの第 4 章「CSV ファイルからのデバイスのインポート」
- ◆ 43 ページの第 5 章「デバイス詳細の表示または更新」

基本的な概念

デバイスの検出とは、ZENworks サーバから ZENworks Adaptive Agent を自動でデバイスに展開できるようにするため、ワークステーションおよびサーバの情報を Novell[®] ZENworks[®] データベースに追加するプロセスのことです。次のセクションでは、検出に関する用語および概念を理解するのに役立つ情報について説明します。

- ◆ 13 ページのセクション 1.1 「検出の方法」
- ◆ 13 ページのセクション 1.2 「IP および LDAP ディレクトリ検出タスク」
- ◆ 13 ページのセクション 1.3 「IP 検出技術」
- ◆ 19 ページのセクション 1.4 「LDAP 検出技術」
- ◆ 19 ページのセクション 1.5 「検出済みデバイス」
- ◆ 21 ページのセクション 1.6 「展開可能なデバイス」

1.1 検出の方法

使用可能な検出の方法は3つあります。

- ◆ **IP 検出**：ZENworks 検出エンジンを使用してネットワーク上のデバイスに関する情報を収集します。エンジンでは、さまざまなプロトコルや標準 (WMI、WinAPI、MAC アドレス、NMAP、ZENworks、SNMP、SSH) を使用して、IP アドレスの範囲によって指定したデバイスを検出し、情報を収集します。
- ◆ **LDAP ディレクトリの検出**：ZENworks 検出エンジンを使用して、Novell[®] eDirectory[™] または Microsoft^{*} Active Directory^{*} でデバイスオブジェクトを検索します。検索するコンテキストおよび検索で使用するフィルタを指定します。
- ◆ **CSV インポート**：CSV (カンマ区切り値) ファイルからデバイス情報をインポートします。最低でも、ファイルには各デバイスの IP アドレスまたは DNS 名が含まれている必要があります。

1.2 IP および LDAP ディレクトリ検出タスク

IP および LDAP の検出は、検出タスクによって実行します。検出タスクは ZENworks コントロールセンターで作成します。LDAP 検出では、デバイスを検出するために Novell eDirectory[™] または Microsoft^{*} Active Directory^{*} が必要です。

1.3 IP 検出技術

ZENworks 検出技術では、IP ベースの検出でさまざまな技術を利用できます。複数の技術を使用する場合、検出エンジンは各技術ごとに検出リクエストを開始します。これは、それぞれのターゲット IP アドレスに対して行われます。たとえば、MAC アドレス、SNMP、および WMI を使用する場合、検出エンジンは各ターゲット IP アドレスに対して 3 つのリクエストを作成します。リクエストはキューに入れられ、検出エンジンはリクエストがなくなるまで一度に 5 つのリクエストを処理します。5 リクエストはデフォルトです。必要に応じてデフォルトを変更し (23 ページのセクション 2.1 「検出設定の設定」を参照)、検出タスク内の設定を上書きすることができます。

検出されたデバイスに関する情報を複数の技術が返信する場合、情報はマージされます。複数の矛盾する情報がある場合は、検出プロセスが「最善」の情報を選択します。優先度の高い検出技術が成功し、情報が返された場合は、その他の優先度の低い検出技術は、パフォーマンスを向上させるために実行されません。たとえば、WinAPI または WMI が成功する場合は、MAC アドレスおよび NMAP 技術は中断されます。

デフォルトでは、MAC アドレス、SSH、WinAPI、および ZENworks の技術が有効になっており、SNMP、WMI、および NMAP の技術は無効になっています。必要に応じてデフォルトの値を変更できます。23 ページのセクション 2.1「検出設定の設定」を参照してください。

使用する検出技術が少なければ、検出タスクが完了するまでにかかる時間は短くなりますが、受け取る情報の量も減少することがあります。

IP の検出には、次の情報が必要になります。

- ◆ 検出するデバイスの IP アドレスの範囲。
- ◆ SSH、WMI、WinAPI、および SNMP 検出技術でデバイスから情報を取得するために必要なアカウント情報。NMAP、MAC Address、および ZENworks の各技術には、アカウント情報は必要ありません。
すべての技術が同じアカウント情報を使用するわけではありません。また、すべてのデバイスに同じアカウント情報があるわけでもありません。したがって、ターゲットデバイスをすべてカバーし、すべての検出技術を活用するには、複数のアカウント情報を指定する必要があります。たとえば、WMI および WinAPI では Windows の資格情報が必要で、SNMP では SNMP の資格情報が必要です。
- ◆ タスク実行のスケジュール。すぐに実行するか、または指定した日付および時刻に実行するようスケジュールすることができます。オプションで、スケジュールを設定しないよう選択することもできます。この場合、手動でタスクを起動するか、または時刻をスケジュールするまでタスクは実行されません。
- ◆ タスクを実行する ZENworks サーバ。

次のテーブルは、IP 検出技術の詳細情報を示しています。

表 1-1 IP 検出技術

IP 検出技術	機能	要件	前提条件
WMI (Windows Management Instrumentation)	<p>WMI とは、Windows ベースのオペレーティングシステムにおける管理データおよび操作に関するインフラです。検出では、IP ベースの検出タスクによって識別されたデバイス上の WMI サービスリモート要求を発行して情報を取得します。デバイスの OS の種類とバージョン、MAC アドレス、ネットワークアダプタ、CPU の詳細を取得します。</p> <p>WMI に関する詳細については、MSDN Web サイト (http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa384642(VS.85).aspx) を参照してください。</p>	<p>WMI は Windows 固有の技術なので、Linux 上で実行されている ZENworks サーバから生成された要求を処理するには、Windows のプロキシヒーティングする必要があります。詳細については、26 ページのセクション 2.2 「検出と展開プロキシサーバの指定」 を参照してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Microsoft Windows Management Instrumentation Service をインストールし、ターゲットの Windows デバイス上で実行する必要があります。 ◆ ターゲットデバイス上の管理者アカウントの資格情報は、検出タスクの中では Windows 資格情報として指定する必要があります。これは、WMI サービスに接続するために必要です。 ◆ Windows 資格情報を使用して認証を行うには、ネットワークアクセス：ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル ローカルセキュリティ設定の値を、[クラシック - ローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する] に設定します。ローカルセキュリティの設定方法の詳細については、77 ページの「クラシックファイル共有の有効化」 を参照してください。 ◆ リモート WMI 接続では、ターゲット Windows デバイスと RPC 接続を確立するために、ターゲットデバイスの Windows ファイアウォールが WMI 検出技術用に TCP ポート 139 および 445 の使用を許可するように設定されている必要があります。これらのポートの開き方については、77 ページの「Windows ファイアウォールを介してのファイルおよびプリント共有の有効化」 を参照してください。

IP 検出技術	機能	要件	前提条件
WinAPI	IP ベースのディカバリタスクで特定されたデバイスのレジストリに要求を発行し、OS の種類とバージョン、CPU の詳細を取得します。	WinAPI は Windows 固有の技術なので、Linux 上で実行されている ZENworks サーバから生成された要求を処理するには、Windows のプロキシヘルパーティングする必要があります。詳細については、 26 ページのセクション 2.2 「検出と展開プロキシサーバの指定」 を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Microsoft リモートレジストリサービスをインストールし、ターゲット Windows デバイス上で実行する必要があります。 ◆ ターゲットデバイスの Windows レジストリ上で読み取り権限を持つ管理者アカウントの資格情報が、検出タスク内で Windows 資格情報として指定される必要があります。これは、リモートレジストリサービスに接続するために必要です。 ◆ [Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有] オプションは、有効にする必要があります。詳細については、76 ページの「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有の有効化」を参照してください。 ◆ Windows 資格情報を使用して認証を行うには、ネットワークアクセス: ローカルアカウントの共有とセキュリティモデルローカルセキュリティ設定の値を、[クラシック-ローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する] に設定します。ローカルセキュリティの設定方法の詳細については、77 ページの「クラシックファイル共有の有効化」を参照してください。 ◆ リモートレジストリ接続は、ターゲット Windows デバイスとの RPC 接続を確立する必要があるため、ターゲットデバイスの Windows ファイアウォールで TCP ポート 139 および 445 の使用が許可されている必要があります。これらのポートの開き方については、77 ページの「Windows ファイアウォールを介してのファイルおよびプリント共有の有効化」を参照してください。タスクを実行している Windows プロキシやプライマリサーバとターゲットデバイスのサブネットが異なる場合、デバイスのファイアウォール例外にそれらを含める必要があります。

IP 検出技術	機能	要件	前提条件
MAC アドレス	<p>検出されたデバイスの MAC アドレスを取得します。ping および arp (Address Resolution Protocol) コマンドを使用して、IP ベースの検出タスクによって特定されたデバイスの IP アドレスを、関連する MAC アドレスにマッピングします。</p> <p>MAC アドレス検出では、デバイスの MAC アドレスのみが取得され、OS 情報は提供されません。</p>		<ul style="list-style-type: none"> arp コマンドが成功するには、ターゲットデバイスが検出要求を実行する ZENworks サーバと同じネットワーク内に存在する必要があります。 ping コマンドが成功するには、着信の ICMP エコー要求 (ping) がデバイス上で有効化されている必要があり、ICMP エコー要求とエコー応答がネットワーク上で許可されている必要があります。
NMAP	<p>NMAP(Network Mapper) を使用して、IP ベースのディカバリタスクによって特定されたデバイスの OS の種類とバージョンの詳細を取得します。</p>		<ul style="list-style-type: none"> NMAP は、検出要求を処理する ZENworks サーバにインストールする必要があります。 <p>NMAP は、InSecure.org (http://www.insecure.org) から無償で提供されています。ZENworks 向けの NMAP の設定方法の詳細については、131 ページの付録 C 「ZENworks 向けの NMAP の設定」 を参照してください。</p>

IP 検出技術	機能	要件	前提条件
ZENworks	IP ベースのディカバリタスクによって特定されたデバイス上の ZENworks Adaptive Agent または ZENworks プレエージェントに対して要求を発行します。デバイスに ZENworks Adaptive Agent がある場合、エージェントは OS の種類とバージョン、MAC アドレス、ネットワークアダプタ、CPU、管理対象デバイスの GUID、管理ゾーンの GUID、管理ゾーン名、Adaptive Agent のバージョン、ディスク容量、メモリの詳細を応答します。デバイスに ZENworks プレエージェントがインストールされている場合、プレエージェントは OS タイプ、CPU、ディスク容量、メモリ、GUID の詳細を返します。これらの情報は、管理ゾーンでのデバイスの登録に使用されます。		<ul style="list-style-type: none"> ◆ プレエージェントがインストールされるのは、OEM デバイスや登録がゾーンから削除されたデバイスのみです。
SNMP	IP ベースの検出タスクによって特定されるデバイス上の SNMP サービスに対してリクエストを発行します。SNMP のバージョン 2 と 1 がサポートされており、SNMP バージョン 2 が最初に試されます。OS のタイプとバージョン、MAC アドレス、ネットワークアダプタ、CPU の詳細を取得します。	検出プロセスは Window ベースの SNMP 技術を使用するので、Linux 上で実行されている ZENworks サーバから生成されたリクエストが処理されるためには Windows プロキシへ送信される必要があります。詳細については、 26 ページのセクション 2.2 「検出と展開プロキシサーバの指定」 を参照してください。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ SNMP を使用してデバイスを問い合わせるためには、デバイスで SNMP を有効化する必要があります。 ◆ SNMP コミュニティ文字列は、検出タスク内で SNMP 資格情報として指定する必要があります。 ◆ SNMP は UDP ポート 161 を使用します。このポートを通じてアクセスできるようにファイアウォールを設定する必要があります。

IP 検出技術	機能	要件	前提条件
SSH	IP ベースの検出タスクによって特定されるデバイス上の SSH サーバと通信するのに SSH プロトコルを使用します。デバイスの OS(Linux または NetWare®) に応じて、デバイスは OS の種類、OS またはカーネルのバージョン、CPU、ネットワークアダプタ、メモリの詳細を取得します。		<ul style="list-style-type: none"> SSH を使用してデバイスを問い合わせるには、デバイス上で SSH を有効化し、ユーザ名とパスワードを検出タスク内で一般または Linux 資格情報として指定する必要があります。

1.4 LDAP 検出技術

LDAP 検出の場合、ZENworks 検出エンジンは LDAP サーバに対して LDAP リクエストを発行します。LDAP リクエストには、LDAP サーバ名、LDAP ポート、アカウント情報、検索するコンテキストまたはグループ、およびサブコンテナまたはサブグループを再帰的に検索するかどうかが含まれています。

検出されるデバイスオブジェクトは、デバイスの OS バージョンおよび DNS 名を判別するために周知の属性 (dnsHostName、OperatingSystem、wmNameDNS、wmNameOS など) に対してクエリが行われます。リクエストに再帰的検索が指定されると、コンテキストは周知のコンテナオブジェクトに対して検索されます。検出されたコンテナオブジェクトごとに、新規の LDAP リクエストが作成され、現在のリクエストの検索コンテキストに追加されます。

LDAP 検出タスクには、次の情報が必要になります。

- LDAP サーバの接続情報 (アドレスおよびポート)。
- LDAP ディレクトリから情報を読み込むために必要なアカウント情報。
- デバイスを検索するためのディレクトリコンテキスト。
- タスク実行のスケジュール。すぐに実行するか、または指定した日付および時刻に実行するようスケジュールすることができます。オプションで、スケジュールを設定しないよう選択することもできます。この場合、手動でタスクを起動するか、または時刻をスケジュールするまでタスクは実行されません。
- タスクを実行する ZENworks サーバ。

1.5 検出済みデバイス

デバイスが検出されると ZENworks データベースに追加され、[検出されたデバイス] ページにある [検出済み] パネルの該当するデバイスタイプフォルダに一覧されます。

図 1-1 [検出済み] パネル([デバイス] タブ> [検出済み] ページ)

検出済み	インベントリ済み	管理対象
検出済み		
タイプ	検出済み	
すべてのタイプ	4	
サーバ	0	
ワークステーション	0	
プリンタ	0	
ネットワーク機器	0	
シンククライアント	0	
その他のデバイス	0	
不明デバイス	4	
展開可能なタイプ	4	
ZENworksマイグレーション経由で作成されたデバイス	0	
ZENworks Asset Managementマイグレーション経由で作成されたデバイス	0	

検出済みデバイスはそれぞれタイプによって分類されます。

- ◆ **すべてのタイプ**：タイプに関わらず、検出済みのすべてのデバイスです。
- ◆ **サーバ**：サーバとして識別された検出済みのすべてのデバイスです。
- ◆ **ワークステーション**：ワークステーションとして識別された検出済みのすべてのデバイスです。
- ◆ **プリンタ**：プリンタとして識別された検出済みのすべてのデバイスです。ZENworks はプリンタを管理しません。したがって、ZENworks Adaptive Agent をプリンタに展開することはできません。
- ◆ **ネットワーク機器**：ネットワーク機器として識別された検出済みのすべてのデバイスです。これは、ルータなどのデバイスです。ZENworks はネットワーク機器を管理しません。したがって、ZENworks Adaptive Agent をネットワーク機器に展開することはできません。
- ◆ **シンククライアント**：シンククライアントとして識別された検出済みのすべてのデバイスです。
- ◆ **その他のデバイス**：その他のカテゴリに当てはまらないとして識別された検出済みのすべてのデバイスです。このカテゴリには、ZENworks Adaptive Agent がすでにインストールされているデバイスなどがあります。
- ◆ **不明デバイス**：オペレーティングシステムが識別できなかった検出済みのすべてのデバイスです。デバイスのファイアウォール設定が検出技術の使用をブロックしているか、検出技術に無効な資格情報が提供されている可能性があるため、デバイスは不明として一覧表示される場合があります。エージェントがこれらのデバイス上で確実にサポートされるように手動で設定できる場合は、ZENworks Adaptive Agent をこれらのデバイスに展開できます。サポートされるデバイスのリストの詳細については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「管理対象デバイス要件」を参照してください。
- ◆ **展開可能なタイプ**：ZENworks Adaptive Agent を展開可能なタイプとして識別された検出済みのすべてのデバイスです。
- ◆ **ZENworks Migration で作成されたデバイス**：ZENworks Migration ユーティリティを使用して、ZENworks 7 からマイグレートされたすべてのデバイス。

- ◆ **ZENworks Asset Management** で作成されたデバイス : ZENworks Asset Management Migration ユーティリティを使用して、ZENworks Asset Management からマイグレートされたすべてのデバイス。

1.6 展開可能なデバイス

ZENworks Adaptive Agent の要件を満たすデバイスは、ZENworks コントロールセンターの [展開] ページにある [展開可能なデバイス] パネルに表示されます。

図 1-2 [展開可能なデバイス] パネル([展開] タブ)

名前	IPアドレス	オペレーティングシステム	検出日	展開ステータス
192.168.9.240	192.168.9.240	不明なOS	2008/08/05	エラー
192.168.9.241	192.168.9.241	不明なOS	2008/08/05	エラー
rawhide.rawhide.sqa	192.168.9.1	不明なOS	2008/08/05	エラー
SYM6CLIENT	192.168.9.242	不明なOS	2008/08/05	エラー

このパネルを使用して、Adaptive Agent をデバイスに展開したり、ZENworks データベースから削除したり、フィルタリングしてリストから除外したりすることができます。

IP アドレスを使用したデバイスの検出

ネットワークの IP ベースの検出を実行して、デバイスを ZENworks® データベースに追加できます。IP 検出では、ZENworks サーバは一連の技術 (WMI、WinAPI、MAC アドレス、NMAP、ZENworks、SNMP、SSH) を使用してターゲットデバイスに関する情報をできる限り多く検出します。ターゲットデバイスは、指定した IP アドレスの範囲によって決定されます。

- 23 ページのセクション 2.1 「検出設定の設定」
- 26 ページのセクション 2.2 「検出と展開プロキシサーバの指定」
- 27 ページのセクション 2.3 「IP 検出タスクの作成」

2.1 検出設定の設定

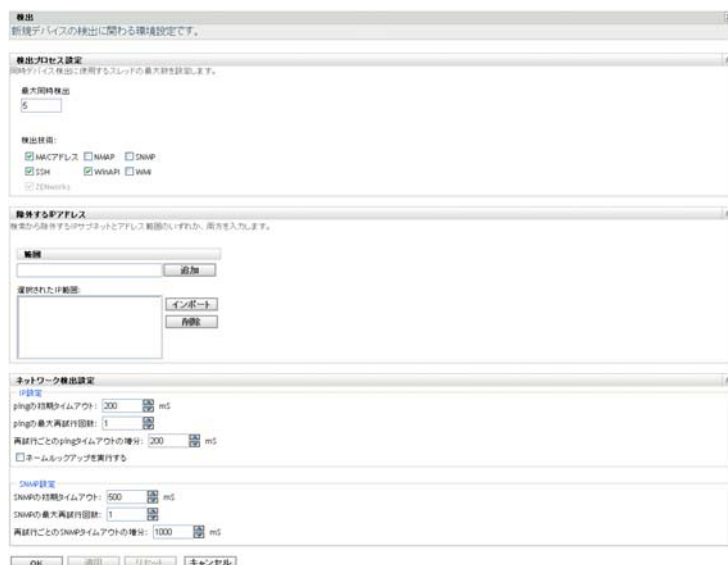
IP 検出では、次の環境設定を使用します。これらの設定は、必要に応じて変更できます。

- 同時に処理できる検出数 (デフォルトは 5)
- 検出から除外する IP サブネットまたは IP アドレス範囲
- 使用するディカバリテクノロジー (デフォルトは、LDAP、MAC アドレス、WinAPI、ZENworks、SSH)

1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

環境設定		
管理ゾーンの設定		✖
コンテンツ		✖
デバイス管理		✖
ディスクカバリと展開		✖
カテゴリ	説明	設定されました
アドバタイズされた検出設定	ネットワーク上のアドバタイズされたデバイスのインターバルおよびサブネットを設定します。	はい
検出	新規デバイスの検出に関わる環境設定です。	はい
Windowsプロキシ	検出および展開のための Windowsプロキシとして使用される管理対象Windowsデバイスを設定します。	いいえ
イベントとメッセージング		✖
インフラ管理		✖
インベントリ		✖
レポートिंगサービス		✖
アセット管理		✖
バッチ管理		✖

2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[検出と展開] をクリックし、次に [検出] オプションをクリックします。



3 [検出プロセス設定] パネルで、必要に応じて次の設定を変更します。

最大同時検出：1つの検出タスクは、1つ以上の検出リクエストで構成されます。IPベースの検出タスクでは、各検出技術と特定の範囲にあるIPアドレスごとにリクエストが作成されます。そのため、10のIPアドレスを検出するために6つの技術を使用する場合、60のリクエストが作成されます。LDAPベースの検出タスクでは、検出対象のコンテキストまたはグループごとにリクエストが作成されます。

このフィールドを使用して、ZENworks サーバが同時に処理できる検出リクエストの最大数を指定します。値を小さくすると、ネットワーク上のトラフィックの負荷が軽減されますが、検出タスクを完了するまでの時間が長くなります。ネットワーク負荷がピークの時間帯に検出タスクをスケジュールする場合は、値を小さくする必要があります。値を大きくすると、反対の効果があります。つまりトラフィックの負荷は増大しますが、タスクの完了が速くなります。

検出技術：検出プロセスにはさまざまな検出技術を使用できます。複数の技術が使用される場合、検出プロセスがその技術ごとに検出リクエストを開始し、すべての技術のリクエストは同時に実行されます。これは、それぞれのターゲットIPアドレスに対して行われます。たとえば、MAC Address、SNMP、およびWMIを使用する場合、検出プロセスにより各ターゲットIPアドレスに対して3つのリクエストが作成されます。リクエストはキューに入り、[最大同時検出] 設定に従い実行されます。

検出されたデバイスに関する情報を複数の技術が返信する場合、情報はマージされません。情報が競合する場合は、検出プロセスが「最善」の情報を選択します。

使用する検出技術が少なければ、検出タスクが完了するまでにかかる時間は短くなりますが、受け取る情報の量も減少することがあります。

各技術の詳細については、13 ページのセクション 1.3 「IP 検出技術」を参照してください。

4 [除外するアドレス] パネルでは、IP 検出から除外する IP サブネットまたは IP アドレス範囲を指定できます。

注：すべてのディカバリタスクは、管理ゾーンレベルで指定されたIPアドレス範囲を継承します。IPアドレス範囲がタスクレベルで指定されている場合、管理ゾーンとディカバリタスクとを組み合わせた範囲が検出から除外されます。

除外する IP アドレスは、手動で追加したり、CSV ファイルからインポートできます。

- ◆ 除外する IP アドレスを手動で追加するには、次の手順に従います。
 1. [範囲] フィールドで、次の形式のいずれかを使用して IP アドレスを入力します。

xxx.xxx.xxx.xxx: 1つのアドレス向けの標準のドット区切り表記です。たとえば、「123.45.167.100」と入力します。

xxx.xxx.xxx.xxx - xxx.xxx.xxx.xxx: アドレスの範囲を示す標準のドット区切り表記です。たとえば、「123.45.167.100 - 123.45.167.125」と入力します。

xxx.xxx.xxx.xxx/n: 標準の CIDR (Classless Inter-Domain Routing) 表記法です。CIDR を使用すると、IP アドレスのドット付きの 10 進数の部分が、8 ビットずつの 4 つのバイトから構成される 32 ビットの 2 進数に変換されます。スラッシュの後に続く数字 (/n) は、プレフィックスの長さを表わし、アドレスの左側から数えた共有初期ビットの数です。/n の数は 0 ~ 32 のいずれかで、8、16、24、および 32 が通常使われる数です。たとえば、123.45.167.100/24 は、123.45.167 で始まるすべての IP アドレスと一致します。IP アドレスの範囲を [選択済みの IP 範囲] リストに追加すると (次の手順を参照)、リストが自動的に展開され、ドット付き 10 進数表記法でアドレスの範囲が表示されます。
 2. [選択された IP 範囲] リストに IP アドレスの範囲を追加するには、[追加] をクリックします。
- ◆ CSV リストを使用して除外する IP アドレスをインポートするには、次の手順に従います。
 1. [選択された IP 範囲] リストで、[インポート] をクリックします。
[CSV ファイルのインポート] ダイアログボックスが表示されます。
 2. [ブラウザ] をクリックして、IP アドレスのカンマ区切りまたはカラム形式のリストを含むファイルを参照して選択します。
 3. [OK] をクリックします。

5 [ネットワーク検出設定] パネルで、必要に応じて次の設定を変更します。

IP 設定: これらの設定は、WMI および SNMP 検出技術を使用するときに適用されません。

- ◆ **最初の ping タイムアウト:** 検出技術が ICMP クエリ (ping) への応答を待つ時間を指定します。
- ◆ **ping の最大再試行回数:** 中止する前に ping を繰り返す回数を指定します。
- ◆ **再試行ごとの ping のタイムアウトの増分:** 各再試行に指定した時間が追加されます。たとえば、最初の ping タイムアウトが 200 ms、ping の最大再試行回数が 3、増分が 200 ms の場合、最初の再試行のタイムアウトは 400、2 度目の再試行のタイムアウトは 600、3 度目の再試行のタイムアウトは 800 になります。
- ◆ **名前の検索を実行する:** リバース検索を使用して、ターゲット IP アドレスと DNS 名を関連付けます。DNS 名を検出したくない場合は、このオプションの選択を解除します。

SNMP 設定: これらの設定は、SNMP 検出技術を使用するときに適用されます。

- ◆ **最初の SNMP タイムアウト:** パケットが失われたと仮定する前に、検出技術が SNMP クエリへの応答を待つ時間を指定します。

- ◆ **SNMP の最大再試行回数** : 中止する前に SNMP クエリを繰り返す回数を指定します。
- ◆ **再試行ごとの SNMP のタイムアウトの増分** : 各再試行に指定した時間が追加されます。たとえば、最初の SNMP タイムアウトが 500 ms、SNMP の最大再試行回数が 3、増分が 1000 ms の場合、最初の再試行のタイムアウトは 1500、2 度目の再試行のタイムアウトは 2500、3 度目の再試行のタイムアウトは 3500 になります。

6 [OK] をクリックし、変更を保存します。

2.2 検出と展開プロキシサーバの指定

Linux 上で実行される ZENworks サーバは、WMI や WinAPI などの Windows 特有の技術を使用する検出タスクを実行することができません。また、展開には Windows 特有の技術が使用されるため、Linux サーバは、ZENworks Adaptive Agents を Windows デバイスへ展開することもできません。Linux ZENworks サーバで検出と展開タスクを実行できるようにするため、ゾーン内にある管理対象 Windows デバイスを指定して、検出と展開プロキシサーバとして機能させることができます。管理対象デバイスは、Windows サーバあるいはワークステーションのいずれでもかまいません。

Linux ZENworks サーバが Windows 特有の技術を含んだ検出タスクを受け取ると、非 Windows 検出タスクのみを処理し、Windows 特有の技術はプロキシにオフロードします。プロキシは検出を実行し、Linux ZENworks サーバに結果を返します。展開タスクは、Windows プロキシに全面的にオフロードされます。

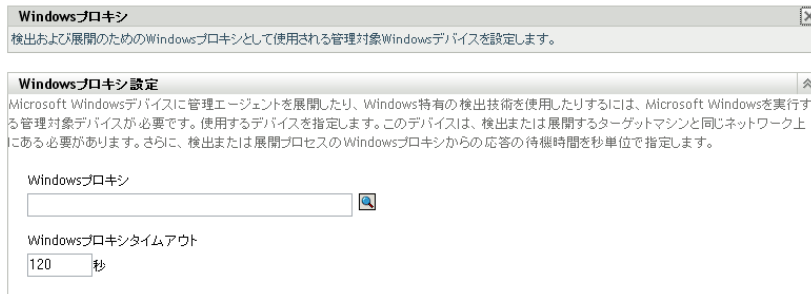
使用中の環境で Linux サーバのみを使用している場合、まず `https://IP_address_of_the_ZENworks_Server/zenworks-setup` からエージェントをダウンロードして手動で ZENworks Adaptive Agent を Windows デバイス上にインストールし、デバイスを検出と展開タスク用のプロキシに指定する必要があります。

プロキシを指定するには、次の手順に従います。


- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

環境設定		
登録	システム情報	アセットインベントリ
アセット管理	システム更新	
管理ゾーンの設定		✖
コンテンツ		✖
デバイス管理		✖
ディスカバリと展開		✖
カテゴリ	説明	設定されました
アドバタイズされた検出設定	ネットワーク上のアドバタイズされたデバイスのインターバルおよびサブネットを設定します。	はい
検出	新規デバイスの検出に関わる環境設定です。	はい
Windowsプロキシ	検出および展開のための Windowsプロキシとして使用される管理対象Windowsデバイスを設定します。	いいえ
イベントとメッセージング		✖
インフラ管理		✖
インベントリ		✖
レポートティングサービス		✖
アセット管理		✖
バッチ管理		✖

- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[検出と展開] をクリックし、次に [Windows プロキシ] オプションをクリックします。



3 次のフィールドに入力します。

Windows プロキシ:  をクリックして参照し、Linux ベースの ZENworks サーバの代わりに検出タスクを実行する管理対象 Windows デバイス (サーバまたはワークステーション) を選択します。

Windows プロキシタイムアウト: ZENworks サーバが Windows プロキシからの応答を待機する時間を秒数で指定します。指定されたタイムアウト期間後に受信した応答は破棄されます。

4 [OK] をクリックし、変更を保存します。

2.3 IP 検出タスクの作成

新規検出タスクの作成ウィザードを使用して、ZENworks サーバで使用するタスクを作成およびスケジュールして、ネットワーク上のデバイスを検出し、ZENworks データベースに追加することができます。

検出タスクを実行すると、ZENworks サーバは各 IP アドレスおよび使用する検出技術 (WMI、WinAPI、MAC アドレス、NMAP、ZENworks、SNMP、SSH) に対する検出リクエストを作成します。たとえば、1つの IP アドレスを指定し、7つすべての検出技術を使用する場合、ZENworks サーバにより7つの検出リクエストが出されます。そのため、指定する IP アドレスおよび使用する検出プロセスが多ければ多いほど、検出タスクが完了するまでの時間が長くなります。最も迅速に結果を得るには、狭い範囲の IP アドレスをターゲットにするタスクを作成し、可能ならば、そのタスクを実行するために別の ZENworks サーバを割り当てます。

1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。



2 [検出タスク] パネルで、[新規作成] をクリックして新規検出タスクウィザードを起動します。

展開 > 新規検出タスクウィザード

新規検出タスクウィザード
ステップ 1: 検出タイプの選択

作成する検出タスクのタイプを選択します。このタスクの名前とオプションの説明を入力します。

- IP検出タスク
- LDAP検出タスク

名前: *

説明:

* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

- 3 次のテーブルの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

ウィザードページ	詳細
[検出タイプの選択] ページ	[IP 検出タスク] を選択します。
[検出タスク] ページ > [ゾーン検出設定を無効に します] フィールド	<p>タスクの名前を指定します。名前には次の無効な文字を使用することはできません。 \ * ? : " ' < > ` % ~</p> <p>管理ゾーンで設定されている検出設定を上書きするかどうかを選択します。</p> <p>デバイスフォルダまたはデバイスで設定を構成する場合は、設定を変更する前に [ゾーン検出設定を無効にします] を選択する必要があります。</p>
[検出設定] ページ > [検出 技術]	<p>検出プロセスにはさまざまな検出技術を使用できます。複数の技術が使用される場合、検出プロセスがその技術ごとに検出リクエストを開始し、すべての技術のリクエストは同時に実行されます。これは、それぞれのターゲット IP アドレスに対して行われます。たとえば、MAC Address、SNMP、および WMI を使用する場合、検出プロセスにより各ターゲット IP アドレスに対して 3 つのリクエストが作成されます。リクエストはキューに入り、[最大同時検出] 設定に従い実行されます。</p> <p>検出されたデバイスに関する情報を複数の技術が返信する場合、情報はマージされます。情報が競合する場合は、検出プロセスが「最善」の情報を選択します。</p> <p>使用する検出技術が少なければ、検出タスクが完了するまでにかかる時間は短くなりますが、受け取る情報の量も減少することがあります。</p> <p>各技術の詳細については、13 ページのセクション 1.3 「IP 検出技術」を参照してください。</p>

[IP 検出設定の入力] ページ
> [範囲] フィールド

検出タスクの IP アドレスの範囲を指定するには、次の手順に従います。

1. [範囲] フィールドで、次の形式のいずれかを使用して IP アドレスの範囲を指定します。

xxx.xxx.xxx.xxx: 1 つのアドレス向けの標準のドット区切り表記です。たとえば、「123.45.167.100」と指定します。

xxx.xxx.xxx.xxx - xxx.xxx.xxx.xxx: アドレスの範囲を示す標準のドット区切り表記です。たとえば、123.45.167.100 から 123.45.167.125 まで。

xxx.xxx.xxx.xxx/n: 標準の CIDR (Classless Inter-Domain Routing) 表記法です。CIDR を使用すると、IP アドレスのドット付きの 10 進数の部分が、8 ビットずつの 4 つのバイトから構成される 32 ビットの 2 進数に変換されます。スラッシュの後に続く数字 (n) は、プレフィックスの長さを表わし、アドレスの左側から数えた共有初期ビットの数です。n の数は 0 ~ 32 のいずれかで、8、16、24、および 32 が通常使われる数です。たとえば、123.45.167.100/24 は、123.45.167 で始まるすべての IP アドレスと一致します。IP アドレスの範囲を [選択済みの IP 範囲] リストに追加すると (次の手順を参照)、リストが自動的に展開され、ドット付き 10 進数表記法でアドレスの範囲が表示されます。

IP アドレス範囲は、50,000 デバイス以下に指定することを推奨します。広範な IP アドレス範囲を持つタスクは開始されません。詳細は、トラブルシューティングシナリオ [136 ページ](#) の「IP アドレス範囲が広い場合に検出タスクが保留状態のままになる」を参照してください。

2. [選択された IP 範囲] リストに IP アドレスの範囲を追加するには、[追加] をクリックします。
3. (オプション) 検出から IP サブネットまたはアドレス範囲を除外するには、[除外] をクリックします。[除外する IP アドレス] ダイアログボックスが表示されます。

IP サブネットまたは IP アドレス範囲を除外する方法の詳細については、[31 ページ](#) の「[IP 検出設定の入力] ページ > [除外する IP アドレス] ダイアログボックス」のセクションを参照してください。

4. さらにアドレス範囲を追加したい場合は、ステップ 1 とステップ 2 を繰り返します。

[IP 検出設定の入力] ページ
> [除外する IP アドレス] ダイアログボックス

IP 検出から除外する IP サブネットまたは IP アドレス範囲を指定します。これらの範囲は管理ゾーンに指定された範囲に追加され、結合された範囲はディカバリタスクの実行中に除外されます。

検出から除外する IP サブネットまたは IP アドレス範囲を指定するには、次のいずれかを実行します。

◆ 除外する IP アドレスを手動で追加する：

1. [範囲] フィールドで、次の形式のいずれかを使用して IP アドレスの範囲を入力します。

xxx.xxx.xxx.xxx: 1 つのアドレス向けの標準のドット区切り表記です。たとえば、「123.45.167.100」と指定します。

xxx.xxx.xxx.xxx - xxx.xxx.xxx.xxx: アドレスの範囲を示す標準のドット区切り表記です。たとえば、123.45.167.100 から 123.45.167.125 まで。

xxx.xxx.xxx.xxx/n: 標準の CIDR (Classless Inter-Domain Routing) 表記法です。CIDR を使用すると、IP アドレスのドット付きの 10 進数の部分が、8 ビットずつの 4 つのバイトから構成される 32 ビットの 2 進数に変換されます。スラッシュの後に続く数字 (/n) は、プレフィックスの長さを表わし、アドレスの左側から数えた共有初期ビットの数です。/n の数は 0 ~ 32 のいずれかで、8、16、24、および 32 が通常使われる数です。たとえば、123.45.167.100/24 は、123.45.167 で始まるすべての IP アドレスと一致します。IP アドレスの範囲を [選択済みの IP 範囲] リストに追加すると (次の手順を参照)、リストが自動的に展開され、ドット付き 10 進数表記法でアドレスの範囲が表示されます。

2. [選択された IP 範囲] リストに IP アドレスの範囲を追加するには、[追加] をクリックします。

◆ CSV ファイルを使用して除外する IP アドレスをインポートする：

1. [選択された IP 範囲] リストで、[インポート] をクリックします。[CSV ファイルのインポート] ダイアログボックスが表示されます。
2. [ブラウズ] をクリックして、IP アドレスのカンマ区切りまたはカラム形式のリストを含むファイルを参照し選択します。
3. [OK] をクリックします。

[IP 検出設定の入力] ページ
> [データストアするアカウント情報を保存] フィールド

SSH、WMI、WinAPI、および SNMP 検出技術を使用してデバイスから情報を取得するには、その検出技術が使用できるアカウント情報を入力する必要があります。NMAP、MAC Address、および ZENworks の各技術には、アカウント情報は必要ありません。

アカウント情報は、保存した場合を除きメモリにのみ格納されません。保存されたアカウント情報は、セキュリティを増すためにデータベース内で暗号化されます。

保存されていないアカウント情報は、ZENworks サーバが再起動されるとメモリからクリアされます。スケジュール展開タスクを作成している場合、展開の実行時にアカウント情報が依然として有効であるように、アカウント情報を保存することができます。

[IP 検出設定の入力] ページ
> [アカウント情報] フィールド

すべての技術が同じアカウント情報を使用するのではなく、すべてのデバイスに同じアカウント情報があるわけではないので、すべてのターゲットデバイスをカバーし、すべての検出技術を活用するために複数のアカウント情報を指定する必要があります。

アカウント情報を追加するには、次の手順に従います。

1. [アカウント情報] パネルで、[追加] をクリックして [アカウント情報の入力] ダイアログボックスを表示します。
2. [タイプ] フィールドで、定義するアカウント情報のタイプを選択します。

一般: SNMP を除くすべての検出技術で使用されるアカウント情報を指定します。

Linux: SSH 技術で Linux デバイスにある SSH サーバと通信するためのアカウント情報を指定します。

Windows: WMI および WinAPI 技術で Windows デバイスにある WMI サービスおよび Windows レジストリにアクセスするためのアカウント情報を指定します。

SNMP: SNMP 技術でデバイスの SNMP サービスにアクセスするためのコミュニティストリングを指定します。デフォルトでは、検出プロセスは public をコミュニティストリングとして使用します。

3. [一般]、[Linux]、または [Windows] を選択した場合は、ユーザ名とパスワードを入力します。

Windows デバイスのユーザ名は次の形式で入力できます。

```
username
domain_name\username
username@domain_name
username@fully_qualified_domain_name
```

注: Windows Server 2008 では、`username @domain_name` の形式はサポートされていません。

4. [SNMP] を選択した場合は、コミュニティストリングを入力します。
5. [OK] をクリックして、アカウント情報を [アカウント情報] パネルに追加します。
6. 手順 1 から手順 5 を繰り返して、追加のアカウント情報を追加します。

同じタイプのアカウント情報を複数追加する場合 (たとえば、複数の Windows アカウント情報)、それらのアカウント情報を必要とする技術は、[アカウント情報] パネルに表示されている順番 (上から下) でアカウント情報を使用します。そのため、検出プロセスを速くするためには、最も一般的なアカウント情報を先頭に配置する必要があります。

ウィザードページ	詳細
<p>[検出スケジュールの設定] ページ</p>	<p>タスクを作成してすぐ実行するかどうか ([今すぐ] オプション)、または後で実行するようにタスクのスケジュールを指定するかを選択できます。[スケジュールどおり] を選択した場合は、次のいずれかのスケジュールを選択します。</p> <p>スケジュールなし : スケジュールが設定されていないことを示します。タスクはスケジュールが設定されるか、手動で起動されるまで実行されません。これは、タスクを作成し、後でスケジュールを設定するか、手動でタスクを実行する場合に便利です。</p> <p>特定の日付 : タスクを実行する日付を 1 つまたは複数指定します。</p> <p>繰り返し : タスクを実行する曜日、月の特定日、または固定の間隔を示します。</p> <p>スケジュールの詳細情報については、127 ページの付録 B「スケジュール」 を参照するか、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。</p>
<p>[プライマリサーバの選択] ページ > [プライマリサーバ] フィールド</p>	<p>検出タスクを実行する ZENworks サーバを選択します。</p> <p>Windows 特有の検出技術 (WMI、WinAPI) を使用する場合は、Windows(Linux ではなく) 上の ZENworks サーバを選択するか、事前に Windows ZENworks サーバを Linux サーバ用の検出プロキシとして指定しておく必要があります。検出プロキシの詳細については、26 ページのセクション 2.2「検出と展開プロキシサーバの指定」 を参照してください。</p>
<p>[Windows プロキシの選択] ページ > [Windows プライマリサーバの Windows プロキシを使用 >] フィールド</p>	<p>このオプションは、Windows プライマリサーバの代わりに Windows プロキシを使用してディカバリタスクを実行する場合に選択します。</p> <p>Windows プロキシは次のサーバの代わりに使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Windows 固有のディカバリおよび展開タスクを実行できない Linux プライマリサーバ ◆ 検出または展開するデバイスがプライマリサーバ以外のサブネットにある場合の Windows サーバ
<p>注 : このオプションは、[プライマリサーバの選択] ページで Windows プライマリサーバが選択されている場合のみ表示されません。</p>	
<p>WMI、WinAPI および SNMP 経由の検出では、ターゲットデバイスの一定のポートに到達できるようにするため、プライマリサーバはリモートレジストリ、WMI、または SNMP 要求をターゲットデバイスに送信できます。Windows ファイアウォール構成設定の例外に追加して、ポートを開けます。デフォルトでは、例外の範囲はローカルサブネットにのみ適用されます。ターゲットデバイスが、検出が実行されているプライマリサーバとは別のサブネットにある場合は、プライマリサーバの IP アドレスを例外として追加する必要があります。ただし、Windows プロキシをターゲットデバイスと同じサブネットで使用している場合は、Windows ファイアウォール例外の範囲を変更する必要はありません。</p>	

[Windows プロキシの選択] ページ > [ゾーン Windows プロキシ設定を無効にしません] フィールド

このオプションを選択して、管理ゾーンで設定した Windows プロキシ設定を無効化します。タスク上に設定したい場合は、[ゾーン Windows プロキシ設定を無効にしません] を選択してからでないと、設定を変更できません。[Windows プロキシ設定] パネルでは、ZENworks サーバの代わりにディカバリタスクまたは展開タスクを実行する、ゾーン内の管理対象 Windows* デバイスを選択できます。これは、主として、Linux* で実行中の ZENworks サーバが、WMI や WinAPI などの Windows 固有のディカバリテクノロジーを使用するディカバリタスクと、Windows によって管理されたデバイスを使用する展開タスクをオフロードできるようにすることを目的としています。ZENworks サーバ/Windows プロキシ間で転送される情報 (検出資格情報など) を保護するため、接続は SSL 暗号化で安全に保護されます。

Windows プロキシ : Linux ベースの ZENworks サーバの代わりに検出と展開タスクを実行させる管理対象の Windows デバイス (サーバまたはワークステーション) を選択します。

Windows プロキシタイムアウト : ZENworks サーバが Windows プロキシからの応答を待機する時間を秒数で指定します。指定されたタイムアウト期間後に受信した応答は破棄されます。

ウィザードを完了したら、[検出タスク] パネル内のリストに検出タスクが追加されます。このパネルを使用してタスクの状態を監視することができます。デバイスが検出されると、[展開可能デバイス] パネルにリストされます。検出タスクから除外する IP アドレスを指定した場合は、それらの IP アドレスにはディカバリタスクが実行されず、除外した IP アドレスは、[結果] タブに表示されません。

LDAP ディレクトリ内のデバイスの 検出

LDAP ディレクトリでデバイスを検索して、ZENworks® データベースに追加することができます。ディレクトリは管理ゾーン内のユーザソースとしてすでに定義済みのもの、または新しいディレクトリのどちらでもかまいません。

ルートコンテキストからすべてのディレクトリを検索できます。または、1つまたは複数のコンテキストを指定して検索範囲を制限することもできます。検出されるデバイスオブジェクトは、デバイスの OS バージョンおよび DNS 名を判別するために周知の属性 (dnsHostName、OperatingSystem、wmNameDNS、wmNameOS など) に対してクエリが行われます。

LDAP の検出を実行する前に、次の前提条件がすべて満たされていることを確認してください。

- ◆ LDAP の検索では、ZENworks サーバで、検索対象のコンテキストに対して読み込みアクセスを付与するアカウント情報を指定する必要があります。Novell® eDirectory™ にアクセスする場合、アカウントにはワークステーションおよびサーバオブジェクトの WM:NAME DNS 属性に対する読み込み権も必要です。
- ◆ Active Directory の LDAP 検索では、ZENworks サーバで DNS サーバを使用してデバイスの DNS 名 (Active Directory でオブジェクトの DNS 名属性に記録) を IP アドレスに解決する必要があります。解決できない場合、デバイスは検出されたデバイスに追加されません。

新規検出タスクの作成ウィザードを使用して LDAP ディレクトリタスクを作成およびスケジュールします。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、**[展開]** タブをクリックします。



- 2 [検出タスク] パネルで、**[新規作成]** をクリックして新規検出タスクウィザードを起動します。
- 3 次のテーブルの情報をを使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

[検出タイプの選択] ページ	[LDAP 検出タスク] を選択します。
	タスクの名前を指定します。名前には次の無効な文字を使用することはできません。` \ * ? : " ' < > ` % ~`
[LDAP 設定の入力] ページ > [前もって設定されている LDAP ソースを検索] フィールド	[LDAP 設定の入力] ページでは、検出タスクを実行する LDAP ディレクトリおよびコンテキストを識別できます。
	事前設定済み LDAP ソースは、管理ゾーンのユーザソースとしてすでに定義されているソースです。新しいソースを選択する場合は、 37 ページの「[LDAP 設定の入力] ページ > [LDAP ソースを指定] フィールド」 を参照してください。
	事前設定済みソースを使用するには、次の手順に従います。
	1. [前もって設定されている LDAP ソースを検索] を選択して、目的のソースを選択します。
	2. LDAP ディレクトリの全体を検索しない場合、特定の検索コンテキスト/グループを識別できます。手順は次のとおりです。
	a. [LDAP 検索コンテキスト/グループ] パネルで、[追加] をクリックして、[コンテキストまたはグループの情報の入力] ダイアログボックスを表示します。
	b. 次のフィールドに入力します。
	コンテキスト/グループ DN: [参照] をクリックして、検索するコンテキスト/グループを参照して選択します。
	再起検索: すべてのサブコンテキスト/サブグループを検索するには、このオプションを選択します。
	c. [OK] をクリックし、検索コンテキスト/グループを保存します。
	3. 必要な場合、LDAP 検索フィルタを修正します。
	デフォルトでは、フィルタは、コンピュータ objectClass またはサーバ objectClass を検索します。フィルタを変更するときは、LDAP ディレクトリに対して標準フィルタ構文を使用できます。

[LDAP 設定の入力] ページ
> [LDAP ソースを指定]
フィールド

LDAP ディレクトリに新しい接続を作成して、ディレクトリのデバイスを検出できます。既存の接続を使用する場合は、上記の「[LDAP 設定の入力] ページ > [前もって設定されている LDAP ソースを検索] フィールド」を参照してください。

LDAP ディレクトリへの新しい接続を作成するには、次の手順に従います。

1. [LDAP ソースを指定] を選択して、次のフィールドに入力します。

LDAP サーバ: LDAP のディレクトリが存在するサーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を指定します。

LDAP ポート /SSL の使用: [SSL の使用] オプションが有効か無効かによって、SSL ポート (636) または非 SSL ポート (389) にデフォルト設定されます。LDAP サーバが異なるポートでリスンしている場合は、そのポート番号を選択します。

ルートコンテキスト: ディレクトリのエントリポイントを確認します。エントリポイントの上では検索できません。ルートコンテキストの指定はオプションです。ルートコンテキストを指定しない場合、ディレクトリのルートコンテナがエントリポイントとなります。

データストアするアカウント情報を保存: アカウント情報 ([アカウント情報] リストで定義) を保存しない限り、これはメモリにのみ格納されます。保存されたアカウント情報は、セキュリティ強化のためにデータベース内では暗号化されます。ZENworks サーバを再起動すると、アカウント情報はメモリからクリアされます。アカウント情報を永続的に保持するには、保存してください。

アカウント情報: [追加] をクリックして、ディレクトリへの読み込み専用アクセスを提供するユーザ名およびパスワードを指定します。ユーザには読み込み専用のアクセス権以上の権限を与えることができますが、必要なのは読み込み専用のアクセス権だけで、このアクセス権を推奨します。Novell eDirectory™ にアクセスする場合、ユーザアカウントにはワークステーションおよびサーバオブジェクトの WM:NAME DNS 属性に対する読み込み権も必要です。

Novell eDirectory™ アクセスには、標準の LDAP 表記法を使用します。例: cn=admin_read_only,ou=users,o=mycompany

Microsoft Active Directory には、標準のドメイン表記法を使用します。例: AdminReadOnly@mycompany.com

1. LDAP ディレクトリの全体を検索しない場合、特定の検索コンテキスト/グループを識別できます。手順は次のとおりです。
 - a. [LDAP 検索コンテキスト/グループ] パネルで、[追加] をクリックして、[コンテキストまたはグループの情報の入力] ダイアログボックスを表示します。
 - b. 次のフィールドに入力します。
コンテキスト/グループ DN: [参照] をクリックして、検索するコンテキスト/グループを参照して選択します。
再起検索: すべてのサブコンテキスト/サブグループを検索するには、このオプションを選択します。
 - c. [OK] をクリックし、検索コンテキスト/グループを保存します。
2. 必要な場合、LDAP 検索フィルタを修正します。デフォルトでは、フィルタは、コンピュータ objectClass またはサーバ objectClass を検索します。

検出設定ページ

LDAP 検出では、LDAP ソースから検出されたデバイスのホスト名、オペレーティングシステムの種類とバージョン、IP アドレスを取得します。選択したディカバリテクノロジーに応じて、デバイスについて次の追加情報を取得できます。

- ◆ ZENworks 管理ステータス
- ◆ オペレーティングシステムスイート
- ◆ MAC アドレス
- ◆ ネットワークアダプタ
- ◆ CPU
- ◆ メモリとディスク容量

デバイスの追加情報を取得するには、次の手順に従います。

1. [IP 検出テクノロジーを使用して詳細情報を収集します] オプションを選択します。
2. [ゾーン検出設定を無効にします] を選択し、次にディカバリテクノロジーを選択します。
3. [資格情報] パネルで、アカウント情報を追加します。
資格情報の追加方法の詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

ウィザードページ	詳細
[検出スケジュールの設定] ページ	<p>タスクを作成してすぐ実行するかどうか ([今すぐ] オプション)、または後で実行するようにタスクのスケジュールを指定するかを選択できます。[スケジュール済み] を選択する場合は、次のいずれか 1 つのスケジュールを選択します。</p> <p>スケジュールなし : スケジュールが設定されていないことを示します。タスクはスケジュールが設定されるか、手動で起動されるまで実行されません。これは、タスクを作成し、後でスケジュールを設定するか、手動でタスクを実行する場合に便利です。</p> <p>特定の日付 : タスクを実行する日付を 1 つまたは複数指定します。</p> <p>繰り返し : タスクを実行する曜日、月の特定日、または固定の間隔を示します。</p> <p>スケジュールの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。</p>
[プライマリサーバの選択] ページ	<p>展開タスクを実行する ZENworks サーバを選択します。</p>
[Windows プロキシの選択] ページ > [Windows プライマリサーバの Windows プロキシを使用] フィールド	<p>このオプションは、Windows プライマリサーバの代わりに Windows プロキシを使用してディカバリタスクを実行する場合に選択します。</p> <p>Windows プロキシは次のサーバの代わりに使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Windows 固有のディカバリおよび展開タスクを実行できない Linux プライマリサーバ ◆ 検出または展開するデバイスがプライマリサーバ以外のサブネットにある場合の Windows サーバ
<p>注 : このオプションは、[プライマリサーバの選択] ページで Windows プライマリサーバが選択されている場合のみ表示されません。</p>	
<p>WMI、WinAPI および SNMP 経由の検出では、ターゲットデバイスの一定のポートに到達できるようにするため、プライマリサーバはリモートレジストリ、WMI、または SNMP 要求をターゲットデバイスに送信できます。Windows ファイアウォール構成設定の例外に追加して、ポートを開けます。デフォルトでは、例外の範囲はローカルサブネットにのみ適用されます。ターゲットデバイスが、検出が実行されているプライマリサーバとは別のサブネットにある場合は、プライマリサーバの IP アドレスを例外として追加する必要があります。ただし、Windows プロキシをターゲットデバイスと同じサブネットで使用している場合は、Windows ファイアウォール例外の範囲を変更する必要はありません。</p>	

[Windows プロキシの選択] ページ > [ゾーン Windows プロキシ設定を無効にしません] フィールド

管理ゾーンで設定した Windows プロキシ設定の無効化を選択します。タスク上に設定したい場合は、[ゾーン Windows プロキシ設定を無効にします] を選択してからでないと、設定を変更できません。[Windows プロキシ設定] パネルでは、ZENworks サーバの代わりにディカバリタスクまたは展開タスクを実行する、ゾーン内の管理対象 Windows* デバイスを選択できます。これは、主として、Linux* で実行中の ZENworks サーバが、WMI や WinAPI などの Windows 固有のディカバリテクノロジーを使用するディカバリタスクと、Windows によって管理されたデバイスを使用する展開タスクをオフロードできるようにすることを目的としています。ZENworks サーバ/Windows プロキシ間で転送される情報 (検出資格情報など) を保護するため、接続は SSL 暗号化で安全に保護されます。

Windows プロキシ : Linux ベースの ZENworks サーバの代わりに検出と展開タスクを実行させる管理対象の Windows デバイス (サーバまたはワークステーション) を選択します。

Windows プロキシタイムアウト : ZENworks サーバが Windows プロキシからの応答を待機する時間を秒数で指定します。指定されたタイムアウト期間後に受信した応答は破棄されます。

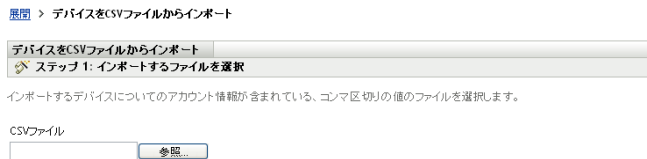
ウィザードを完了したら、[検出タスク] パネル内のリストに検出タスクが追加されます。このパネルを使用してタスクの状態を監視することができます。デバイスが検出されると、[展開可能デバイス] パネルにリストされます。

CSV ファイルからのデバイスのインポート

CSV (カンマ区切り値) ファイルからデバイスの情報をインポートして、ZENworks データベースにデバイスを追加できます。CSV ファイルから情報をインポートする場合、CSV フィールドを ZENworks® データベースフィールドにマップします。少なくとも、CSV ファイルには、インポートする各デバイスの DNS 名または IP アドレスが含まれている必要があります。CSV ファイルには任意の順序で情報を含めることができ、CSV ファイルからデバイスをインポートする際に IP アドレスと DNS を含むカラムを指定するオプションが提供されます。

CSV ファイルからデバイスをインポートするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。
- 2 左ナビゲーションパネルの [展開アクティビティ] リストで、[展開可能なデバイスのインポート] をクリックして、デバイスを CSV ファイルからインポートウィザードを起動します。



- 3 次のテーブルの情報をを使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

ウィザードページ	詳細
[インポートするファイルを選択] ページ	インポートするデバイスを含む CSV ファイルを参照して選択します。少なくとも、CSV ファイルには、各デバイスの DNS 名または IP アドレスが含まれている必要があります。
[インポートを設定]	<p>CSV ファイルのカラムを ZENworks データベースのデバイスフィールドにマップします。少なくとも、CSV ファイルの DSN 名または IP アドレスを ZENworks データベースの [DNS 名フィールド] または [IP アドレス] フィールドにマッピングする必要があります。</p> <p>情報マッピングを作成するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [追加] をクリックして、[インポートカラムの指定] ダイアログボックスを表示します。 2. 次のフィールドに入力します。 フィールド: CSV ファイルのカラムにマッピングするデバイスフィールドを選択します。 カラム: 選択フィールドにマッピングするカラムの番号を選択します。 3. [OK] をクリックして、情報マッピングを作成して、リストに追加します。 4. フィールドが正しいカラムにマッピングされているか確認するには、[サンプルの表示] をクリックします。 5. 上記の手順を繰り返して、追加の情報マッピングを作成および検証します。

ウィザードが終了すると、[展開可能なデバイス] パネルのリストにデバイスが追加されます。

デバイス詳細の表示または更新

5

デバイスが検出された後、検出されたデバイスで使用できる情報に基づいて詳細が ZENworks® コントロールセンターに表示されます。たとえば、SNMP 情報が検出されたデバイスで使用できない場合、[SNMP 情報] パネルは表示されません。

デバイスで検出された情報が正しくなかったり、不十分な場合は、「検出済みデバイスの編集」権限を持つ管理者が、横に [編集] ボタンがあるフィールドの詳細を手動で変更できます。ただし、アセット情報を除き、手動で更新された情報は、同じ IP アドレスで再度検出が実行された場合に、検出された情報で上書きされます。

検出されたデバイスについて、次の情報が表示されます。

- ◆ **検出情報** : 識別情報、デバイスタイプ、検出プロセスの状態、展開プロセスの状態、検出のモード、デバイスのネットワークタイプが表示されます。
- ◆ **ネットワーク情報** : デバイスの IP アドレス、MAC アドレス、DNS 名が表示されます。
- ◆ **管理情報** : Adaptive Agent バージョンと管理ゾーン名が表示されます。検出が実行されているゾーンと同じゾーンに属する管理対象デバイスでは、[概要] ページと、関連する管理対象デバイスのハードウェアおよびソフトウェアインベントリ情報も表示できます。

これらの詳細は、管理対象デバイスにのみ表示されます。

- ◆ **アセット情報** : デバイスの説明、製造元、モデル、シリアル番号、アセットタグ番号が表示されます。

ルータ、ハブ、スイッチについては、ポート数およびファームウェアリビジョンの詳細も表示されます。

プリンタでは、ページ数とファームウェアリビジョンの詳細が表示されます。プリンタアラートと提供レベルの情報は、ZENworks 10 Management レポートングサーバをインストールして、事前定義された検出レポートを使用するか、カスタムレポートを作成する必要があります。詳細については、[125 ページの付録 A 「定義済みレポート」](#)を参照してください。

- ◆ **OS 情報** : オペレーティングシステムのタイプとバージョン、メモリ、ディスク容量、ハードウェア情報が表示されます。
- ◆ **SNMP 情報** : SNMP オブジェクト識別、SNMP システム名、SNMP サービスのアップタイムが表示されます。

デバイス詳細を表示または更新するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] > [検出済み] の順にクリックします。

図 5-1 [検出済み] パネル([デバイス] タブ> [検出済み] ページ)

検出済み	インベントリ済み	管理対象																								
検出済み																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>タイプ</th> <th>検出済み</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>すべてのタイプ</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>サーバ</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ワークステーション</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>プリンタ</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ネットワーク機器</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>シンククライアント</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>その他のデバイス</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>不明デバイス</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>展開可能なタイプ</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>ZENworksマイグレーション経由で作成されたデバイス</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>ZENworks Asset Managementマイグレーション経由で作成されたデバイス</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>			タイプ	検出済み	すべてのタイプ	4	サーバ	0	ワークステーション	0	プリンタ	0	ネットワーク機器	0	シンククライアント	0	その他のデバイス	0	不明デバイス	4	展開可能なタイプ	4	ZENworksマイグレーション経由で作成されたデバイス	0	ZENworks Asset Managementマイグレーション経由で作成されたデバイス	0
タイプ	検出済み																									
すべてのタイプ	4																									
サーバ	0																									
ワークステーション	0																									
プリンタ	0																									
ネットワーク機器	0																									
シンククライアント	0																									
その他のデバイス	0																									
不明デバイス	4																									
展開可能なタイプ	4																									
ZENworksマイグレーション経由で作成されたデバイス	0																									
ZENworks Asset Managementマイグレーション経由で作成されたデバイス	0																									

- 2 [検出済み] パネルで、デバイスタイプをクリックして、詳細を表示または更新する検出済みデバイスをクリックします。
[詳細] ページには、検出済みデバイスについての情報が表示されます。
- 3 (条件付き) デバイスの検出された情報が正しくなかったり、不十分な場合は、[編集] をクリックして、フィールドの詳細を手動で変更します。
手動での変更は、このデバイスで次に検出を実行したときに上書きされます。

ZENworks Adaptive Agent の展開



以降のセクションでは、デバイスに ZENworks[®] Adaptive Agent を展開して、デバイスを管理できるようにするための情報と手順について説明します。

- ◆ 47 ページの第 6 章「基本的な概念」
- ◆ 51 ページの第 7 章「展開パッケージの管理」
- ◆ 57 ページの第 8 章「デバイスを登録する」
- ◆ 73 ページの第 9 章「ZENworks Adaptive Agent の展開」
- ◆ 105 ページの第 10 章「ZENworks Adaptive Agent の Linux サテライトへの展開」
- ◆ 109 ページの第 11 章「インベントリのみモジュールの展開」

基本的な概念

展開とは、ZENworks[®] Adaptive Agent をデバイスにインストールし、管理ゾーン内に登録するプロセスのことです。次のセクションでは、展開に関する用語および概念を理解するのに役立つ情報について説明します。

- ◆ 47 ページのセクション 6.1 「展開方法」
- ◆ 47 ページのセクション 6.2 「展開パッケージ」
- ◆ 48 ページのセクション 6.3 「Adaptive Agent または Inventory-Only モジュール」

6.1 展開方法

使用可能な展開の方法は次のとおりです。

- ◆ **展開タスク**：ZENworks サーバは、ZENworks Adaptive Agent をデバイスに配布し、エージェントのインストールを開始することができます。そのためには、ZENworks サーバに展開タスクと呼ばれるタスクを作成する必要があります。タスクでは、ターゲットデバイス、デバイスにインストールを実行するのに必要なアカウント情報、使用する登録キー（オプション）、およびインストールの前または後のいずれかにデバイスで実行するその他のタスクを特定します。ZENworks でタスクをすぐに実行するか、または指定した日付と時刻にタスクを実行するようスケジュールすることができます。
- ◆ **手動展開**：手動で ZENworks サーバから ZENworks Adaptive Agent の展開パッケージをダウンロードしてインストールを開始することができます。
- ◆ **自動展開**：Adaptive Agent の展開パッケージを開始するためのいずれかの方法を使用して、その展開を自動化することができます。たとえば、ログインスクリプトを使用できます。また、以前の ZENworks のバージョンを使用している場合は、Novell[®] Application Launcher[™] を使って Adaptive Agent 展開パッケージをアプリケーションオブジェクトとして配布することができます。

インストールの手順は、73 ページの第 9 章「ZENworks Adaptive Agent の展開」に記載されています。

6.2 展開パッケージ

展開パッケージには、デバイスに ZENworks Adaptive Agent をインストールし、管理ゾーンにデバイスを登録するのに必要なファイルと情報が含まれています。各 ZENworks サーバに含まれているのは、6 つのデフォルトシステムパッケージです。これらのパッケージを使用して、さまざまなオペレーティングシステム (32 ビットおよび 64 ビット) 上に Adaptive Agent (完全なエージェントまたは部分エージェント) をローカルインストールまたはネットワークインストールできます。

必要に応じて、展開パッケージを修正して、パッケージに含まれている ZENworks サーバアドレスまたは登録キーを変更することができます。たとえば、同じパッケージを使用して、プライベートネットワーク上のデバイスと、NAT (Network Address Translation) を使用しているファイアウォールまたはルータ外部のデバイスにエージェントを展開するとします。パッケージを変更することで、ZENworks サーバのプライベートネットワークアドレス (IP アドレス、DNS 名、または両方) および NAT アドレスを一覧できます。

展開パッケージおよびその使用方法の詳細については、51 ページの第 7 章「展開パッケージの管理」を参照してください。

6.3 Adaptive Agent または Inventory-Only モジュール

ZENworks Adaptive Agent は、Windows 2003、XP、2003、および Vista デバイスをサポートしています。Adaptive Agent が展開されているデバイスは完全に管理することができます。これには、ソフトウェアの展開、ポリシーの適用、デバイスのリモート管理などが含まれます。ZENworks コントロールセンターでは、[デバイス] ページの [管理] タブに管理対象デバイスが表示されます。

図 6-1 [管理デバイス] ページ > サーバフォルダ



Adaptive Agent の展開手順は、73 ページの第 9 章「ZENworks Adaptive Agent の展開」に記載されています。

Windows のデバイスが、Adaptive Agent の展開要件を満たさない場合 (詳細については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「最小要件」を参照)、または Linux、NetWare[®]、または Macintosh* デバイスをインベントリする場合は、インベントリのみモジュールを展開できます。

モジュールを展開すると、デバイスが ZENworks データベースに追加されます。ZENworks コントロールセンターでは、inventoried-only デバイスは [デバイス] ページの [インベントリ済み] タブに表示されます。

図 6-2 [インベントリ済みデバイス] ページ > ワークステーションフォルダ

インベントリ済みデバイス > ワークステーション

ワークステーション			
新規 ▾ 編集 ▾ 削除 ▾ アクション ▾			
<input type="checkbox"/> 名前	オペレーティングシステム	タイプ	使用停止
<input type="checkbox"/> ZENDOCWKS2	winxp-pro-sp2-x86	ワークステーション	
<input type="checkbox"/> ZENDOCWKS3	winxp-pro-sp2-x86	ワークステーション	

1 - 2/2 10 ▾ 項目の表示

検索

名前:

タイプ:

オペレーティングシステム:

デバイス状態:

サブフォルダを含む

検索 リセット

インベントリのみモジュールの展開手順は、109 ページの第 11 章「インベントリのみモジュールの展開」に記載されています。

展開パッケージの管理

展開パッケージには、デバイスに ZENworks® Adaptive Agent をインストールし、管理ゾーンにデバイスを登録するのに必要なファイルと情報が含まれています。

各 ZENworks サーバには、9 のデフォルトシステムパッケージが含まれています。これらのパッケージは、ZENworks サーバのインストールとシステム更新の際に構築されます。Adaptive Agent ファイルのほかに、各デフォルトシステムパッケージには、ZENworks サーバのアドレスおよび登録時に使用するキー (オプション) も含まれています。デフォルトシステムパッケージを含めるファイルを変更することはできませんが、ZENworks サーバのアドレスおよび登録キー (指定しない限り空白になっています) はカスタマイズできます。

たとえば、Adaptive Agent をプライベートネットワーク上のデバイスと、NAT (network address translation) を使用しているファイアウォールまたはルータ外部のデバイスに展開するとします。パッケージを変更することで、ZENworks サーバのプライベートネットワークアドレス (IP アドレス、DNS 名、または両方) および NAT アドレスを一覧できます。

次のセクションでは、展開パッケージの管理に役立つ情報および手順について説明します。

- ◆ 51 ページのセクション 7.1 「パッケージのタイプとアーキテクチャ」
- ◆ 52 ページのセクション 7.2 「デフォルトシステムパッケージとカスタムパッケージ」
- ◆ 52 ページのセクション 7.3 「パッケージのカスタマイズ」
- ◆ 55 ページのセクション 7.4 「パッケージの再構築」

7.1 パッケージのタイプとアーキテクチャ

ローカルメディアまたはネットワークメディアのファイルからの ZENworks Adaptive Agent の展開をサポートするため、次の 2 種類の展開パッケージが用意されています。

- ◆ **ネットワーク**：ネットワークパッケージには、プレエージェントだけが含まれます。プレエージェントは、デバイスにインストールされると、ZENworks サーバから ZENworks Adaptive Agent ファイルをダウンロードしてインストールします。

ネットワークパッケージの名前は、PreAgentPkg_Agent.exe です。

ネットワークパッケージでは、デバイスにエージェントを展開する前に、デバイス上に Microsoft .NET がインストールされている必要があります。

- ◆ **スタンドアロン**：スタンドアロンパッケージには、プレエージェント、ZENworks Adaptive Agent モジュールファイルのすべて、および Microsoft .NET Framework 2.0 インストール可能ファイルが含まれています。このパッケージは、Adaptive Agent をインストールするために ZENworks サーバにアクセスする必要がないので、リムーバブルメディア (CD、USB ドライブなど) 経由でデバイスに配布するか、.NET がまだインストールされていないデバイスに使用することができます。Adaptive Agent がインストールされると、次回 ZENworks サーバにアクセスしたときに管理ゾーンに登録されます。

スタンドアロンパッケージの名前は、PreAgentPkg_AgentComplete.exe です。

Windows オペレーティングシステムのさまざまなアーキテクチャをサポートするため、2つのパッケージにはそれぞれ次の3つのバージョンがあります。

- ◆ **x86 バージョン**：x86 バージョンを使用して、32 ビットの Windows デバイスに手動で展開できます。このパッケージが使用されるのは手動展開の場合だけです。展開タスクを完了する際に、ZENworks サーバでは使用されません。

x86 パッケージ (PreAgentPkg_Agent.exe、PreAgentPkg_AgentComplete.exe) は、次の ZENworks サーバディレクトリにあります。

```
%ZENWORKS_HOME%\novell\zenworks\install\downloads\setup\x86 (Windows) および /opt/novell/zenworks/install/downloads/setup/x86 (Linux)
```

- ◆ **x86_64 バージョン**：x86_64 バージョンを使用して、64 ビットの Windows デバイスに手動で展開できます。このパッケージが使用されるのは手動展開の場合だけです。展開タスクを完了する際に、ZENworks サーバでは使用されません。

x86_64 パッケージ (PreAgentPkg_Agent.exe、PreAgentPkg_AgentComplete.exe) は、次の ZENworks サーバディレクトリにあります。

```
%ZENWORKS_HOME%\novell\zenworks\install\downloads\setup\x86_64 (Windows) および /opt/novell/zenworks/install/downloads/setup/x86_64 (Linux)
```

- ◆ **すべてのアーキテクチャバージョン**：このパッケージは、展開タスクを完了する際に ZENworks サーバで使用されます。32 ビットおよび 64 ビットの両方の Windows デバイスが含まれています。

すべてのアーキテクチャパッケージ (PreAgentPkg_Agent.exe、PreAgentPkg_AgentComplete.exe) は、次の ZENworks サーバディレクトリにあります。

```
%ZENWORKS_HOME%\novell\zenworks\install\downloads\setup\_all (Windows) および /opt/novell/zenworks/install/downloads/setup/_all (Linux)
```

7.2 デフォルトシステムパッケージとカスタムパッケージ

任意のデフォルトシステムパッケージをカスタマイズしてパッケージを変更したり、新しいカスタムパッケージを作成したりすることができます。その場合、ZENworks サーバのアドレスおよび登録キーは変更できますが、Adaptive Agent ファイルを変更、追加、または削除することはできません。

51 ページのセクション 7.1 「パッケージのタイプとアーキテクチャ」で説明したように、展開タスクを完了する場合にのみ、ZENworks サーバですべてのアーキテクチャパッケージが使用されます。したがって、作成したカスタムパッケージ、あるいは x86 または x86_64 システムパッケージに対する変更は、Adaptive Agent の手動展開の際にのみ使用されます。

7.3 パッケージのカスタマイズ

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。
- 2 [展開パッケージの編集] (左ナビゲーションパネルの [展開アクティビティ] リスト) をクリックして展開パッケージの編集ウィザードを起動します。

展開パッケージの編集	
🔍 ステップ 1: 編集する展開パッケージを選択する	
まず、ターゲットオペレーティングシステム、アーキテクチャ、および編集するパッケージのインストールタイプを選択します。次に、パッケージ名を選択します。	
ターゲットオペレーティングシステム	Microsoft Windows
ターゲットアーキテクチャ	すべてのサポートされているアーキテクチャ
パッケージインストールタイプ	ネットワークインストール
パッケージ名	システム

3 次のテーブルの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

ウィザードページ	詳細
[編集する展開パッケージを選択する] ページ	<p>[ターゲットアーキテクチャ] リストで、編集するパッケージのアーキテクチャを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ x86 アーキテクチャ (32 ビット): 32 ビットデバイスへのエージェントの手動展開で使用します。 ◆ x86_64 アーキテクチャ (64 ビット): 64 ビットデバイスへのエージェントの手動展開で使用します。 ◆ すべてのサポートされているアーキテクチャ: 32 ビットまたは 64 ビットデバイスのいずれかの展開タスクを完了するために ZENworks サーバで使用されます。 <p>[パッケージインストールタイプ] リストで、編集するパッケージのインストールタイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ネットワークインストール: preagent のみが含まれます。Preagent は、ZENworks サーバから Adaptive Agent ファイルをダウンロードします。 ◆ スタンドアロンインストール: preagent とすべての Adaptive Agent ファイルが含まれています。 <p>[パッケージ名] リストで、編集するパッケージの名前を選択します。</p> <p>このリストの名前は、前に選択したアーキテクチャとインストールタイプによって決まります。リストには選択済みのアーキテクチャとインストールタイプと一緒にパッケージの名前が表示されます。</p> <p>デフォルトでは、システムパッケージは常に表示されます。システムパッケージとは、指定したアーキテクチャとインストールタイプの条件を満たす事前定義された展開パッケージ (PreAgentPkg_Agent.exe または PreAgentPkg_AgentComplete.exe) です。</p> <p>その他のパッケージ名は、以前にシステムパッケージを編集し、カスタマイズしたバージョンを新しいパッケージとして保存した場合にのみ表示されます。カスタマイズしたパッケージには、任意の名前を指定できます。指定した名前は、パッケージの格納先として使用するディレクトリに付けられ、パッケージ名にも同じ名前 (PreAgentPkg_Agent.exe または PreAgentPkg_AgentComplete.exe) が使用されます。</p>

ウィザードページ	詳細
[プライマリサーバ情報を入力する] ページ	<p>ZENworks サーバにアクセスするのに使用するアドレスを指定します。展開がネットワークインストールの場合 (プレエージェントは ZENworks サーバから ZENworks Adaptive Agent ファイルをダウンロードする必要があります)、および管理対象デバイスとして登録する場合、デバイスは ZENworks サーバにアクセスする必要があります。指定するすべてのアドレスが、同じ ZENworks サーバに属している必要があります。</p> <p>たとえば、Adaptive Agent をプライベートネットワーク上のデバイスと、NAT (network address translation) を使用しているファイアウォールまたはルータ外部のデバイスに展開するとします。ZENworks サーバのプライベートネットワークアドレス (IP アドレス、DNS 名、または両方) をリストし、その NAT アドレスもまたリストします。</p>
[登録キーの追加] ページ	<p>展開プロセスの登録部分の実行中に使用する登録キーを選択します。登録キーは、登録中にデバイスを割り当てるフォルダおよびグループに関する情報を提供します。</p> <p>登録キーの選択はオプションです。選択しない場合、登録ルールは、フォルダおよびグループの割り当ての決定に使用されます。サーバまたはワークステーションに展開するには、それぞれサーバ登録キーまたはワークステーション登録キーを選択します。</p> <p>登録キーおよびルールの詳細については、57 ページの第 8 章「デバイスを登録する」を参照してください。</p>
[追加の言語選択] ページ	<p>展開パッケージに含める追加の言語パッケージを選択します。</p> <p>展開プロセスの進捗およびメッセージログは、デフォルトにより英語で表示されます。マシンローカルの言語でメッセージを表示したい場合は、展開パッケージに必要な追加の言語パックを追加する必要があります。</p>

ウィザードページ	詳細
[新規展開パッケージの宛先を選択する] ページ	<p>既存のパッケージを上書きするか、編集されたパッケージをカスタムパッケージとして保存するかを選択します。オプションには次の2つがあります。</p> <p>元の展開パッケージを上書きする：元のパッケージをこの編集されたパッケージで置き換えます。</p> <p>新規展開パッケージの名前を選択する：編集されたパッケージを新しいカスタムパッケージとして保存します。元のパッケージは、変更前の状態で保持されます。</p> <p>新しいカスタムパッケージには任意の名前を指定できます。指定した名前は、ZENworks 設定ページ上で更新されたパッケージを識別するのに使用されます。実際には、パッケージ名は同じ名前で残り (PreAgentPkg_Agent.exe または PreAgentPkg_AgentComplete.exe)、パッケージを保存するディレクトリに指定した名前が付きます。</p> <p>すべての新しいパッケージは、ZENworks サーバの <code>%ZENworks_HOME%\novell\zenworks\install\downloads\custom</code> ディレクトリ (Windows の場合) および <code>/opt/novell/zenworks/install/downloads/custom</code> (Linux の場合) に保存されます。たとえば、PreAgentPkg_Agent.exe パッケージの x86 バージョンを変更し、ExternalPack という名前で保存すると、ファイルは次の名前で保存されます。</p> <p><code>%ZENworks_HOME%\Novell\ZENworks\install\downloads\custom\ExternalPack\x86\PreAgentPkg_Agent.exe</code> (Windows) および <code>/opt/novell/zenworks/install/downloads/custom/ExternalPack/x86/PreAgentPkg_Agent.exe</code> (Linux)</p> <hr/> <p>注：カスタム展開パッケージを削除する場合は、パッケージを含むディレクトリを手動で削除する必要があります。</p>

7.4 パッケージの再構築

次のシナリオで、デフォルトおよびカスタムの展開パッケージを再構築する必要があります。

- ◆ パッケージのプライマリサーバポートが変更されたか、正しくない場合
 - ◆ パッチとして提供された新規および更新された MSI ファイルまたは RPM ファイルをすべて組み込む場合
- 新規および更新された MSI ファイルまたは RPM ファイルは、
`%ZENWORKS_HOME%\novell\zenworks\install\downloads\msi` ディレクトリ (Windows の場合)
および `/opt/novell/zenworks/install/downloads/msi` ディレクトリ (Linux の場合) にあります。
- ◆ サーバ証明書が変更された場合

次のセクションでは、デフォルトおよびカスタムパッケージを再構築する手順について説明します。

- ◆ [56 ページのセクション 7.4.1 「デフォルトパッケージの再構築」](#)
- ◆ [56 ページのセクション 7.4.2 「カスタムパッケージの再構築」](#)

7.4.1 デフォルトパッケージの再構築

デフォルトパッケージは、デバイスにエージェントを展開するために、各 ZENworks サーバに組み込まれているシステムパッケージです。デフォルトパッケージの詳細については、[47 ページのセクション 6.2 「展開パッケージ」](#) を参照してください。

1 次のいずれかの操作を行います。

- ◆ **Windows の場合** : コマンドプロンプトで、次のように入力します。

```
novell-zenworks-configure -c CreateExtractorPacks -Z
```

- ◆ **Linux の場合** : コンソールプロンプトで、`/opt/novell/zenworks/bin` ディレクトリに変更後、次のように入力します。

```
./novell-zenworks-configure -c CreateExtractorPacks -Z
```

2 再構築するパッケージの選択を要求されます。デフォルトでは Agent Network パッケージのみが選択されています。次のいずれかの操作を行います。

- ◆ デフォルトパッケージのみを再構築するには、<Enter> キーを押します。
- ◆ 追加パッケージを再構築するには、パッケージに対応する番号を入力後、<Enter> キーを 2 回押します。
たとえば、2 を入力後、<Enter> キーを 2 回押すと、Agent Network パッケージ (デフォルト) と Agent Complete パッケージが再構築されます。
- ◆ すべてのパッケージ (Agent Network、Agent Complete、および Satellite Server) を再構築するには、2,3 と入力後、<Enter> を 2 回押します。

7.4.2 カスタムパッケージの再構築

カスタムパッケージは、デフォルトシステムパッケージのいずれかのカスタマイズによって作成されます。カスタムパッケージの詳細については、[52 ページのセクション 7.2 「デフォルトシステムパッケージとカスタムパッケージ」](#) を参照してください。

1 次のいずれかの操作を行います。

- ◆ **Windows の場合** : コマンドプロンプトで、次のように入力します。

```
novell-zenworks-configure -c RebuildCustomPacks -Z
```

- ◆ **Linux の場合** : コンソールプロンプトで、`/opt/novell/zenworks/bin` ディレクトリに変更後、次のように入力します。

```
./novell-zenworks-configure -c RebuildCustomPacks -Z
```

2 カスタムパッケージを再構築するかどうか選択を促されたら、<Enter> キーを押します。

デバイスを登録する

ZENworks[®] Adaptive Agent をデバイスにインストールすると、デバイスは管理ゾーンに登録され、管理対象デバイスになります。次のセクションでは、登録プロセスの理解および管理に役立つ情報について説明します。

- ◆ 57 ページのセクション 8.1 「登録処理の内容」
- ◆ 58 ページのセクション 8.2 「登録キーおよびルールを作成」
- ◆ 65 ページのセクション 8.3 「登録時に使用されるデバイス命名テンプレートの変更」
- ◆ 66 ページのセクション 8.4 「登録時におけるデバイスの動的名前変更の有効化」
- ◆ 68 ページのセクション 8.5 「登録ルールの使用の無効化」
- ◆ 69 ページのセクション 8.6 「手動でのデバイスの登録」
- ◆ 70 ページのセクション 8.7 「デバイスの登録解除」

8.1 登録処理の内容

ZENworks Adaptive Agent には、すべての登録タスクを実行するサービスが含まれています。登録サービスで実行されるタスクは、デバイスの登録が初めてかどうか、スケジュール済みの更新を実行するかどうか、または新しい登録キーを使用して登録するかどうかによって異なります。次のテーブルは、各シナリオで実行されるタスクを示しています。

表 8-1 登録タスク

タスク	最初の登録	更新	登録 ¹
ZENworks データベースにデバイスオブジェクトを作成する	はい	非対応	いいえ
デバイスの名前テンプレートに従ってデバイスオブジェクトに名前を付ける	はい	はい ²	はい ²
デバイスをフォルダに追加する	はい	非対応	いいえ
デバイスをグループに追加する ³	はい	いいえ	はい
サイト、部署、ロケーション情報を追加する ³	はい	いいえ	はい
デバイス属性 (GUID、IP アドレス、DNS 名、最終接続時間など) を更新する	はい	対応	はい

¹ 再登録では、デバイスオブジェクトが ZENworks データベースから削除されていないこと、および単に新しい登録キーを使用してデバイスを再登録することを想定しています。

² [デバイスの動的名前変更] オプションが有効な場合のみ。詳細については、66 ページのセクション 8.4 「登録時におけるデバイスの動的名前変更の有効化」を参照してください。

³ 登録に使用するキーまたはルールにこの情報が含まれている場合のみ。詳細については、58 ページのセクション 8.2 「登録キーおよびルールの作成」を参照してください。

8.2 登録キーおよびルールの作成

最初にデバイスが登録されると、デバイスはフォルダに追加されます。デフォルトでは、デバイスのタイプに応じて /サーバフォルダまたは /ワークステーションフォルダのいずれかに追加されます。

登録キーおよび登録ルールを使用してデフォルトのフォルダ割り当てを上書きして別のフォルダを指定したり、デバイスをグループに割り当てたりすることができます。デバイスの登録後に、手動でデバイスを別のフォルダに移動してデバイスをグループに追加することはできますが、デバイスの数が多かたり、継続的に新しいデバイスを追加したりする場合は、手間がかかることがあります。多数のデバイスを管理する最も効果的な方法は、登録キーとルールを使用して、登録の際に自動的に適切なフォルダおよびグループに追加することです。

- ◆ **登録キー**：登録キーは、手動で定義またはランダムに生成された英数字の文字列です。デバイスに ZENworks Adaptive Agent を展開するとき、登録キーが必要となります。最初にデバイスを ZENworks Server に接続するときに、デバイスはキー内に定義されているフォルダまたはグループに追加されます。
- ◆ **登録ルール**：登録ルールとは、事前定義された一連の条件（オペレーティングシステムのタイプ、CPU、IP アドレスなど）のことです。デバイスが条件を満たすと、登録のためにルールが使用されます。複数のルールを作成することができます。すべてのルールは、デフォルトのフォルダが使用される前にチェックされます。登録ルールは、登録キーが使用されない場合のみ適用されます。

次のセクションでは、登録キーおよびルールの作成手順について説明します。

- ◆ [58 ページのセクション 8.2.1 「登録キーの作成」](#)
- ◆ [61 ページのセクション 8.2.2 「登録ルールの作成」](#)

8.2.1 登録キーの作成

このセクションの手順では、登録キーの作成方法について説明します。キーを作成した後、次の方法でキーを使用できます。

- ◆ ZENworks Adaptive Agent のインストールの際に使用できるようにするため、展開タスクにキーを含める。詳細については、[75 ページの第 9.3 章「エージェントの展開のためのタスクの使用」](#)を参照してください。
- ◆ 展開パッケージにキーを追加して、展開タスクまたは手動インストールでパッケージを使用するときに、登録キーが適用されるようにする。詳細については、[47 ページのセクション 6.2 「展開パッケージ」](#)を参照してください。
- ◆ ZENworks Adaptive Agent コマンドラインユーティリティ (zac) でキーを使用してゾーン内にデバイスが初期状態で登録されるようにするか (zac register コマンド)、または追加キーを使用して手動でデバイスを追加する (zac add-reg-key コマンド)。詳細については、[69 ページのセクション 8.6 「手動でのデバイスの登録」](#)を参照してください。

登録キーを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックし、次に [登録] タブをクリックします。



- 2 [登録キー] パネルで、[新規作成] > [登録キー] の順にクリックして、新規登録キーの作成ウィザードを起動します。

新規登録キーの作成

🔍 ステップ 1: 基本情報

新しい登録キーの名前、説明、および制限を入力します。[生成] ボタンをクリックすると、一意の名前が生成されます。

キーコード: *

フォルダ: *

説明:

このキーを使用できる回数:

無制限

制限:

3 次のテーブルの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。


ウィザードページ	詳細
[基本情報] ページ	<p>登録キーの名前およびフォルダの場所を定義し、キーを説明する情報を追加し、キーを使用できる回数を指定します。</p> <p>名前: 登録キーに名前を提供します。この名前を持つデバイスには、この登録キーに関連する割り当てが行われます。</p> <p>セキュリティが軽減された簡単な名前を選択するか、[生成] をクリックして、推測が難しい複雑な登録文字列を生成します。セキュリティを強化するには、[生成] オプションを登録キー制限とともに使用します。手動で名前を入力する場合、名前は他の登録キーと違う名前を指定する必要があり、名前に無効な文字 (\ * ? : " ' < > ` % ~) を含めることはできません。</p> <p>フォルダ: この登録キー用のフォルダを指定します。これは整理の目的のみに使用されます。デバイスは、登録キーを使用して登録するのに、キーがどこにあるかを認識する必要はなく、キーの名前だけ分かれば十分です。</p> <p>説明: このフィールドを使用して、新規登録キーに関する情報を入力します。これは便宜上のもので、このフィールドは、ZENworks コントロールセンターでのみ表示されます。</p> <p>このキーを使用できる回数: これは、このキーを使用して登録できるデバイスの数をセキュリティ上の理由から制限できます。</p>
[包含ルール] ページ	<p>デバイスを配置するフォルダを指定します。</p> <p>原則として、同じような環境設定 (リフレッシュ間隔、ログ設定、リモート管理設定など) を持つデバイスは、同じフォルダの中にグループ化して、フォルダに対して構成設定を指定することでそのフォルダ内のデバイスがそれを継承するようにします。異なる構成設定を必要とするデバイスに同じフォルダを使用しないようにしてください。フォルダを同じにしていると、フォルダに対する設定が使用できなくなり、個々のデバイスに設定を定義する結果となってしまいます。</p>
デバイスフィールド	<p>デバイスの登録時に [詳細] ページに入力する部署、サイト、および場所の情報を指定します。たとえば、[部署] フィールドに「会計」と入力すると、デバイスの [詳細] ページの [部署] フィールドに「会計」と入力されます。</p>

[グループメンバー] ページ デバイスの登録時に、デバイスがメンバーになるグループを指定します。

グループを追加すると、グループ内のメンバーシップによって提供された割り当てを登録するデバイスがすべて受け取るようになります。グループメンバーシップからの割り当ては追加式なので、デバイスがグループ A およびグループ B の両方に割り当てられている場合、デバイスは両方のグループからすべての割り当てを受け取ります。

ウィザードの前のページで指定したデバイスフォルダの種類に対して有効なグループのみを追加できます。たとえば、/ デバイス / ワークステーションフォルダを指定した場合は、ワークステーショングループのみを選択できます。

グループを指定するには、次の手順に従います。

1. [追加] をクリックして、[グループ] ダイアログボックスを表示します。
2. デバイスを追加したいグループ (複数可) を参照して選択します。手順は次のとおりです。
 - a. フォルダ (たとえば、ワークステーションフォルダまたはサーバフォルダ) の隣にある  をクリックし、選択するグループが見つかるまでフォルダを検索します。
または
[アイテム名] ボックスに名前を入力してグループを検索します。アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用することができます。たとえば、P* と入力すると、P 始まるグループすべてが検索され、*Accounting と入力すると、Accounting で終了するグループがすべて検索されます。
 - b. [名前] カラムにある下線付きのリンクをクリックし、グループを選択すると、その名前が [選択済み] リストボックスに表示されます。
 - c. メンバーシップを割り当てたいグループすべてを選択するまで、手順 2a および 2b を繰り返します。
 - d. [OK] をクリックして選択済みのグループをリストに追加します。

ウィザードを完了すると、キーが [登録キー] パネルに追加されます。

zman ユーティリティで registration-create-key コマンドを使用して登録キーを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「登録コマンド」を参照してください。

8.2.2 登録ルールの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックして、[登録] タブをクリックします。



- 2 [登録ルール] パネルで、[新規作成] をクリックして新規登録ルールの作成ウィザードを起動します。

新規ルールの作成

🔧 ステップ 1: 基本情報

新規ルールの名前と説明を入力します。

名前: *

説明:

- 3 次のテーブルの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

ウィザードページ	詳細
[基本情報] ページ	<p>ルールの名前を定義し、ルールを説明する情報を追加します。</p> <p>名前: ルールの名前を入力します。ユーザにはルール名は表示されません。名前はZENworks コントロールセンターにのみ表示されます。名前は他の登録キーと違う名前を指定する必要があり、無効な文字 (\ * ?) を含めることはできません。 : " ' < > ` % ~</p> <p>説明: 新しい登録ルールに関する情報を入力します。情報はZENworks コントロールセンターにのみ表示されます。</p>

[デバイス条件] ページ

デバイスに適用される登録ルールが一致する必要がある条件を定義します。条件は、フィルタを使用して定義します。少なくともフィルタを1つ定義する必要があります。

1. [フィルタの追加] をクリックしてフィルタの行を追加します。
2. フィルタの式を作成します。

式は基準オプション、演算子、および値から構成されます。たとえば、次のようにします。

IPAddress starts with 1.1

IPAddress は条件オプションで、starts with が演算子で、123.456 が値です。上の例では、登録ルールは、IP アドレスが 123.456 で始まるデバイスにのみ適用されることとなります。

必要に応じて、NOT を使用して式の論理否定を実行できます。たとえば、次のようにします。

NOT IPAddress starts with 1.1

上の例では、登録ルールは、IP アドレスが 123.456 で始まっていないデバイスにのみ適用されることとなります。

使用できる基準オプションを値といっしょに次に一覧表示します。Device Type および OS の例外を除いて、すべての値は自由形式のフォーム文字列です。


- ◆ CPU: Intel(R) Pentium(R) M processor 1600MHz
- ◆ DNS: abc.xyz.com
- ◆ デバイスタ입: ワークステーションまたはサーバ
- ◆ GUID: 5bf63fb9b1ed4cd880e1a428a1fcf737
- ◆ ホスト名: zenserver
- ◆ IP アドレス: 123.456.78.99
- ◆ 言語: ポルトガル語 (ブラジル)
- ◆ OS: win2003-se-sp1-x86

3. 必要に応じて、[フィルタの追加] をクリックして、他のフィルタを作成します。

複数のフィルタはAND 演算子で結合します。つまり、登録ルールをデバイスに適用する前に、それぞれのフィルタで定義されている基準を満たす必要があります。たとえば、次のようにします。

OS equals Windows Server 2003 AND IPAddress starts with 123.456

上の例では、登録ルールは、オペレーティングシステムが Windows 2003 で、IP アドレスが 123.456 で始まるデバイスにのみ適用されることとなります。

ウィザードページ	詳細
[包含ルール] ページ	<p>デバイスを配置するフォルダを指定します。</p> <p>原則として、同じような環境設定 (リフレッシュ間隔、ログ設定、リモート管理設定など) を持つデバイスは、同じフォルダの中にグループ化して、フォルダに対して構成設定を指定することでそのフォルダ内のデバイスがそれを継承するようにします。異なる構成設定を必要とするデバイスに同じフォルダを使用しないようにしてください。フォルダを同じにしてしまうと、フォルダに対する設定が使用できなくなり、個々のデバイスに設定を定義する結果となってしまいます。</p>
デバイスフィールド	<p>デバイスの登録時に [詳細] ページに入力する部署、サイト、および場所の情報を指定します。たとえば、[部署] フィールドに「会計」と入力すると、デバイスの [詳細] ページの [部署] フィールドに「会計」と入力されます。</p>
[グループメンバー] ページ	<p>デバイスの登録時に、デバイスがメンバーになるグループを指定します。</p> <p>グループを追加すると、グループ内のメンバーシップによって提供された割り当てを登録するデバイスがすべて受け取るようになります。グループメンバーシップからの割り当ては追加式なので、デバイスがグループ A およびグループ B の両方に割り当てられている場合、デバイスは両方のグループからすべての割り当てを受け取ります。</p> <p>ウィザードの前のページで指定したデバイスフォルダの種類に対して有効なグループのみを追加できます。たとえば、/ デバイス / ワークステーションフォルダを指定した場合は、ワークステーショングループのみを選択できます。</p> <p>グループを指定するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [追加] をクリックして、[グループ] ダイアログボックスを表示します。 2. デバイスを追加したいグループ (複数可) を参照して選択します。手順は次のとおりです。 <ol style="list-style-type: none"> a. フォルダ (たとえば、ワークステーションフォルダまたはサーバフォルダ) の隣にある  をクリックし、選択するグループが見つかるまでフォルダを検索します。 <p>または</p> <p>[アイテム名] ボックスに名前を入力してグループを検索します。アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用することができます。たとえば、P* と入力すると、P 始まるグループすべてが検索され、*Accounting と入力すると、Accounting で終了するグループがすべて検索されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> b. [名前] カラムにある下線付きのリンクをクリックし、グループを選択すると、その名前が [選択済み] リストボックスに表示されます。 c. メンバーシップを割り当てたいグループすべてを選択するまで、手順 2a および 2b を繰り返します。 d. [OK] をクリックして選択済みのグループをリストに追加します。

ウィザードを完了すると、ルールが [登録ルール] パネルに追加されます。ルールは上から下へ適用されます。最初により限定的なルールをリストして、次により一般的なルールをリストします。ルールが適用されない場合、デフォルトのサーバおよびワークステーションルールが適用されます。

- 4 ルールを並べ替える場合は、[詳細] (登録ルールパネルの右上端) をクリックします。
- 5 移動するルールの前にあるチェックボックスをオンにします。
- 6 [上へ移動] または [下へ移動] をクリックし、ルールの位置を変更します。

zman ユーティリティで `ruleset-create` コマンドを使用して登録ルールを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ルールセットコマンド」を参照してください。

8.3 登録時に使用されるデバイス命名テンプレートの変更

デバイス命名テンプレートに従って、登録時にデバイスの名前が付けられます。デフォルトでは、デバイスのホスト名が使用されます。次のマシン変数、`{HostName}`、`{GUID}`、`{OS}`、`{CPU}`、`{DNS}`、`{IPAddress}` を組み合わせて自由に名前を変更できます。


命名テンプレートがデバイスのオブジェクト名と競合する場合は、自動的に別のマシン変数が追加されて別の一意の名前が作成されます。たとえば、名前にホスト名を使用しており、同じホスト名のデバイスが 2 つある場合、ホスト名に GUID が追加されて一意の名前が作成されます。

テンプレートを変更するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックし、次に [登録] をクリックして [登録] ページを表示します。

- 3 [デバイス命名テンプレート] パネルで、 をクリックして、リストから目的のマシン変数を選択します。

1 つまたは複数の変数の組み合わせで使用できます (例 :

`$$${HostName}$$${GUID}` など)。

- 4 [OK] をクリックし、変更を保存します。

8.4 登録時におけるデバイスの動的名前変更の有効化

[デバイスの動的名前変更] の設定では、デバイスの登録情報が変更されるたびに、必要に応じてデバイスの名前を変更できます。次のような理由から、デバイスの名前を変更する必要がある場合があります。

- ◆ 命名テンプレートの設定が変更された。たとえば、名前テンプレートで、ホスト名だけでなくホスト名と GUID 変数の両方を使うようになった場合があります。
- ◆ 現在別の命名テンプレートがデバイスに適用されている。たとえば、管理ゾーンの命名テンプレートではなく、フォルダの命名テンプレート適用されている場合があります。
- ◆ 名前に使用されているデバイスの変数を変更された。たとえば、デバイスのホスト名が名前に使用されており、デバイスの実際のホスト名が変更された場合があります。

他の ZENworks オブジェクト (フォルダ、グループなど) との関係を確認する場合、デバイスの名前ではなくその GUID が使用されるので、デバイスの名前を変更しても ZENworks コントロールセンターに表示される名前以外は影響を受けません。

デフォルトでは、デバイスの動的名前変更の設定は無効化されています。管理ゾーンで設定を有効にして、すべてのデバイスに設定を継承させるか、またはデバイスフォルダで設定を有効にして、フォルダ内のデバイスだけに設定を継承させることができます。

- ◆ [67 ページのセクション 8.4.1 「管理ゾーンの設定の有効化」](#)
- ◆ [67 ページのセクション 8.4.2 「デバイスフォルダの設定の有効化」](#)

8.4.1 管理ゾーンの設定の有効化

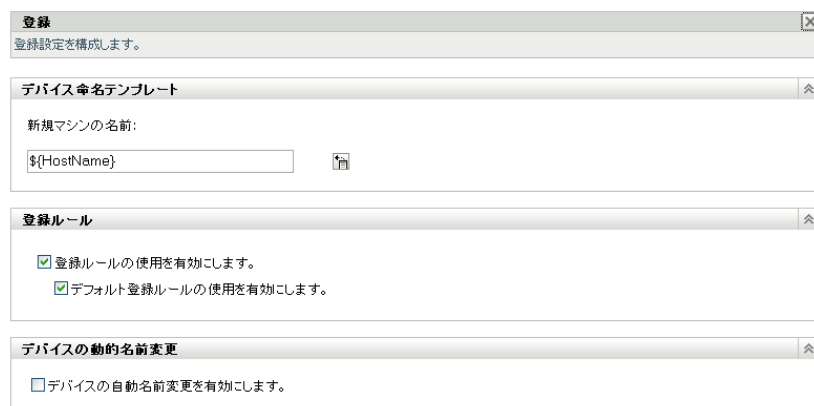
- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



カテゴリ	説明	設定されました
ローカルデバイスのログ	管理対象デバイスが通過した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。	はい
デバイスの更新スケジュール	デバイスの更新間隔を設定します。	はい
ZENworksエージェント	ZENworksエージェントを設定します。	はい
登録	登録設定を構成します。	はい
ZENworks Explorer設定	管理対象デバイス上でのZENworks Explorerの動作を設定します。	はい
システム実行	システム実行を設定します。	はい
起動前サービス	プレブートサービスを設定します。	はい
プライマリユーザ	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。	はい
プライマリワークステーション	プライマリワークステーションの決定方法の設定を構成します。	はい
ダイナミックグループの更新スケジュール	ダイナミックグループの更新スケジュールを設定します。	はい
Wake-on-LAN	Wake-on-LAN設定を構成します。	はい
リモート管理	リモート管理を有効にして設定します。	はい

- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックし、次に [登録] をクリックして [登録] ページを表示します。

環境設定 > 登録



登録設定を構成します。

デバイス命名テンプレート

新規マシンの名前:

登録ルール

登録ルールの使用を有効にします。

デフォルト登録ルールの使用を有効にします。

デバイスの動的名前変更

デバイスの自動名前変更を有効にします。

- 3 [デバイスの動的名前変更] パネルで、[デバイスの自動名前変更を有効にします] をクリックします。
- 4 [OK] をクリックし、変更を保存します。

8.4.2 デバイスフォルダの設定の有効化

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 設定を変更するデバイスフォルダを検索して参照し、[詳細] をクリックしてフォルダの詳細を表示します。
- 3 [設定] タブをクリックします。



- 4 [設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックし、次に [デバイスの動的名前変更] をクリックして [デバイスの動的名前変更] ページを表示します。

デバイス > サーバ > デバイスの動的名前変更



- 5 [設定の上書き] をクリックして [デバイスの動的名前変更] パネルをアクティブにします。
- 6 [デバイスの動的名前変更] パネルで、[デバイスの自動名前変更を有効にします] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックし、変更を保存します。

8.5 登録ルールの使用の無効化

デフォルトでは、登録ルールの機能は有効になっています。これによって、登録キーを使用しないで登録したデバイスでも、デバイスタイプに応じて、少なくとも /servers フォルダまたは /workstations フォルダのいずれかの正しいフォルダに追加されます。

完全に登録キーのみを使用する場合は、登録ルートを無効にすることができます。登録ルートを無効にする場合、次の2つのオプションがあります。

- ◆ **デフォルトの登録ルールのみを使用不可にする**：登録キーを使用しないで登録を試みたデバイスや、カスタム登録ルールの条件を満たしていないデバイスは、拒否されます。デフォルトの登録ルールは無視されます。
- ◆ **すべての登録ルールの無効化** 登録キーを使用しないで登録を試みるデバイスはすべて拒否されます。

登録ルートを無効化するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	アセット管理	システム更新
管理ゾーンの設定					
コンテンツ					
デバイス管理					
カテゴリ					
ローカルデバイスのログ	管理対象デバイスが通過した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。	はい	変更されました		
デバイスの更新スケジュール	デバイスの更新間隔を設定します。	はい			
ZENworksエージェント	ZENworksエージェントを設定します。	はい			
登録	登録設定を構成します。	はい			
ZENworks Explorer設定	管理対象デバイス上でのZENworks Explorerの動作を設定します。	はい			
システム更新	システム更新を設定します。	はい			
起動前サービス	プレブートサービスを設定します。	はい			
プライマリユーザ	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。	はい			
プライマリワークステーション	プライマリワークステーションの決定方法の設定を構成します。	はい			
ダイナミックグループの更新スケジュール	ダイナミックグループの更新スケジュールを設定します。	はい			
Wake-on-LAN	Wake-on-LAN設定を構成します。	はい			
リモート管理	リモート管理を有効にして設定します。	はい			
ディスクリと展開					
イベントとメッセージング					
インフラ管理					
インベントリ					
レポートングサービス					
アセット管理					
バッチ管理					

- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックし、次に [登録] をクリックして [登録] ページを表示します。

環境設定 > 登録

登録 ✕

登録設定を構成します。

デバイス命名テンプレート ⌵

新規マシンの名前:

{HostName} 📄

登録ルール ⌵

登録ルールの使用を有効にします。

デフォルト登録ルールの使用を有効にします。

デバイスの動的名前変更 ⌵

デバイスの自動名前変更を有効にします。

- 3 [登録ルール] パネルで、次のオプションのいずれかを選択解除します。

登録ルール使用の有効化: このオプションを無効にすると、デバイスは登録時に強制的に登録キーを使用するようになります。キーを使用しないで登録を試みるデバイスは拒否されます。

デフォルト登録ルール使用の有効化: このオプションを無効にすると、デバイスは強制的に登録キーを使用するか、またはカスタム登録ルールで定義されている条件を満たします。キーを使用しないデバイスや条件を満たさないデバイスは拒否されます。

- 4 [OK] をクリックし、変更を保存します。

8.6 手動でのデバイスの登録

デバイスは、ZENworks Adaptive Agent のインストール時に自動的に登録されます。ユーザが手動でデバイスを登録する必要があるのは、次の場合のみです。

- ◆ デバイスが登録解除された。

- ◆ デバイスのオブジェクトが ZENworks データベースから削除された。Adaptive Agent がまだデバイスにインストールされたままになっており、デバイスをもう一度登録したい。
- ◆ すでに登録済みのデバイスを、追加登録キーを使用して再登録したい。

デバイスの手動登録は、ZENworks Adaptive Agent コマンドラインユーティリティ (zac) を使用してデバイスで実行する必要があります。

次のセクションではそれらの手順について説明します。

- ◆ 70 ページのセクション 8.6.1 「初期登録の実行」
- ◆ 70 ページのセクション 8.6.2 「追加登録キーを使用したデバイスの登録」

8.6.1 初期登録の実行

- 1 デバイスで、コマンドプロンプトを開きます。
- 2 次のコマンドを入力します。

```
zac reg [-k key] [-u username -p password] [server_url:port]
```

例：

```
zac reg -k acct -u zadmin -p novell https://zserver.novell.com
```

-k、-u、および -p パラメータはオプションです。-u および -p パラメータを指定しないと、ユーザ名とパスワードを入力するよう求められます。server_url:port パラメータでは、IP アドレスも使用できます。ポートは、ZENworks サーバでデフォルトポート (80 または 443) を使用していない場合にのみ必要です。

8.6.2 追加登録キーを使用したデバイスの登録

- 1 デバイスで、コマンドプロンプトを開きます。
- 2 次のコマンドを入力します。

```
zac add-reg-key registration_key
```

例：

```
zac add-reg-key acct
```

登録キーは追加式です。複数のキーを使用して登録する場合、デバイスは各登録キーに関連付けられているすべてのメンバーシップを受け取ります。

8.7 デバイスの登録解除

デバイスは、ZENworks Adaptive Agent のアンインストール時に自動的に登録解除されます。

必要に応じて、手動でデバイスの登録を解除できます。デバイスの登録解除は、ZENworks Adaptive Agent コマンドラインユーティリティ (zac) を使用してデバイスで実行する必要があります。

- 1 デバイスで、コマンドプロンプトを開きます。
- 2 次のコマンドを入力します。

```
zac unr [-f] [-u username -p password]
```

例 :

```
zac unr -u zadmin -p novell
```

-f、-u、および-p パラメータはオプションです。-u および-p パラメータを指定しないと、ユーザ名とパスワードを入力するよう求められます。-f パラメータは ZENworks データベースを無視し、強制的にローカルでデバイスを登録解除します。このオプションは、デバイスオブジェクトが ZENworks データベースからすでに削除済みか、またはデバイスがデータベースに接続できない場合にのみ必要です。

ZENworks Adaptive Agent の展開

9

ZENworks® から管理するデバイスにはすべて ZENworks Adaptive Agent が展開されている必要があります。Adaptive Agent は、管理対象デバイス上ですべての ZENworks 管理タスクを実行します。

管理対象デバイス向けにサポートされているプラットフォームおよびシステム要件の詳細については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「管理対象デバイス要件」を参照してください。

エージェントを展開するには、いくつかの方法があります。次のセクションではそれらの手順について説明します。

- ◆ 73 ページのセクション 9.1 「エージェント機能のカスタマイズ」
- ◆ 75 ページのセクション 9.2 「ターゲットインストールディレクトリの変更」
- ◆ 75 ページのセクション 9.3 「エージェントの展開のためのタスクの使用」
- ◆ 102 ページのセクション 9.4 「手動でのエージェントの展開」
- ◆ 104 ページのセクション 9.5 「Agent のアンインストール」

9.1 エージェント機能のカスタマイズ

展開パッケージ (PreAgentPkg_Agent.exe、PreAgentPkg_AgentComplete.exe) は、デフォルトでは、次の機能を含む ZENworks Adaptive Agent をインストールします。

- ◆ アセット管理
- ◆ ユーザ管理

エージェントの展開前または展開後、管理ゾーン、デバイスフォルダ、およびデバイスレベルで、これらの機能のインストール、アンインストール、有効化、無効化を選択できます。

次のセクションを参照してください。

- ◆ 73 ページのセクション 9.1.1 「展開前の機能のカスタマイズ」
- ◆ 75 ページのセクション 9.1.2 「展開後の機能のカスタマイズ」

9.1.1 展開前の機能のカスタマイズ

ZENworks Adaptive Agent を管理ゾーンレベルで選択された機能とともに展開します。管理ゾーンレベルで選択された機能は、ライセンスの期限が切れた製品や非アクティブ化された製品にはインストールされません。

管理ゾーンレベルでは、次に示すタスクの前に、エージェント機能のインストール、有効化、または無効化が可能です。

- ◆ 新規展開タスクの作成および開始

- ◆ 既存展開タスクの開始
- ◆ エージェントの手動でのダウンロードまたは展開

1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックし、次に [ZENworks エージェント] をクリックします。



3 エージェント機能パネル:

- ◆ インストールしたくない機能がある場合は、その機能の横の [インストール済み] の選択を解除します。選択した機能は、デバイスにインストールされません。すべての機能の選択解除を選択した場合は、コアエージェントだけがインストールされます。
- ◆ インストールするが無効にしたい機能がある場合は、その機能の [インストール済み] と [無効] を選択します。無効にした機能は、現在の管理対象デバイスからアンインストールされません。機能はデバイスにインストールされますが、機能しません。

4 変更内容を保存するには、[適用] をクリックします。

これで、手動またはタスクを使用して、デバイスへのエージェントの展開に進むことができます。

タスクを使用してエージェントを展開する方法については、[75 ページのセクション 9.3「エージェントの展開のためのタスクの使用」](#)を参照してください。手動でエージェントを展開する方法については、[102 ページのセクション 9.4「手動でのエージェントの展開」](#)を参照してください。

9.1.2 展開後の機能のカスタマイズ

ZENworks Adaptive Agent を管理ゾーンレベルで選択された機能とともに展開します。エージェントをデバイスに展開した後、次の操作を実行できます。

- ◆ 管理ゾーンレベルで設定されたエージェント設定の変更
- ◆ デバイスフォルダまたはデバイスレベルでの管理ゾーン設定の上書き

新しい設定は、デバイスの更新時にエージェントに適用されます。

既存エージェントの設定の上書きおよび構成の詳細については、『ZENworks 10 Asset Management システム管理リファレンス』の「[展開後の Adaptive Agent の設定](#)」を参照してください。

9.2 ターゲットインストールディレクトリの変更

デフォルトでは、ZENworks Adaptive Agent は、Windows デバイス上の次の場所にインストールされます。

`Windows_drive:\Program Files\Novell\ZENworks`

エージェントを別の場所にインストールするには、展開する前に ZENWORKS_HOME システム環境変数を作成し、変数を新しいターゲットインストールディレクトリに設定します。パスは、常に \Novell\ZENworks で終わる必要があります。許可されるパスの例は次のとおりです。

`c:\Novell\ZENworks`

`c:\Program Files\Corporate\Novell\ZENworks`

`d:\Applications\Novell\ZENworks`

9.3 エージェントの展開のためのタスクの使用

ZENworks サーバは、デバイスに ZENworks Adaptive Agent を展開できます。そのためには、ZENworks サーバに展開タスクと呼ばれるタスクを作成する必要があります。タスクは、ターゲットデバイス、デバイスにインストールを実行するのに必要なアカウント情報、使用する登録キー (オプション)、インストールを実行する日付と時刻、およびインストールの前または後のいずれかにデバイスで実行するその他のタスクを特定します。

展開タスクを作成する手順は、ターゲットデバイスが管理ゾーンにすでに検出済みのデバイスのリストに含まれているかどうかによって多少異なります ([11 ページのパート I「デバイス検出」](#)参照)。

- ◆ [76 ページのセクション 9.3.1「デバイスに展開するための前提条件」](#)

- ◆ 79 ページのセクション 9.3.2 「検出されたデバイスへの展開」
- ◆ 84 ページのセクション 9.3.3 「検出されていないデバイスへの展開」

9.3.1 デバイスに展開するための前提条件

ZENworks サーバで ZENworks Adaptive Agent をデバイスに展開できるようにする前に、次の前提条件が満たされているかどうかを確認します。

- ◆ 76 ページの 「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有の有効化」
- ◆ 77 ページの 「Windows ファイアウォールを介してのファイルおよびプリント共有の有効化」
- ◆ 77 ページの 「クラシックファイル共有の有効化」

これらの要件に加えて、ZENworks サーバと管理対象デバイスの両方で日時が正確であることを確認してください。

Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有の有効化

Microsoft ネットワークを使用して、ローカルコンピュータ上のリソースにネットワーク上の他のコンピュータがアクセスできるようにするには、[Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有] オプションを有効にする必要があります。

Windows 2000、Windows 2003、および Windows XP

- 1 [マイネットワークプレイス] を右クリックして、[プロパティ] を選択します。
[ネットワーク接続] ウィンドウが表示されます。
- 2 [ローカルエリア接続] を右クリックして、[プロパティ] を選択します。
[ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [全般] タブで、[Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有] オプションが選択されていることを確認します。
- 4 [OK] をクリックします。

詳細については、「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有 (<http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc779133.aspx>)」を参照してください。

Windows Vista および Windows Server 2008

- 1 [ネットワーク] > [プロパティ] を右クリックします。
[ネットワークと共有センター] ウィンドウが表示されます。
- 2 左側のペインで、[ネットワーク接続の管理] をクリックします。
- 3 [ローカルエリア接続] を右クリックして、[プロパティ] を選択します。
[ローカルエリア接続のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [ネットワークング] タブで、[Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有] オプションが選択されていることを確認します。
- 5 [OK] をクリックします。

Windows ファイアウォールを介してのファイルおよびプリント共有の有効化

Windows ファイアウォールを使用しているすべてのターゲットデバイスは、ファイアウォールを介してファイルおよびプリンタを共有できるよう設定されている必要があります。共有化するには、Windows ファイアウォール構成の設定の例外で [ファイルおよびプリンタの共有] を有効にします。コントロールパネルまたは Windows セキュリティセンターを介して Windows ファイアウォールにアクセスできます。

デフォルトでは、例外の範囲はローカルサブネットにのみ適用されます。展開が実行されるプライマリサーバとは異なるサブネットに、ターゲットデバイスが存在する場合は、ローカルサブネットと共にプライマリサーバの IP アドレスを Windows ファイアウォールに追加する必要があります。

- 1 デスクトップの [スタート] メニューから、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
- 2 [Windows ファイアウォール] をダブルクリックします。
[Windows ファイアウォール] ウィンドウが表示されます。
- 3 [例外] タブをクリックします。
- 4 [プログラムおよびサービス] リストで、[ファイルとプリンタの共有] を選択し、[編集] をクリックします。
[サービスの編集] ウィンドウが表示されます。
- 5 [スコープの変更] をクリックし、プライマリサーバの IP アドレスとローカルサブネットを含めます。
- 6 [OK] をクリックします。

クラシックファイル共有の有効化

ZENworks サーバでは、ターゲットデバイスの管理共有 (Admin\$ として表示) にアクセスするにはクラシックファイルの共有アクセスが必要になります。

- ◆ [77 ページの「Windows 2000」](#)
- ◆ [78 ページの「Windows 2003」](#)
- ◆ [78 ページの「Windows XP」](#)
- ◆ [78 ページの「Windows Vista」](#)
- ◆ [79 ページの「Windows Server 2008」](#)

Windows 2000

Windows 2000 デバイスは、デフォルトでクラシックファイルの共有を採用しています。Windows 2000 デバイスへの Adaptive Agent の展開が失敗した場合は、HKLM\System\currentcontrolset\services\lanmanserver\parameters\AutoShareWrks レジストリエントリが 0 (無効) に設定されていないかどうかチェックしてください。0 に設定されている場合は、Admin\$ 共有にアクセスすることができず、エラーが表示されます。設定全体を削除します。

Windows 2003

Windows 2003 デバイスは、デフォルトでクラシックファイルの共有を使用します。Windows 2003 デバイスへの Adaptive Agent の展開が無効な資格情報のエラーで失敗する場合は、クラシックファイルの共有を有効にする必要があります。

- 1 Windows 2003 デバイスで、デスクトップの [スタート] メニュー > [設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
- 2 [管理ツール] > [ローカルセキュリティポリシー] の順にダブルクリックします。
[ローカルセキュリティ設定] ウィンドウが表示されます。
- 3 [セキュリティ設定] で、[ローカルポリシー] > [セキュリティオプション] へ移動します。
- 4 [ネットワークアクセス: ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル] の値を [クラシック - ローカルユーザがローカルユーザとして認証する] に変更します。
- 5 [OK] をクリックします。

Windows グループポリシーを使用して設定を変更することもできます。

Windows XP

Windows XP では、デフォルトで簡易ファイルの共有を使用しています。簡易ファイルの共有を無効化して、クラシックファイルの共有を有効化する必要があります。

- 1 Windows XP デバイスで、[マイコンピュータ] アイコンを右クリックし、次に [開く] をクリックします。
- 2 [ツール] メニュー > [フォルダオプション] をクリックして [フォルダオプション] ダイアログボックスを表示します。
- 3 [表示] タブをクリックします。
- 4 [詳細設定] リストで、[簡易ファイルの共有を使用する] オプションをオフにし、[OK] をクリックして変更を保存します。

このオプションを無効にすると、ローカルセキュリティポリシー ([ローカルポリシー] > [セキュリティオプション]) の [ネットワーク アクセス: ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル] オプションが [クラシック - ローカルユーザがローカルユーザとして認証する] に変わります。Windows グループポリシーを使用して設定を変更することもできます。

Windows Vista

- 1 Windows レジストリを開き、次にアクセスします。
HKLM/Software/Microsoft/Windows/CurrentVersion/Policies/System/LocalAccountTokenFilterPolicy
このレジストリキーが存在しない場合は、それを作成する必要があります。
- 2 DWORD (32 ビット) の値を 1 に変更します。
これによってリモートユーザがログインできるようになり、強制的にゲストとして扱われることがなくなります。
- 3 レジストリを閉じて変更を保存します。
- 4 [サービス] ウィンドウを開き、自動的に開始するように [Remote Registry] サービスを設定してから、このサービスを開始します。
- 5 [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。

- 6 [ネットワークと共有センター] をダブルクリックします。
- 7 [ファイル共有を有効にする] を選択後、[適用] をクリックします。

Windows Server 2008

- 1 Windows Server 2008 マシンで、デスクトップの [スタート] メニューから、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
- 2 [ネットワークと共有センター] をダブルクリックします。
- 3 [ファイル共有を有効にする] を選択後、[適用] をクリックします。

9.3.2 検出されたデバイスへの展開

このセクションでは、すでに検出タスクを実行済みで、ターゲットデバイスを ZENworks データベースに追加することを想定しています。まだ検出タスクを実行済みでない場合は、検出タスクを実行してから次に進むか (11 ページのパート I 「デバイス検出」を参照)、または展開タスクの一部として検出を実行することができます (84 ページのセクション 9.3.3 「検出されていないデバイスへの展開」を参照)。

ZENworks Adaptive Agent を検出されたデバイスに展開するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。
[展開可能なデバイス] パネルには、Adaptive Agent を展開するすべてのデバイス (インポート済みまたは検出済み) が一覧表示されます。
- 2 [展開タスク] パネルで、[新規] をクリックして、デバイスの展開ウィザードを起動します。

- 3 次のテーブルの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

ウィザードページ	詳細
[展開タスク名の入力] ページ	タスクの名前を指定します。名前には次の無効な文字を使用することはできません。 \ \ * ? : " ' < > ` % ~

ウィザードページ	詳細
[デバイスの選択] ページ	<ol style="list-style-type: none"> [追加] をクリックして、[検出されたデバイスブラウザ] ダイアログボックスを表示します。 デフォルトビューには、管理ゾーンで検出されたすべてのデバイスが表示されます。 デバイスを選択するには、➡をクリックします。 デバイスの選択が完了したら、[OK] をクリックして、[デバイスの選択] ページに戻ります。 選択したデバイスがリスト内に表示されます。
[アカウント情報の入力] > [データストアするアカウント情報を保存] フィールド	<p>[アカウント情報の入力] ページで、タスクに含まれているデバイスに Adaptive Agent を展開するときに必要なユーザ名およびパスワードを入力します。</p> <p>アカウント情報は、保存した場合を除きメモリにのみ格納されません。保存されたアカウント情報は、セキュリティを増すためにデータベース内で暗号化されます。</p> <p>保存されていないアカウント情報は、ZENworks サーバが再起動されるとメモリからクリアされます。スケジュール展開タスクを作成している場合、展開の実行時にアカウント情報が依然として有効であるように、アカウント情報を保存することができます。</p>
[アカウント情報の入力] ページ > [アカウント情報] フィールド	<p>アカウント情報を追加するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> [追加] をクリックして [アカウント情報を入力] ダイアログボックスを表示します。[ユーザ名] フィールドに、適切なユーザ名を指定します。 Adaptive Agent を展開するには、ZENworks サーバが、デバイスの管理共有 (ADMIN\$) にドライブをマップする必要があります。次のアカウント情報が必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ デバイスがドメインのメンバである場合：ドメインまたはローカル管理者グループアカウント情報を使用できません。ローカルアカウント情報を使用する場合、ドメインアカウント情報と区別するため、ユーザ名を workstation_name\username として指定する必要があります。 ◆ デバイスがドメインのメンバでない場合：ローカル管理者グループアカウント情報を使用する必要があります。 [パスワード] および [パスワードの再入力] フィールドにユーザパスワードを入力します。 [OK] をクリックしてアカウント情報を保存します。
	<p>環境によっては、アカウント情報が、Adaptive Agent を展開するすべてのデバイスへのアクセス権を提供しない場合もあります。この場合、タスクに含まれているデバイスをカバーするために必要なだけアカウント情報を追加する必要があります。ZENworks サーバは、有効な最初のアカウント情報を使用します。</p>

[スケジュールの選択] ページ

[スケジュールの選択] ページでは、タスクを作成してすぐに実行するかどうか ([今すぐ] オプション)、または後で実行するようにタスクのスケジュールを指定するかを選択できます。[スケジュール済み] を選択する場合は、次のいずれか 1 つのスケジュールを選択します。

スケジュールなし：スケジュールが設定されていないことを示します。タスクはスケジュールが設定されるか、手動で起動されるまで実行されません。これは、タスクを作成し、後でスケジュールを設定するか、手動でタスクを実行する場合に便利です。

特定の日付：タスクを実行する日付を 1 つまたは複数指定します。

繰り返し：タスクを実行する曜日、月の特定日、または固定の間隔を示します。

スケジュールの詳細情報については、[127 ページの付録 B「スケジュール」](#)を参照するか、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

[プライマリサーバの選択] ページ > [プライマリサーバ] フィールド

展開タスクを実行する ZENworks サーバを選択します。

[Windows プロキシの選択] ページ > [Windows プライマリサーバの Windows プロキシを使用] フィールド

このオプションは、Windows プライマリサーバの代わりに Windows プロキシを使用して展開タスクを実行する場合に選択します。

Windows プロキシは次のサーバの代わりに使用できます。

- ◆ Windows 固有のディカバリおよび展開タスクを実行できない Linux プライマリサーバ
- ◆ Windows 固有のディカバリおよび展開タスクを実行できない Linux プライマリサーバ

検出または展開するデバイスがプライマリサーバ以外のサブネットにある場合の Windows サーバ。

注：このオプションは、[プライマリサーバの選択] ページで Windows プライマリサーバが選択されている場合のみ表示されません。


展開については、Windows ファイアウォール構成設定でファイルとプリンタの共有を例外として追加する必要があります。デフォルトでは、例外の範囲はローカルサブネットにのみ適用されます。ターゲットデバイスが、展開が実行されているプライマリサーバとは別のサブネットにある場合、プライマリサーバの IP アドレスを例外として追加する必要があります。ただし、Windows プロキシをターゲットデバイスと同じサブネットで使用している場合は、Windows ファイアウォール例外の範囲を変更する必要はありません。

ウィザードページ	詳細
[Windows プロキシの選択] ページ > [ゾーン Windows プロキシ設定を無効にします] フィールド	<p>管理ゾーンで設定した Windows プロキシ設定を無効にすることを 選択します。</p> <p>タスクで設定を構成する場合は、設定を変更する前に [ゾーン Windows プロキシ設定を無効にします] を選択する必要があります。</p> <p>[Windows プロキシ設定] パネルでは、ゾーン内にある管理対象の Windows デバイスが ZENworks サーバの代わりに検出と展開タ スクを実行するように指定できます。主に Linux 上で動作する ZENworks サーバで、WMI や WinAPI などの Windows 特有の検出 技術を使用する検出タスク、および管理対象の Windows デバイ スを使用する展開タスクを使用しなくてすむように、このような設 計となっています。</p>
[一般オプション] ページ > [展開パッケージ] フィールド	<p>ZENworks サーバと Windows プロキシ間でやりとりされる検出の アカウント情報などの情報を保護するために、SSL を使用したセ キュアな接続が採用されています。</p> <p>Windows プロキシ：Linux ベースの ZENworks サーバの代わりに 検出と展開タスクを実行させる管理対象の Windows デバイス (サーバまたはワークステーション) を選択します。</p> <p>Windows プロキシタイムアウト：ZENworks サーバが Windows プ ロキシからの応答を待機する時間を秒数で指定します。指定され たタイムアウト期間後に受信した応答は破棄されます。</p> <p>管理対象デバイスのプロセッサアーキテクチャに応じて、 ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールするために使 用する展開パッケージを選択します。</p> <p>デバイスのプロセッサアーキテクチャがわからない場合は、ター ゲットアーキテクチャが含まれるパッケージを [すべて] として 選択すると、32 ビットプラットフォームにも 64 ビットプラ ットフォームにも適用されます。選択したパッケージがプライマリ サーバから削除されている場合は、デフォルトの展開パッケージ が展開されます。</p>
[一般オプション] ページ > [エージェントインストールフォルダの指定] フィールド	<p>ZENworks Adaptive Agent をインストールする管理対象デバイスの ディレクトリを指定します。管理対象デバイスに変数が設定され ていない場合、デフォルトでは、エージェントは %ZENWORKS_HOME% システム環境変数で指定したディレクト リまたは %ProgramFiles%\novell\zenworks ディレクトリにイン ストールされます。</p> <p>インストールパスにスペースが含まれていないことを確認してく ださい。</p> <hr/> <p>注：指定したディレクトリが作成されない場合、エージェントはデ フォルトのロケーションにインストールされます。</p>

[一般オプション] ページ >
[再起動オプション]

ZENworks Adaptive Agent のインストール後は、Adaptive Agent を機能させるためにデバイスを再起動する必要があります。次を実行します。

1. 目的の再起動オプションを選択します。

- ◆ **即時** : Adaptive Agent のインストール後ただちにデバイスを強制的に再起動するには、[*即時*] を選択します。
- ◆ **手動** : ユーザが任意のタイミングで手動でデバイスを再起動できるようにするには、[*手動*] を選択します。
- ◆ **スケジュール済** : 指定した時間に再起動するには、[*スケジュール済み*] を選択します。スケジュールのフィールドに入力します。
 - ◆ **開始日** :  をクリックして、イベントの日付選択に使用できるカレンダーを表示します。
 - ◆ **開始時刻** : イベントを開始する時刻を指定します。
 - ◆ **協定世界時 (UTC) を使用** : 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯いるとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。

2. (オプション) 再起動のプロンプトを表示しない場合は、[再起動のプロンプトを表示しない] オプションを選択します。

[登録キーの追加] ページ

展開プロセスの登録部分の実行中に使用する登録キーを選択します。登録キーは、登録中にデバイスが割り当てられるフォルダおよびグループに関する情報を提供します。登録キーの選択はオプションです。選択しない場合、登録ルールは、フォルダおよびグループの割り当ての決定に使用されます。サーバまたはワークステーションに展開するには、それぞれサーバ登録キーまたはワークステーション登録キーを選択します。

登録キーおよびルールの詳細については、[57 ページの第 8 章「デバイスを登録する」](#)を参照してください。

[展開前 / 後] ページ

Adaptive Agent がデバイスにインストールされる前後に実行するコマンドを指定します。たとえば、オペレーティングシステムコマンドを実行、スクリプトを実行、実行プログラム起動できます。

コマンドは、展開タスクパッケージの一部としてプレエージェン트에渡されます。プレエージェン特では、システム領域でコマンドが実行されるので、ユーザの相互作用を必要としないコマンドを指定する必要があります。

展開前および展開後のコマンドの詳細は、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

9.3.3 検出されていないデバイスへの展開

検出タスクによってターゲットデバイスが ZENworks データベースに追加されていない場合、展開タスクを作成しながらデバイスを選択することができます。次のセクションでは、ターゲットデバイスを特定する方法 (IP アドレス / ホスト名、CSV ファイル、または LDAP ディレクトリ) に応じて検出タスクを作成する方法について説明します。

- ◆ 84 ページの「IP アドレス / ホスト名」
- ◆ 89 ページの「新しい CSV ファイル」
- ◆ 94 ページの「既存の LDAP ソース」
- ◆ 97 ページの「新しい LDAP ソース」

IP アドレス / ホスト名

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。
- 2 [展開タスク] パネルで、[新規] をクリックして、デバイスの展開ウィザードを起動します。

- 3 次のテーブルの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

ウィザードページ	詳細
[展開タスク名の入力] ページ	タスクの名前を指定します。名前には次の無効な文字を使用することはできません。 \ * ? : " ' < > ` % ~

ウィザードページ**詳細**

[デバイスの選択] ページ

1. [追加] をクリックして、[検出されたデバイスブラウザ] ダイアログボックスを表示します。
2. [ソース] リストで、[IP アドレス] を選択します。
3. [IP アドレス範囲/ ホスト名] フィールドに入力します。
アドレスは次のいずれかの形式を使用できます。
xxx.xxx.xxx.xxx:1 つのアドレス向けの標準のドット付き 10 進数表記です。たとえば、「123.45.167.100」と指定します。
xx.xxx.xxx.xxx - xxx.xxx.xxx.xxx: アドレスの範囲を示す標準のドット区切り表記です。たとえば、123.45.167.100 から 123.45.167.125 まで。
xxx.xxx.xxx.xxx/n: 標準 CIDR (クラスなしドメイン間ルーティング) 表記法。たとえば、123.45.167.100/24 は、123.45.167 で始まるすべての IP アドレスと一致します。
ホスト名: 標準のデバイスホスト名。たとえば、workstation1 です。
4. [選択されたデバイス] リストにデバイスを追加するには、[追加] をクリックします。
5. デバイスを選択したら、[OK] をクリックします。

[アカウント情報の入力] >
[データストアするアカウント情報を保存] フィールド

[アカウント情報の入力] ページで、タスクに含まれているデバイスに Adaptive Agent を展開するときに必要なユーザ名およびパスワードを入力します。

アカウント情報は、保存した場合を除きメモリにのみ格納されません。保存されたアカウント情報は、セキュリティを増すためにデータベース内で暗号化されます。

保存されていないアカウント情報は、ZENworks サーバが再起動されるとメモリからクリアされます。スケジュール展開タスクを作成している場合、展開の実行時にアカウント情報が依然として有効であるように、アカウント情報を保存することができます。

[アカウント情報の入力]
ページ > [アカウント情報]
フィールド

アカウント情報を追加するには、次の手順に従います。

1. [追加] をクリックして [アカウント情報を入力] ダイアログボックスを表示します。[ユーザ名] フィールドに、適切なユーザ名を指定します。

Adaptive Agent を展開するには、ZENworks サーバが、デバイスの管理共有 (ADMIN\$) にドライブをマップできる必要があります。次のアカウント情報が必要です。

- ◆ **デバイスがドメインのメンバである場合**：ドメインまたはローカル管理者グループアカウント情報を使用できます。ローカルアカウント情報を使用する場合、ドメインアカウント情報と区別するため、ユーザ名を workstation_name\username として指定する必要があります。
- ◆ **デバイスがドメインのメンバでない場合**：ローカル管理者グループアカウント情報を使用する必要があります。

2. [パスワード] および [パスワードの再入力] フィールドにユーザパスワードを入力します。
3. [OK] をクリックしてアカウント情報を保存します。

環境によっては、アカウント情報が、Adaptive Agent を展開するすべてのデバイスへのアクセス権を提供しない場合もあります。この場合、タスクに含まれているデバイスをカバーするために必要なだけアカウント情報を追加する必要があります。ZENworks サーバは、有効な最初のアカウント情報を使用します。

[スケジュールの選択] ページ

[スケジュールの選択] ページでは、タスクを作成してすぐに実行するかどうか ([今すぐ] オプション)、または後で実行するようにタスクのスケジュールを指定するかを選択できます。[スケジュール済み] を選択する場合は、次のいずれか 1 つのスケジュールを選択します。

スケジュールなし：スケジュールが設定されていないことを示します。タスクはスケジュールが設定されるか、手動で起動されるまで実行されません。これは、タスクを作成し、後でスケジュールを設定するか、手動でタスクを実行する場合に便利です。

特定の日付：タスクを実行する日付を 1 つまたは複数指定します。

繰り返し：タスクを実行する曜日、月の特定日、または固定の間隔を示します。

スケジュールの詳細情報については、[127 ページの付録 B「スケジュール」](#)を参照するか、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

[プライマリサーバの選択]
ページ > [プライマリサーバ]
フィールド

展開タスクを実行する ZENworks サーバを選択します。

ウィザードページ**詳細**

[Windows プロキシの選択] ページ > [Windows プライマリサーバの Windows プロキシを使用] フィールド

このオプションは、Windows プライマリサーバの代わりに Windows プロキシを使用して展開タスクを実行する場合に選択します。

Windows プロキシは次のサーバの代わりに使用できます。

- ◆ Windows 固有のディカバリおよび展開タスクを実行できない Linux プライマリサーバ
- ◆ Windows 固有のディカバリおよび展開タスクを実行できない Linux プライマリサーバ

検出または展開するデバイスがプライマリサーバ以外のサブネットにある場合の Windows サーバ。

注：このオプションは、[プライマリサーバの選択] ページで Windows プライマリサーバが選択されている場合のみ表示されません。


展開については、Windows ファイアウォール構成設定でファイルとプリンタの共有を例外として追加する必要があります。デフォルトでは、例外の範囲はローカルサブネットにのみ適用されます。ターゲットデバイスが、展開が実行されているプライマリサーバとは別のサブネットにある場合、プライマリサーバの IP アドレスを例外として追加する必要があります。ただし、Windows プロキシをターゲットデバイスと同じサブネットで使用している場合は、Windows ファイアウォール例外の範囲を変更する必要はありません。

ウィザードページ	詳細
[Windows プロキシの選択] ページ > [ゾーン Windows プロキシ設定を無効にします] フィールド	<p>管理ゾーンで設定済みの Windows プロキシ設定を無効にするかどうか選択します。</p> <hr/> <p>注: このオプションは、[プライマリサーバの選択] ページで Windows プライマリサーバが選択されている場合のみ表示されます。</p> <hr/> <p>タスクで設定を構成する場合は、設定を変更する前に [ゾーン Windows プロキシ設定を無効にします] を選択する必要があります。</p> <p>[Windows プロキシ設定] パネルでは、ゾーン内にある管理対象の Windows デバイスが ZENworks サーバの代わりに検出と展開タスクを実行するように指定できます。主に Linux 上で動作する ZENworks サーバで、WMI や WinAPI などの Windows 特有の検出技術を使用する検出タスク、および管理対象の Windows デバイスを使用する展開タスクを使用しなくて済むように、このような設計となっています。</p> <p>ZENworks サーバと Windows プロキシ間でやりとりされる検出のアカウント情報などの情報を保護するために、SSL を使用したセキュアな接続が採用されています。</p> <p>Windows プロキシ: Linux ベースの ZENworks サーバの代わりに検出と展開タスクを実行させる管理対象の Windows デバイス (サーバまたはワークステーション) を選択します。</p> <p>Windows プロキシタイムアウト: ZENworks サーバが Windows プロキシからの応答を待機する時間を秒数で指定します。指定されたタイムアウト期間後に受信した応答は破棄されます。</p>
[一般オプション] ページ > [展開パッケージ] フィールド	<p>管理対象デバイスのプロセッサアーキテクチャに応じて、ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールするために使用する展開パッケージを選択します。</p> <p>デバイスのプロセッサアーキテクチャがわからない場合は、ターゲットアーキテクチャが含まれるパッケージを [すべて] として選択すると、32 ビットプラットフォームにも 64 ビットプラットフォームにも適用されます。選択したパッケージがプライマリサーバから削除されている場合は、デフォルトの展開パッケージが展開されます。</p>
[一般オプション] ページ > [エージェントインストールフォルダの指定] フィールド	<p>ZENworks Adaptive Agent をインストールする管理対象デバイスのディレクトリを指定します。管理対象デバイスに変数が設定されていない場合、デフォルトでは、エージェントは %ZENWORKS_HOME% システム環境変数で指定したディレクトリまたは %ProgramFiles%\novell\zenworks ディレクトリにインストールされます。</p> <p>インストールパスにスペースが含まれていないことを確認してください。</p> <hr/> <p>注: 指定したディレクトリが作成されない場合、エージェントはデフォルトのロケーションにインストールされます。</p>

[一般オプション] ページ >
[再起動オプション]

ZENworks Adaptive Agent のインストール後は、デバイスを再起動して Adaptive Agent が機能するようになる必要があります。次を実行します。

1. 目的の再起動オプションを選択します。

- ◆ **即時** : Adaptive Agent のインストール後ただちにデバイスを強制的に再起動するには、[**即時**] を選択します。
- ◆ **手動** : ユーザが任意のタイミングで手動でデバイスを再起動できるようにするには、[**手動**] を選択します。
- ◆ **スケジュール済** : 指定した時間に再起動するには、[**スケジュール済**] を選択します。スケジュールのフィールドに入力します。
 - ◆ **開始日** :  をクリックして、イベントの日付選択に使用できるカレンダーを表示します。
 - ◆ **開始時刻** : イベントを開始する時刻を指定します。
 - ◆ **協定世界時 (UTC) を使用** : 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯いるとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。

2. (オプション) 再起動のプロンプトを表示しない場合は、[再起動のプロンプトを表示しない] オプションを選択します。

[登録キーの追加] ページ

展開プロセスの登録部分の実行中に使用する登録キーを選択します。登録キーは、登録中にデバイスが割り当てられるフォルダおよびグループに関する情報を提供します。登録キーの選択はオプションです。選択しない場合、登録ルールは、フォルダおよびグループの割り当ての決定に使用されます。サーバまたはワークステーションに展開するには、それぞれサーバ登録キーまたはワークステーション登録キーを選択します。

登録キーおよびルールの詳細については、[57 ページの第 8 章「デバイスを登録する」](#)を参照してください。

[展開前 / 後] ページ

Adaptive Agent がデバイスにインストールされる前後に実行するコマンドを指定します。たとえば、オペレーティングシステムコマンドを実行、スクリプトを実行、実行プログラム起動できます。

コマンドは、展開タスクパッケージの一部としてプレエージェン트에渡されます。プレエージェン特では、システム領域でコマンドが実行されるので、ユーザの相互作用を必要としないコマンドを指定する必要があります。

展開前および展開後のコマンドの詳細は、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

新しい CSV ファイル

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。

- 2 [展開タスク] パネルで、[新規] をクリックして、デバイスの展開ウィザードを起動します。

- 3 次のテーブルの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

ウィザードページ	詳細
[展開タスク名の入力] ページ	タスクの名前を指定します。名前には次の文字を使用することはできません。ハ*?:"<> `%~
[デバイスの選択] ページ	<ol style="list-style-type: none"> [追加] をクリックして、[検出されたデバイスブラウザ] ダイアログボックスを表示します。 [ソース] リストで、[新規 CSV ファイルの追加] を選択して [新規ソースの追加] ダイアログボックスを表示します。 次のフィールドに入力します。 <ul style="list-style-type: none"> CSV ファイル: エージェントを展開するデバイスを含む CSV ファイルを参照して選択します。 DNS 名カラム: DNS 名情報を含むカラムの番号を選択します。 IP アドレスカラム: IP アドレス情報を含むカラムの番号を選択します。ファイルからインポートするのではなく、DNS 名から IP アドレスを解決する場合、[DNS 名から IP を解決する] オプションを選択します。 OS タイプカラム: オペレーティングシステム情報を含むカラムの番号を選択します。ファイルからインポートするのではなく、デフォルトの OS タイプを指定する場合、[すべての選択にデフォルトの OS を使用する] オプションを選択して、[デフォルトの OS タイプ] フィールドでデフォルトオペレーティングシステムを選択します。 [OK] をクリックして、ソースリストにデバイスを表示します。 ➡ をクリックしてデバイスを [選択したデバイス] リストに移動します。 デバイスを選択したら、[OK] をクリックします。

[アカウント情報の入力] >
[データストアするアカウント情報を保存] フィールド

[アカウント情報の入力] ページでは、タスクに含まれているデバイスに Adaptive Agent を展開するときに必要なユーザ名およびパスワードを提供できます。

アカウント情報は、保存した場合を除きメモリにのみ格納されません。保存されたアカウント情報は、セキュリティを増すためにデータベース内で暗号化されます。

保存されていないアカウント情報は、ZENworks サーバが再起動されるとメモリからクリアされます。スケジュール展開タスクを作成している場合、展開の実行時にアカウント情報が依然として有効であるように、アカウント情報を保存することができます。

[アカウント情報の入力]
ページ > [アカウント情報]
フィールド

アカウント情報を追加するには、次の手順に従います。

1. [追加] をクリックして [アカウント情報を入力] ダイアログボックスを表示します。[ユーザ名] フィールドに、適切なユーザ名を指定します。


Adaptive Agent を展開するには、ZENworks サーバが、デバイスの管理共有 (ADMIN\$) にドライブをマップできる必要があります。次のアカウント情報が必要です。

- ◆ **デバイスがドメインのメンバーである場合**：ドメインまたはローカル管理者グループアカウント情報を使用できます。ローカルアカウント情報を使用する場合、ドメインアカウント情報と区別するため、ユーザ名を workstation_name\username として指定する必要があります。
- ◆ **デバイスがドメインのメンバーでない場合**：ローカル管理者グループアカウント情報を使用する必要があります。

2. [パスワード] および [パスワードの再入力] フィールドにユーザパスワードを入力します。
3. [OK] をクリックしてアカウント情報を保存します。

環境によっては、アカウント情報が、Adaptive Agent を展開するすべてのデバイスへのアクセス権を提供しない場合もあります。この場合、タスクに含まれているデバイスをカバーするために必要なだけアカウント情報を追加する必要があります。ZENworks サーバは、有効な最初のアカウント情報を使用します。

ウィザードページ	詳細
[スケジュールの選択] ページ	<p>[スケジュールの選択] ページでは、タスクを作成してすぐに実行するかどうか ([今すぐ] オプション)、または後で実行するようにタスクのスケジュールを指定するかを選択できます。[スケジュール済み] を選択する場合は、次のいずれか 1 つのスケジュールを選択します。</p> <p>スケジュールなし：スケジュールが設定されていないことを示します。タスクはスケジュールが設定されるか、手動で起動されるまで実行されません。これは、タスクを作成し、後でスケジュールを設定するか、手動でタスクを実行する場合に便利です。</p> <p>特定の日付：タスクを実行する日付を 1 つまたは複数指定します。</p> <p>繰り返し：タスクを実行する曜日、月の特定日、または固定の間隔を示します。</p> <p>スケジュールの詳細情報については、127 ページの付録 B「スケジュール」を参照するか、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。</p>
[プライマリサーバの選択] ページ > [プライマリサーバ] フィールド	<p>展開タスクを実行する ZENworks サーバを選択します。</p>
[プライマリサーバの選択] ページ > [ゾーン Windows プロキシ設定の無効化] オプション	<p>管理ゾーンで設定済みの Windows プロキシ設定を無効にするかどうか選択します。</p> <hr/> <p>注：このオプションは、[プライマリサーバの選択] ページで Windows プライマリサーバが選択されている場合のみ表示されます。</p> <hr/> <p>タスクで設定を構成する場合は、設定を変更する前に [ゾーン Windows プロキシ設定を無効にします] を選択する必要があります。</p> <p>[Windows プロキシ設定] パネルでは、ゾーン内にある管理対象の Windows デバイスが ZENworks サーバの代わりに検出と展開タスクを実行するように指定できます。主に Linux 上で動作する ZENworks サーバで、WMI や WinAPI などの Windows 特有の検出技術を使用する検出タスク、および管理対象の Windows デバイスを使用する展開タスクを使用しなくて済むように、このような設計となっています。</p> <p>ZENworks サーバと Windows プロキシ間でやりとりされる検出のアカウント情報などの情報を保護するために、SSL を使用したセキュアな接続が採用されています。</p> <p>Windows プロキシ：Linux ベースの ZENworks サーバの代わりに検出と展開タスクを実行させる管理対象の Windows デバイス (サーバまたはワークステーション) を選択します。</p> <p>Windows プロキシタイムアウト：ZENworks サーバが Windows プロキシからの応答を待機する時間を秒数で指定します。指定されたタイムアウト期間後に受信した応答は破棄されます。</p>

ウィザードページ	詳細
[一般オプション] ページ > [展開パッケージ] フィールド	<p>管理対象デバイスのプロセッサアーキテクチャに応じて、ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールするために使用する展開パッケージを選択します。</p> <p>デバイスのプロセッサアーキテクチャがわからない場合は、ターゲットアーキテクチャが含まれるパッケージを [すべて] として選択すると、32 ビットプラットフォームにも 64 ビットプラットフォームにも適用されます。選択したパッケージがプライマリサーバから削除されている場合は、デフォルトの展開パッケージが展開されます。</p>
[一般オプション] ページ > [エージェントインストールフォルダの指定] フィールド	<p>ZENworks Adaptive Agent をインストールする管理対象デバイスのディレクトリを指定します。管理対象デバイスに変数が設定されていない場合、デフォルトでは、エージェントは %ZENWORKS_HOME% システム環境変数で指定したディレクトリまたは %ProgramFiles%\novell\zenworks ディレクトリにインストールされます。</p> <p>インストールパスにスペースが含まれていないことを確認してください。</p> <p>注: 指定したディレクトリが作成されない場合、エージェントはデフォルトのロケーションにインストールされます。</p>
[一般オプション] ページ > [再起動オプション]	<p>ZENworks Adaptive Agent のインストール後は、デバイスを再起動して Adaptive Agent が機能するようになる必要があります。次を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的の再起動オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 即時: Adaptive Agent のインストール後ただちにデバイスを強制的に再起動するには、[即時] を選択します。 ◆ 手動: ユーザが任意のタイミングで手動でデバイスを再起動できるようにするには、[手動] を選択します。 ◆ スケジュール済: 指定した時間に再起動するには、[スケジュール済] を選択します。スケジュールのフィールドに入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 開始日:  をクリックして、イベントの日付選択に使用できるカレンダーを表示します。 ◆ 開始時刻: イベントを開始する時刻を指定します。 ◆ 協定世界時 (UTC) を使用: 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯いとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間帯は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。 2. (オプション) 再起動のプロンプトを表示しない場合は、[再起動のプロンプトを表示しない] オプションを選択します。

ウィザードページ	詳細
[登録キーの追加] ページ	<p>展開プロセスの登録部分の実行中に使用する登録キーを選択します。登録キーは、登録中にデバイスが割り当てられるフォルダおよびグループに関する情報を提供します。登録キーの選択はオプションです。選択しない場合、登録ルールは、フォルダおよびグループの割り当ての決定に使用されます。サーバまたはワークステーションに展開するには、それぞれサーバ登録キーまたはワークステーション登録キーを選択します。</p> <p>登録キーおよびルールの詳細については、57 ページの第 8 章「デバイスを登録する」を参照してください。</p>
[展開前 / 後] ページ	<p>Adaptive Agent がデバイスにインストールされる前後に実行するコマンドを指定します。たとえば、オペレーティングシステムコマンドを実行、スクリプトを実行、実行プログラム起動できます。</p> <p>コマンドは、展開タスクパッケージの一部としてプレエージェン트에渡されます。プレエージェン特では、システム領域でコマンドが実行されるので、ユーザの相互作用を必要としないコマンドを指定する必要があります。</p> <p>展開前および展開後のコマンドの詳細は、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。</p>

既存の LDAP ソース

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。
- 2 [展開タスク] パネルで、[新規] をクリックして、デバイスの展開ウィザードを起動します。

- 3 次のテーブルの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

ウィザードページ	詳細
[展開タスク名の入力] ページ	<p>タスクの名前を指定します。名前には次の無効な文字を使用することはできません。 \ \ * ? : " ' < > ` % ~</p>

ウィザードページ**詳細**

[デバイスの選択] ページ

1. [追加] をクリックして、[検出されたデバイスブラウザ] ダイアログボックスを表示します。
2. [ソース] リストで、既存のユーザソースを選択します。
ユーザソースのルートがソースリストに表示されます。
3. ディレクトリを表示して目的のデバイスを探します。
4. ➡ をクリックしてデバイスを [選択したデバイス] リストに移動します。
5. デバイスを選択したら、[OK] をクリックします。

[アカウント情報の入力] >
[データストアするアカウント情報を保存] フィールド

[アカウント情報の入力] ページでは、タスクに含まれているデバイスに Adaptive Agent を展開するときに必要なユーザ名およびパスワードを提供できます。

アカウント情報は、保存した場合を除きメモリにのみ格納されません。保存されたアカウント情報は、セキュリティを増すためにデータベース内で暗号化されます。

保存されていないアカウント情報は、ZENworks サーバが再起動されるとメモリからクリアされます。スケジュール展開タスクを作成している場合、展開の実行時にアカウント情報が依然として有効であるように、アカウント情報を保存することができます。

[アカウント情報の入力]
ページ > [アカウント情報]
フィールド

アカウント情報を追加するには、次の手順に従います。

1. [追加] をクリックして [アカウント情報を入力] ダイアログボックスを表示します。[ユーザ名] フィールドに、適切なユーザ名を指定します。

Adaptive Agent を展開するには、ZENworks サーバが、デバイスの管理共有 (ADMIN\$) にドライブをマップできる必要があります。次のアカウント情報が必要です。

- ◆ **デバイスがドメインのメンバーである場合**：ドメインまたはローカル管理者グループアカウント情報を使用できます。ローカルアカウント情報を使用する場合、ドメインアカウント情報と区別するため、ユーザ名を workstation_name\username として指定する必要があります。
- ◆ **デバイスがドメインのメンバーでない場合**：ローカル管理者グループアカウント情報を使用する必要があります。

2. [パスワード] および [パスワードの再入力] フィールドにユーザパスワードを入力します。
3. [OK] をクリックしてアカウント情報を保存します。


環境によっては、アカウント情報が、Adaptive Agent を展開するすべてのデバイスへのアクセス権を提供しない場合もあります。この場合、タスクに含まれているデバイスをカバーするために必要なだけアカウント情報を追加する必要があります。ZENworks サーバは、有効な最初のアカウント情報を使用します。

ウィザードページ	詳細
[スケジュールの選択] ページ	<p>[スケジュールの選択] ページでは、タスクを作成してすぐに実行するかどうか ([今すぐ] オプション)、または後で実行するようにタスクのスケジュールを指定するかを選択できます。[スケジュール済み] を選択する場合は、次のいずれか1つのスケジュールを選択します。</p> <p>スケジュールなし：スケジュールが設定されていないことを示します。タスクはスケジュールが設定されるか、手動で起動されるまで実行されません。これは、タスクを作成し、後でスケジュールを設定するか、手動でタスクを実行する場合に便利です。</p> <p>特定の日付：タスクを実行する日付を1つまたは複数指定します。</p> <p>繰り返し：タスクを実行する曜日、月の特定日、または固定の間隔を示します。</p> <p>スケジュールの詳細情報については、127 ページの付録 B「スケジュール」を参照するか、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。</p>
[プライマリサーバの選択] ページ > [プライマリサーバ] フィールド	<p>展開タスクを実行する ZENworks サーバを選択します。</p>
[一般オプション] ページ > [展開パッケージ] フィールド	<p>管理対象デバイスのプロセッサアーキテクチャに応じて、ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールするために使用する展開パッケージを選択します。</p> <p>デバイスのプロセッサアーキテクチャがわからない場合は、ターゲットアーキテクチャが含まれるパッケージを [すべて] として選択すると、32 ビットプラットフォームにも 64 ビットプラットフォームにも適用されます。選択したパッケージがプライマリサーバから削除されている場合は、デフォルトの展開パッケージが展開されます。</p>
[一般オプション] ページ > [エージェントインストールフォルダの指定] フィールド	<p>ZENworks Adaptive Agent をインストールする管理対象デバイスのディレクトリを指定します。管理対象デバイスに変数が設定されていない場合、デフォルトでは、エージェントは %ZENWORKS_HOME% システム環境変数で指定したディレクトリまたは %ProgramFiles%\novell\zenworks ディレクトリにインストールされます。</p> <p>インストールパスにスペースが含まれていないことを確認してください。</p>
<p>注：指定したディレクトリが作成されない場合、エージェントはデフォルトのロケーションにインストールされます。</p>	

[一般オプション] ページ >
[再起動オプション]

ZENworks Adaptive Agent のインストール後は、デバイスを再起動して Adaptive Agent が機能するようにする必要があります。次を実行します。

1. 目的の再起動オプションを選択します。

- ◆ **即時** : Adaptive Agent のインストール後ただちにデバイスを強制的に再起動するには、[**即時**] を選択します。
- ◆ **手動** : ユーザが任意のタイミングで手動でデバイスを再起動できるようにするには、[**手動**] を選択します。
- ◆ **スケジュール済み** : 指定した時間に再起動するには、[**スケジュール済み**] を選択します。スケジュールのフィールドに入力します。
 - ◆ **開始日** :  をクリックして、イベントの日付選択に使用できるカレンダーを表示します。
 - ◆ **開始時刻** : イベントを開始する時刻を指定します。
 - ◆ **協定世界時 (UTC) を使用** : 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯いるとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。

2. (オプション) 再起動のプロンプトを表示しない場合は、[再起動のプロンプトを表示しない] オプションを選択します。

[登録キーの追加] ページ

展開プロセスの登録部分の実行中に使用する登録キーを選択します。登録キーは、登録中にデバイスが割り当てられるフォルダおよびグループに関する情報を提供します。登録キーの選択はオプションです。選択しない場合、登録ルールは、フォルダおよびグループの割り当ての決定に使用されます。サーバまたはワークステーションに展開するには、それぞれサーバ登録キーまたはワークステーション登録キーを選択します。

登録キーおよびルールの詳細については、[57 ページの第 8 章「デバイスを登録する」](#)を参照してください。

[展開前 / 後] ページ

Adaptive Agent がデバイスにインストールされる前後に実行するコマンドを指定します。たとえば、オペレーティングシステムコマンドを実行、スクリプトを実行、実行プログラム起動できます。

コマンドは、展開タスクパッケージの一部としてプレエージェン트에渡されます。プレエージェン特では、システム領域でコマンドが実行されるので、ユーザの相互作用を必要としないコマンドを指定する必要があります。

展開前および展開後のコマンドの詳細は、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

新しい LDAP ソース

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。

- 2 [展開タスク] パネルで、[新規] をクリックして、デバイスの展開ウィザードを起動します。

展開 > デバイスウィザードの展開

デバイスウィザードの展開

ステップ 1: 展開タスク名の入力

名前: *

説明:

*アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

<< 戻る 次 >> キャンセル

- 3 次のテーブルの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

ウィザードページ	詳細
[展開タスク名の入力] ページ	タスクの名前を指定します。名前には次の無効な文字を使用することはできません。 \ \ * ? : " ' < > ` % ~

[デバイスの選択] ページ

1. [追加] をクリックして、[検出されたデバイスブラウザ] ダイアログボックスを表示します。
2. [ソース] リストで、[新しいLDAP ソースの追加] を選択して [新規ソースの追加] ダイアログボックスを表示します。
3. 次のフィールドに入力します。

LDAP ソース名: LDAP ソースの名前を入力します。

LDAP サーバ: LDAP サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を指定します。

LDAP ポート /SSL の使用: [SSL の使用] オプションが有効か無効かによって、SSL ポート (636) または非 SSL ポート (389) にデフォルト設定されます。LDAP サーバが異なるポートでリスンしている場合は、そのポートを選択します。

LDAP ルートコンテキスト: 参照を開始するディレクトリのポイントを作成します。ベース DN を指定しない場合、ディレクトリのルートコンテナがエントリポイントとなります。

データストアするアカウント情報を保存: アカウント情報 ([アカウント情報] リストで定義) を保存しない限り、これはメモリにのみ格納されます。保存されたアカウント情報は、セキュリティ強化のためにデータベース内では暗号化されず、ZENworks サーバを再起動すると、アカウント情報はメモリからクリアされます。展開タスクの一部としてアカウント情報を永続的に保持する場合、アカウント情報を保存する必要があります。

アカウント情報: [追加] をクリックして、ディレクトリへの読み取り専用アクセスを提供するユーザ名およびパスワードを入力します。ユーザには読み取り専用のアクセス権以上の権限を与えることができますが、読み取り専用のアクセス権が必要かつ推奨される権限です。

Novell eDirectory アクセスには、標準の LDAP 表記法を使用します。例:


cn=admin_read_only,ou=users,o=mycompany

Microsoft Active Directory には、標準のドメイン表記法を使用します。例:

AdminReadOnly@mycompany.com

4. [OK] をクリックして、ソースリストに LDAP ディレクトリを表示します。
5. ディレクトリを表示して目的のデバイスを探します。
6. ➡ をクリックしてデバイスを [選択したデバイス] リストに移動します。
7. デバイスを選択したら、[OK] をクリックします。

ウィザードページ	詳細
[アカウント情報の入力] > [データストアするアカウント情報を保存] フィールド	<p>[アカウント情報の入力] ページでは、タスクに含まれているデバイスに Adaptive Agent を展開するときに必要なユーザ名およびパスワードを提供できます。</p> <p>アカウント情報は、保存した場合を除きメモリにのみ格納されません。保存されたアカウント情報は、セキュリティを増すためにデータベース内で暗号化されます。</p> <p>保存されていないアカウント情報は、ZENworks サーバが再起動されるとメモリからクリアされます。スケジュール展開タスクを作成している場合、展開の実行時にアカウント情報が依然として有効であるように、アカウント情報を保存することができます。</p>
[アカウント情報の入力] ページ > [アカウント情報] フィールド	<p>アカウント情報を追加するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [追加] をクリックして [アカウント情報を入力] ダイアログボックスを表示します。[ユーザ名] フィールドに、適切なユーザ名を指定します。 <p>Adaptive Agent を展開するには、ZENworks サーバが、デバイスの管理共有 (ADMIN\$) にドライブをマップできる必要があります。次のアカウント情報が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ デバイスがドメインのメンバである場合：ドメインまたはローカル管理者グループアカウント情報を使用できます。ローカルアカウント情報を使用する場合、ドメインアカウント情報と区別するため、ユーザ名を workstation_name\username として指定する必要があります。 ◆ デバイスがドメインのメンバでない場合：ローカル管理者グループアカウント情報を使用する必要があります。 <ol style="list-style-type: none"> 2. [パスワード] および [パスワードの再入力] フィールドにユーザパスワードを入力します。 3. [OK] をクリックしてアカウント情報を保存します。
[スケジュールの選択] ページ	<p>環境によっては、アカウント情報が、Adaptive Agent を展開するすべてのデバイスへのアクセス権を提供しない場合もあります。この場合、タスクに含まれているデバイスをカバーするために必要なだけアカウント情報を追加する必要があります。ZENworks サーバは、有効な最初のアカウント情報を使用します。</p> <p>[スケジュールの選択] ページでは、タスクを作成してすぐに実行するかどうか ([今すぐ] オプション)、または後で実行するようにタスクのスケジュールを指定するかを選択できます。[スケジュール済み] を選択する場合は、次のいずれか 1 つのスケジュールを選択します。</p> <p>スケジュールなし：スケジュールが設定されていないことを示します。タスクはスケジュールが設定されるか、手動で起動されるまで実行されません。これは、タスクを作成し、後でスケジュールを設定するか、手動でタスクを実行する場合に便利です。</p> <p>特定の日付：タスクを実行する日付を 1 つまたは複数指定します。</p> <p>繰り返し：タスクを実行する曜日、月の特定日、または固定の間隔を示します。</p> <p>スケジュールの詳細については、127 ページの付録 B「スケジュール」を参照するか、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。</p>

ウィザードページ	詳細
[プライマリサーバの選択] ページ > [プライマリサーバ] フィールド	展開タスクを実行する ZENworks サーバを選択します。
[一般オプション] ページ > [展開パッケージ] フィールド	管理対象デバイスのプロセッサアーキテクチャに応じて、ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールするために使用する展開パッケージを選択します。
	<p>デバイスのプロセッサアーキテクチャがわからない場合は、ターゲットアーキテクチャが含まれるパッケージを [すべて] として選択すると、32 ビットプラットフォームにも 64 ビットプラットフォームにも適用されます。選択したパッケージがプライマリサーバから削除されている場合は、デフォルトの展開パッケージが展開されます。</p>
[一般オプション] ページ > [エージェントインストールフォルダの指定] フィールド	<p>ZENworks Adaptive Agent をインストールする管理対象デバイスのディレクトリを指定します。管理対象デバイスに変数が設定されていない場合、デフォルトでは、エージェントは %ZENWORKS_HOME% システム環境変数で指定したディレクトリまたは %ProgramFiles%\novell\zenworks ディレクトリにインストールされます。</p> <p>インストールパスにスペースが含まれていないことを確認してください。</p>
	<p>注: 指定したディレクトリが作成されない場合、エージェントはデフォルトのロケーションにインストールされます。</p>
[一般オプション] ページ > [再起動オプション]	ZENworks Adaptive Agent のインストール後は、デバイスを再起動して Adaptive Agent が機能するようにする必要があります。次を実行します。
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 目的の再起動オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 即時: Adaptive Agent のインストール後ただちにデバイスを強制的に再起動するには、[即時] を選択します。 ◆ 手動: ユーザが任意のタイミングで手動でデバイスを再起動できるようにするには、[手動] を選択します。 ◆ スケジュール済: 指定した時間に再起動するには、[スケジュール済] を選択します。スケジュールのフィールドに入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 開始日:  をクリックして、イベントの日付選択に使用できるカレンダーを表示します。 ◆ 開始時刻: イベントを開始する時刻を指定します。 ◆ 協定世界時 (UTC) を使用: 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯いとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。 2. (オプション) 再起動のプロンプトを表示しない場合は、[再起動のプロンプトを表示しない] オプションを選択します。

ウィザードページ	詳細
[登録キーの追加] ページ	<p>展開プロセスの登録部分の実行中に使用する登録キーを選択します。登録キーは、登録中にデバイスが割り当てられるフォルダおよびグループに関する情報を提供します。登録キーの選択はオプションです。選択しない場合、登録ルールは、フォルダおよびグループの割り当ての決定に使用されます。サーバまたはワークステーションに展開するには、それぞれサーバ登録キーまたはワークステーション登録キーを選択します。</p> <p>登録キーおよびルールの詳細については、57 ページの第 8 章「デバイスを登録する」を参照してください。</p>
[展開前 / 後] ページ	<p>Adaptive Agent がデバイスにインストールされる前後に実行するコマンドを指定します。たとえば、オペレーティングシステムコマンドを実行、スクリプトを実行、実行プログラム起動できます。</p> <p>コマンドは、展開タスクパッケージの一部としてプレエージェン트에渡されます。プレエージェントでは、システム領域でコマンドが実行されるので、ユーザの相互作用を必要としないコマンドを指定する必要があります。</p> <p>展開前および展開後のコマンドの詳細は、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。</p>

9.4 手動でのエージェントの展開

ZENworks サーバを使用して Adaptive Agent をデバイスに配布するのではなく、サーバから Adaptive Agent 展開パッケージをダウンロードして手動でエージェントにインストールすることができます。

- 1 デバイスが必要な要件を満たしていることを確認します (『[ZENworks 10 Asset Management インストールガイド](#)』の「[管理対象デバイス要件](#)」を参照してください)。
- 2 ターゲットデバイス上で、Web ブラウザで次のアドレスを開きます。

`http://server/zenworks-setup`

`server` は ZENworks サーバの DNS 名または IP アドレスです。



Web ブラウザに、展開パッケージのリストが表示されます。各アーキテクチャ (32 ビットおよび 64 ビット) 用に、2 種類のパッケージがあります。

ネットワーク：ネットワークパッケージは、プレエージェントのみをダウンロードし、ターゲットデバイスにインストールします。続いて、プレエージェントが ZENworks サーバから ZENworks Adaptive Agent をダウンロードしてインストールします。ネットワークパッケージでは、デバイスにエージェントを展開する前に、デバイス上に Microsoft .NET がインストールされている必要があります。

スタンドアロン：スタンドアロンパッケージでは、Preagent と Adaptive Agent を目的のデバイスにダウンロードし、続いて Preagent がローカルデバイスから Adaptive Agent をインストールします。スタンドアロンパッケージは、ZENworks Adaptive Agent を現在ネットワークから接続解除されているデバイスにインストールする必要がある場合に便利です。パッケージをリムーバブルメディア (CD、USB フラッシュドライブなど) に保存し、スタンドアロンデバイスでメディアからパッケージを実行することができます。Adaptive Agent はデバイスにインストールされますが、デバイスがネットワークに接続されるまで登録および管理は行われません。

カスタム：パッケージ名である、デフォルトエージェントは、事前定義された展開パッケージを参照します。[展開] > [展開パッケージの編集] を使用して作成されたカスタム展開パッケージは、パッケージの作成時に付けられた名前が表示されます。

- 3 使用する展開パッケージの名前をクリックし、パッケージをデバイスのローカルドライブに保存するか、ZENworks サーバから実行します。
- 4 パッケージをダウンロードしたら、デバイスでパッケージを起動します。
このパッケージで使用できるオプションについては、103 ページの「**パッケージオプション**」を参照してください。
- 5 インストールの完了時に、再起動するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。次のいずれかを行います。
 - 何もしない。この場合、5 分後に自動的に再起動します。
 - [キャンセル] をクリックする。後で再起動する必要があります。
 - [Ok] をクリックして、すぐに再起動する

デバイスは再起動するとき、管理ゾーンに登録され、ZENworks アイコンが通知エリア (システムトレイ) に配置されます。

ZENworks コントロールセンターでは、デバイスは [デバイス] ページの \サーバフォルダ構造または \ワークステーションフォルダ構造の下層に表示されます。

パッケージオプション

コマンドラインから展開パッケージを起動する場合、次に表示されているオプションを使用できます。構文は次のとおりです。

package name *option1 option2* ...

例：

```
PreAgentPkg_Agent.exe -q -v -k regkey1
```

-d target_path: 指定したターゲットパスにファイルを抽出します。デフォルトのターゲットパスは、c:\windows\novell\zenworks\stage です。

-h: ヘルプ情報を表示します。

-k: 管理ゾーンのデバイスの登録に使用する登録キー。

-l: パッケージのコンテンツの一覧表示のみ行います。パッケージを抽出しないで、インストールも実行されません。

-n: パッケージを抽出しますが、インストールは実行されません。

-x: インストール後に再起動されません。

-q: 再起動のプロンプトを表示しないようにします。

-v: 詳細画面のロギングがオンになります。

上記のオプションに加えて、パッケージを作成する際に使用できる 2 つの BUILDTIME オプション (**-f file** および **-o output_file**) があります。これらのオプションは、Novell テクニカルサービスから指示があった場合のみ使用してください。

9.5 Agent のアンインストール

ZENworks Adaptive Agent のアンインストール方法については、『*ZENworks 10 Asset Management インストールガイド*』の「**Windows プライマリサーバ、サテライト、管理対象デバイスのアンインストール**」を参照してください。

ZENworks Adaptive Agent の Linux サテライトへの展開

10

ZENworks Asset Management は、Linux デバイスの管理をサポートしません。ただし、Linux デバイスをサテライトとして使用するため、その Linux デバイ스에 Linux 用 ZENworks Adaptive Agent を展開することはできます。

サテライトは、ZENworks プライマリサーバが通常実行する役割を実行するデバイスです。Linux デバイスをサテライトとして設定する場合は、そのデバイスが実行する役割 (イメージング、コレクション、またはコンテンツ) を指定します。

次のセクションを参照してください。

- 105 ページのセクション 10.1 「エージェントの Linux サテライトへの展開」
- 107 ページのセクション 10.2 「Linux サテライトからの ZENworks Adaptive Agent のインストール」

10.1 エージェントの Linux サテライトへの展開

次では、Linux デバイスを ZENworks サテライトにするために必要な Linux Adaptive Agent パッケージをインストールする手順について説明します。サテライトの作成後、ZENworks コントロールセンターを使用してサテライトを設定する必要があります。詳細については、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「サテライト」を参照してください。

Linux Adaptive Agent パッケージを Linux サテライトに展開するには、次の手順に従います。

- 1 デバイスが必要な要件を満たしていることを確認します (『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「サテライト要件」を参照してください)。
- 2 ターゲットデバイス上で、Web ブラウザで次のアドレスを開きます。

`https://server/zenworks-setup`

`server` は ZENworks サーバの DNS 名または IP アドレスです。



各アーキテクチャ (32 ビットと 64 ビット) に 1 つのスタンドアロンパッケージがあります。

- 3 [サテライトサーバ] タブをクリックします。

- 4 使用したい展開パッケージの名前をクリックし、パッケージをデバイスのローカルドライブに保存し、`chmod 755 filename` コマンドの実行により、ファイルに実行可能権限を設定します。

このパッケージで使用できるオプションについては、103 ページの「パッケージオプション」を参照してください。

- 5 端末ウィンドウで、パッケージをダウンロードしたディレクトリに移動し、コマンド `/filename` を実行してデバイスでパッケージを起動します。ここで、`filename` はステップ 4 でダウンロードしたパッケージの名前です。

ZENworks コントロールセンターでは、デバイスは [デバイス] ページの \サーバフォルダ構造または \ワークステーションフォルダ構造の下層に表示されます。

インストール完了後、デバイスがネットワークに接続している場合は、エージェント内の ZENworks 管理デーモンが自動的に管理ゾーンに登録されます。

これらのコマンドは、`zac` コマンドラインユーティリティを使用して、デバイス上でローカルに実行できます。`xsession` セッションまたは `ssh` セッションを使用して、エージェントを Linux デバイスにインストールした場合は、`/opt/novell/zenworks/bin/zac` コマンドを入力して `zac` を実行する必要があります。ただし、再ログイン後は、完全なパスを入力しなくても、直接、コマンドラインから `zac` を実行できます。

パッケージオプション

コマンドラインから展開パッケージを起動する場合、次に表示されているオプションを使用できます。構文は次のとおりです。

```
package name option1 option2 ...
```

次に例を示します。

```
SatelliteServer.bin -k regkey1
```

-d target_path: 指定したターゲットパスにファイルを抽出します。デフォルトのターゲットパスは、`c:\opt\novell\zenworks\stage` です。

-h: ヘルプ情報を表示します。

-k: 管理ゾーンのデバイスの登録に使用する登録キー。

-l: パッケージコンテンツの一覧表示のみ行います。パッケージの抽出も、インストールの実行も行いません。

-n: パッケージを抽出しますが、インストールは実行しません。

-v: 詳細画面ロギングをオンにします。

上記のオプションに加えて、パッケージを作成する際に使用できる 2 つの BUILDTIME オプション (`-f file` および `-o output file`) があります。これらのオプションは、Novell サポートから指示があった場合のみ使用してください。

10.2 Linux サテライトからの ZENworks Adaptive Agent のアンインストール

ZENworks Adaptive Agent を Linux サテライトからアンインストールする詳細については、『*ZENworks 10 Asset Management インストールガイド*』の「Linux サテライトのアンインストール」を参照してください。

インベントリのみモジュールの展開

11

Windows デバイスが Adaptive Agent の展開の要件を満たさない場合、あるいは Windows、Linux、NetWare[®]、または Macintosh OS X デバイスをインベントリする場合、Inventory-Only モジュールを展開することができます。インベントリのみモジュールがサポートされているプラットフォームのバージョンの詳細については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「**最小要件**」を参照してください。

次のセクションではそれらの手順について説明します。

- ◆ 109 ページのセクション 11.1 「ZENworks サーバからのモジュールのダウンロード」
- ◆ 110 ページのセクション 11.2 「Linux/UNIX でのインストール」
- ◆ 111 ページのセクション 11.3 「NetWare でのインストール」
- ◆ 111 ページのセクション 11.4 「Windows でのインストール」
- ◆ 112 ページのセクション 11.5 「Macintosh OS X へのインストール」

11.1 ZENworks サーバからのモジュールのダウンロード

- 1 ターゲットデバイス上で、Web ブラウザで次のアドレスを開きます。

`http://server/zenworks-setup`

ここで、*server* は、ZENworks[®] サーバの DNS 名または IP アドレスです。

NetWare モジュールをダウンロードする場合は、ファイルをコピーしたデバイスで Web ブラウザを開き、NetWare サーバにアクセスします。

重要：Inventory-Only モジュールではデフォルトポート (80 または 443) を使用し、ZENworks サーバでカスタマイズしたポートは使用しません。

- 2 左のナビゲーションペインで、[インベントリツール] をクリックします。



各プラットフォームの Inventory-Only モジュールがページに一覧されます。

プラットフォーム	ファイル名
Novell [®] NetWare	ZENworks_Adaptive_Agent_Netware.zip
Mac OS X	ZENworks_Adaptive_Agent_OSX.dmg

プラットフォーム	ファイル名
Microsoft Windows	ZENworks_Adaptive_Agent_Windows.exe
AIX	zaaio-10.1.0-aix-powerpc.tar.gz
HP-UX	zaaio-10.1.0-hpux-parisc.tar.gz
Linux	zaaio-10.1.0-linux-x86.tar.gz
Solaris	zaaio-10.1.0-sunos-sparc.tar.gz

- 3 目的のプラットフォームのファイル名をクリックして、ファイルをダウンロードします。
- 4 モジュールのインストールを続行するには、次のセクションのいずれかにスキップします。
 - ◆ [110 ページのセクション 11.2 「Linux/UNIX でのインストール」](#)
 - ◆ [111 ページのセクション 11.3 「NetWare でのインストール」](#)
 - ◆ [111 ページのセクション 11.4 「Windows でのインストール」](#)
 - ◆ [112 ページのセクション 11.5 「Macintosh OS X へのインストール」](#)

11.2 Linux/UNIX でのインストール

- 1 デバイス上のインストール権限を持つユーザとしてログインします。
- 2 正しい Inventory-Only モジュールパッケージをターゲットデバイスにダウンロードしたことを確認します。ダウンロードされていない場合は、[109 ページのセクション 11.1 「ZENworks サーバからのモジュールのダウンロード」](#)を参照してください。
- 3 インストールファイルをアンパックする一時ディレクトリを作成します。/tmp は一時インストールディレクトリとして使用しないでください。パッケージのインストールに障害が発生します。ただし、/tmp の下に別個のディレクトリ (/tmp/zaaio など) を作成することはできます。
- 4 ダウンロードしたパッケージを [ステップ 3](#) で作成したディレクトリに移動します。
- 5 コマンドプロンプトで、Inventory-Only モジュールパッケージファイルの場所に移動します。
- 6 パッケージが格納されているディレクトリから次のコマンドを実行することで、Inventory-Only モジュールパッケージをアンパックします。ここでは、Linux パッケージを例として使用しています。

```
tar -zxvf zaaio-10.1.0-linux-x86.tar.gz
```

- 7 ファイルが格納されているディレクトリから次のコマンドを実行することで、Inventory-Only モジュールをインストールします。ここでは、Linux パッケージを例として使用しています。

```
/zenumia-install.sh -s <server>
```

ここで、*server* は、ZENworks サーバの DNS 名または IP アドレスです。

このインストールプログラムでは、ユーザの操作は必要ありません。インストールが完了すると、インベントリのみモジュールが開始され、デバイスが ZENworks コントロールセンターの [インベントリ済みデバイス] ページに追加されます ([デバイス] タブ > [インベントリ済み] タブ > [ワークステーション] または [サーバ] フォルダ)。

- 8 **ステップ 3** で作成されたディレクトリとそのコンテンツを削除します。

11.3 NetWare でのインストール

- 1 ZENworks_Adaptive_Agent_Netware.zip を、ターゲット NetWare サーバへのアクセス権を持っているデバイスにダウンロードしたことを確認します。ダウンロードされていない場合は、[109 ページのセクション 11.1 「ZENworks サーバからのモジュールのダウンロード」](#) を参照してください。

- 2 ZENworks_Adaptive_Agent_Netware.zip ファイルをターゲット NetWare サーバの sys:\temp\zen_aa に解凍します。

- 3 NetWare コンソールで次のコマンドを入力して、インストールを開始します。

```
sys:\temp\zen_aa\install ZENworks_Server_IP_Address
```

例を次に示します。

```
sys:\temp\zen_aa\install 1.1.1.1
```

Inventory-Only モジュールファイルは、sys:\zenworks\zaa にコピーされ、zenaa.nlm がロードされます。

zenaa.nlm がロードされていない場合は、次のコマンドを入力します。

```
load zenaa
```

デバイスが ZENworks コントロールセンターの [インベントリ済みデバイス] ページに追加されます ([デバイス] タブ > [インベントリ済み] タブ > [ワークステーション] または [サーバ] フォルダ)。

11.4 Windows でのインストール

- 1 ZENworks_Adaptive_Agent_Windows.exe を、ターゲット Windows デバイスにダウンロードしたことを確認します。ダウンロードされていない場合は、[109 ページのセクション 11.1 「ZENworks サーバからのモジュールのダウンロード」](#) を参照してください。

- 2 ターゲットマシン上の msixexec.exe の場所がターゲットマシンの PATH 変数に含まれていることを確認してください。


- 3 コマンドプロンプトで、ZENworks_Adaptive_Agent_Windows.exe を実行して、インストールプログラムを起動します。

このインストールプログラムでは、ユーザの操作は必要ありません。インストールが完了すると、インベントリのみモジュールが開始され、デバイスが ZENworks コントロールセンターの [インベントリ済みデバイス] ページに追加されます ([デバイス] タブ > [インベントリ済み] タブ > [ワークステーション] または [サーバ] フォルダ)。

11.5 Macintosh OS X へのインストール

- 1 ZENworks_Adaptive_Agent_OSX.dmg ディスクイメージをターゲット Macintosh デバイスにダウンロードしたことを確認してください。

ZENworks_Adaptive_Agent_OSX.dmg ディスクイメージのダウンロードの詳細については、[109 ページのセクション 11.1 「ZENworks サーバからのモジュールのダウンロード」](#)を参照してください。

- 2 ZENworks_Adaptive_Agent_OSX.dmg ファイルをダブルクリックします。
- 3 次の方法の 1 つで、ZENworks_Adaptive_Agent_OSX パッケージを zip ファイルに圧縮します。
 - ◆ シングルボタンマウスを使用する場合は、ZENworks_Adaptive_Agent_OSX パッケージを選択し、ツールバーの  をクリックし、[Compress ZENworks_Adaptive_Agent_OSX] オプションを選択します。
 - ◆ 3 ボタンマウスを使用する場合は、ZENworks_Adaptive_Agent_OSX パッケージを右クリックしてから、[Compress ZENworks_Adaptive_Agent_OSX] オプションを選択します。

ZENworks_Adaptive_Agent_OSX.zip ファイルがデスクトップに生成されます。

- 4 ZENworks_Adaptive_Agent_OSX.zip ファイルをダブルクリックして、ZENworks_Adaptive_Agent_OSX.pkg ファイルを生成します。
- 5 ZENworks_Adaptive_Agent_OSX.pkg ファイルをダブルクリックして、インストールパッケージを起動します。
- 6 プログラムを実行してパッケージがインストール可能かどうかを判別する必要があることを示すメッセージが表示された場合は、[宛先の選択] ページに達するまで [続行] をクリックします。
- 7 宛先のボリュームを選択し、[続ける] をクリックして [インストールタイプ] ページを表示します。
- 8 [インストール] をクリックします。
- 9 認証のプロンプトが表示されたら、ターゲットデバイスのユーザ名とパスワードを入力して、[OK] をクリックします。

インストールが開始されます。テキストエディットのウィンドウで servername.txt ファイルが開き、ZENworks サーバの名前を入力するよう求められます。

- 10 テキストファイルの一番下の行に、デバイスが通信する ZENworks サーバの IP アドレスまたは DNS 名を入力します。
- 11 ファイルを保存して、ウィンドウを閉じます。

クライアントファイルがインストールされます。

複数のデバイスにモジュールを配布する場合は、オプションファイルを作成してパッケージに含めることができます。オプションファイルがインストールされると、テキストエディットウィンドウは表示されず、この手順をスキップできます。オプションファイル作成の詳細については、[113 ページの「インストーラオプションファイルのカスタマイズ」](#)を参照してください。

- 12 インストールが完了したら、[閉じる] をクリックします。

インベントリのみモジュールが開始され、デバイスが ZENworks コントロールセンタの [インベントリ済みデバイス] ページに追加されます ([デバイス] タブ > [インベントリ済み] タブ > [ワークステーション] または [サーバ] フォルダ)。

インストーラオプションファイルのカスタマイズ

多数のデバイスに Inventory-Only モジュールをインストールする必要があり、これらと同じ ZENworks サーバに接続する場合、ZENworks サーバの名前を含むオプションファイルを作成できます。これにより、*servername.txt* ファイルを起動しても、インストールパッケージで ZENworks サーバの名前を入力するよう求めるプロンプトは表示されなくなります。デバイスにモジュールをインストールすると、自動的にオプションファイルが作成されます。残りのデバイスで同じオプションファイルを使用する場合は、使用したパッケージのコピーを配布するだけで Collection Client をインストールできます。

別のオプションファイルを作成するには、次の手順に従います。

- 1 TextEdit 以外のテキストエディタを開き、次の行を入力します。

```
-s ZENworks_Server_name
```

Macintosh デバイスで ZENworks サーバの DNS 名を解決できない場合、次のように IP アドレスを使用できます。

```
-s 192.168.3.39
```

- 2 テキストファイルを options として保存します (拡張子なし)。
- 3 テキストファイルがシンプルテキストとして保存されたことを確認します。
- 4 <Ctrl> キーを押しながら zenumia.pkg ファイルをクリックし、[情報の取得] を選択します。権限が読み取りおよび書き込みに設定されていることを確認します。
- 5 ファイルを zenumia.pkg ファイルにコピーします。
これでテキストエディットウィンドウが表示されなくても、インストールの一部としてパッケージファイルを使用できるようになります。

デバイスの削除およびリタイア



次のセクションでは、ZENworks® システムからデバイスを削除またはリタイアするために役立つ情報および手順について説明します。

サーバまたはワークステーションデバイスを削除すると、選択したデバイスは ZENworks® システムから削除されます。

デバイスのリタイアは、デバイスを削除するのとは異なります。デバイスをリタイアしても、GUID は保持されます (反対に、デバイスを削除するとデバイスの GUID も削除されます)。デバイスのリタイアの結果として、すべてのインベントリ情報は保持されアクセス可能ですが、すべての割り当ては削除されます。リタイアしたデバイスは、デバイスをリタイア解除または削除するまで保留状態になっています。後でデバイスのリタイアを解除する場合、割り当ては復元されます。管理対象デバイスとインベントリされたデバイスの両方をリタイアできます。

- ◆ [117 ページの第 12 章「ZENworks システムからのデバイスの削除」](#)
- ◆ [119 ページの第 13 章「デバイスのリタイアまたはリタイア解除」](#)

ZENworks システムからのデバイスの削除

12

サーバまたはワークステーションデバイスを削除すると、選択されたデバイスは ZENworks® システムから削除され、その GUID が削除されます。すべてのインベントリ情報が削除され、すべての割り当てが削除されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] フォルダの横にある下線付きのリンクをクリックすると、ご使用の ZENworks システムに含まれるサーバまたはワークステーションのリストが表示されます。
- 3 サーバまたはワークステーションの前にあるチェックボックスをオンにします (デバイスは複数選択できます)。
- 4 [削除] をクリックします。

ZENworks プライマリサーバは [デバイス] タブからは削除できません。ステップ 3 でプライマリサーバを選択して [削除] をクリックすると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Error: The object "vm232w2k3ent" is a Primary Server and cannot be deleted. To delete a Primary Server, go to Configuration, Server Hierarchy, (select a Primary Server), Action, Delete ZENworks Server.
```

ZENworks プライマリサーバの削除については、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「ZENworks プライマリサーバの削除」を参照してください。

デバイスのリタイアまたはリタイア解除

サーバまたはワークステーションデバイスをリタイアすると、選択したデバイスはZENworks®ゾーンからリタイアされます。デバイスのリタイアは、デバイスを削除するのとは異なります。デバイスをリタイアしても、GUIDは保持されます(反対に、デバイスを削除するとデバイスのGUIDも削除されます)。デバイスのリタイアの結果として、すべてのインベントリ情報は保持されアクセス可能ですが、すべての割り当ては削除されます。リタイアしたデバイスは、デバイスをリタイア解除または削除するまで保留状態になっています。後でデバイスのリタイアを解除する場合、割り当ては復元されます。管理対象デバイスとインベントリされたデバイスの両方をリタイアできます。

デバイスのリタイアまたはリタイア解除を行うには、デバイス変更の権限を持っている必要があります。詳細については、『[管理者権限の管理](#)』の「ZENworks 10 Management システム管理リファレンス」を参照してください。

管理対象デバイスのリタイアまたはリタイア解除を行うには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] フォルダの横にある下線付きのリンクをクリックすると、ご使用のZENworks システムに含まれるサーバまたはワークステーションのリストが表示されます。

図 13-1 [デバイス] パネルには、サーバのリストが表示されます。

ステータス	名前	タイプ	オペレーティングシステム	最近の連絡	使用停止
<input type="checkbox"/>	Windows 2000 Servers	ダイナミックサーバグループ			
<input type="checkbox"/>	Windows Server 2003	ダイナミックサーバグループ			
<input type="checkbox"/>	Windows Server 2008	ダイナミックサーバグループ			
<input checked="" type="checkbox"/>	zendoc1b	サーバ	win2003-se-sp2-x86	23:13	

- 3 サーバまたはワークステーションの前にあるチェックボックスをオンにします(デバイスは複数選択できます)。

ZENworks プライマリサーバをリタイアするには、まずそれを降格させる必要があります。詳細については、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「[プライマリサーバの親子関係の変更](#)」を参照してください。

- 4 [アクション] > [デバイスのリタイア] の順にクリックし、デバイスを次の更新時にリタイアします。

または

[アクション] > [リタイアの解除] の順にクリックして、デバイスを次の更新時にリタイア解除します。

アイコンがリタイアしたデバイスの [サーバ] または [ワークステーション] リストの [状態] カラムに表示されます。時刻の上にマウスを乗せると、詳細な日付と時刻が表示されます。

注: デバイスをすぐにリタイアするには、サーバまたはワークステーションの前のチェックボックスをオンにして、[クイックタスク] > [デバイスをすぐにリタイア]の順にクリックします。

デバイスをすぐにリタイア解除するには、サーバまたはワークステーションの前のチェックボックスをオンにして、[クイックタスク] > [デバイスをすぐにリタイア解除]の順にクリックします。

インベントリされたデバイスのリタイアまたはリタイア解除を行うには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] > [インベントリ済み]の順にをクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] フォルダの横にある下線付きのリンクをクリックすると、ご使用の ZENworks システムに含まれるサーバまたはワークステーションのリストが表示されます。

図 13-2 インベントリデバイスのリストが表示された [デバイス] パネル

インベントリ済みデバイス > ワークステーション

ワークステーション			
新規 ◯ 編集 ◯ 削除 ◯ アクション ◯			
<input type="checkbox"/> 名前	オペレーティングシステム	タイプ	使用停止
<input type="checkbox"/> ZENDOCWKS2	winxp-pro-sp2-x86	ワークステーション	

- 3 リタイアまたはリタイア解除するサーバまたはワークステーションの前にあるチェックボックスをオンにします (デバイスは複数選択できます)。
- 4 [アクション] > [デバイスのリタイア] の順にクリックします。
または
[アクション] > [デバイスのリタイア解除] の順にクリックします。

アイコンがリタイアしたデバイスの [サーバ] または [ワークステーション] リストの [状態] カラムに表示されます。時刻の上にマウスを乗せると、詳細な日付と時刻が表示されます。

ZENworks システム内のすべてのリタイアしたデバイスを検索できます。

リタイアしたサーバおよびワークステーションを検索するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 (条件付き) リタイアしたサーバとワークステーションの両方を検索するには、**ステップ 3**へスキップします。

または

リタイアしたサーバのみを検索するには、[サーバ] フォルダの横にある下線付きのリンクをクリックすると、サーバのリストが表示されます。

または

リタイアしたワークステーションのみを検索するには、[ワークステーション] フォルダの横にある下線付きのリンクをクリックすると、ワークステーションのリストが表示されます。

- 3 [検索] ボックスで、[デバイスの状態] ドロップダウンリストから [リタイア済み] を選択します。

図 13-3 [検索] ボックスで [リタイア済み] が選択されます。



The image shows a search interface with the following fields:

- 名前: (Name)
- タイプ: (Type) - すべてのタイプ (All types)
- オペレーティングシステム: (Operating System) - 任意 (Any)
- メッセージステータス: (Message Status) - 任意 (Any)
- コンプライアンスステータス: (Compliance Status) - 任意 (Any)
- デバイス状態: (Device Status) - 任意 (Any), 任意 (Any), 応答なし (No response), 標準 (Standard), 使用停止 (Use stopped)

- 4 [検索] をクリックします。

付録

IV

- ◆ 125 ページの付録 A 「定義済みレポート」
- ◆ 127 ページの付録 B 「スケジュール」
- ◆ 131 ページの付録 C 「ZENworks 向けの NMAP の設定」
- ◆ 133 ページの付録 D 「検出、展開、およびリタイアのトラブルシューティング」

定義済みレポート

A

定義済みレポートを表示するには、ZENworks レポーティングサーバをインストールしておく必要があります。ZENworks レポーティングサーバのインストールについては、『ZENworks 10 Asset Management レポーティングサーバインストールガイド』を参照してください。

検出されたデバイスと ZENworks[®] システムの定義済みレポートを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。
- 2 ZENworks レポーティングサーバの [レポーティング] パネルで、[ZENworks レポーティングサーバ InfoView] をクリックして ZENworks レポーティングサーバ InfoView を起動します。
- 3 [Novell ZENworks Reports] > [Predefined Reports(事前定義されたレポート)] フォルダの順にナビゲートし、リストを展開します。
- 4 [検出されたデバイス] をクリックします。

検出されたデバイス用には、次の事前定義されたレポートが付属しています。

- **CISCO ルータ** : 検出済み CISCO ルータの情報を表示します。
- **展開可能なデバイス** : - ZENworks Adaptive Agent の展開先にすることができるタイプとして識別された検出済みのすべてのデバイスを表示します。
- **デバイスリスト** : 管理ゾーンの検出済みデバイス、インベントリ収集されたデバイス、管理対象デバイスを表示します。このレポートは [ZENworks システム] フォルダ ([Novell ZENworks Reports] > [Predefined Reports] フォルダ) にあります。
- **Managed Devices by ZENworks Management Zone** : - ZENworks Adaptive Agent のインストール先のすべての検出済みデバイスを表示します。また、すべての検出済みデバイスの管理ゾーン情報も表示します。
- **非準拠デバイス** : ゾーン内に存在する非準拠デバイスの数を表示します。
- **プリンタ別ページ数** : 検出済みプリンタと各プリンタで印刷されるページ数を表示します。
- **プリンタアラート** : プリンタアラートと、検出済みプリンタのアラートユニットを表示します。
- **プリンタ提供レベル** : ユニットの提供レベル (検出済みプリンタのトナー、廃棄トナー、フューザーなど) を表示します。
- **管理されていないサーバ** : ZENworks Adaptive Agent の展開先にできるサーバとして識別されたすべての検出済みデバイスを表示します。
- **管理されていないワークステーション** : ZENworks Adaptive Agent の展開先にできるワークステーションとして識別されたすべての検出済みデバイスを表示します。

レポートの作成と管理の詳細は、『ZENworks 10 Asset Management システムレポーティングリファレンス』を参照してください。

スケジュール

次のスケジュールは、検出タスクおよび展開タスクで使用できます。

- 127 ページのセクション B.1 「今すぐ」
- 127 ページのセクション B.2 「スケジュールなし」
- 127 ページのセクション B.3 「特定の日付」
- 128 ページのセクション B.4 「繰り返し」

B.1 今すぐ

タスクウィザードが完了したらすぐにタスクを実行します。


B.2 スケジュールなし

スケジュールが設定されていないことを示します。タスクはスケジュールが設定されるか、手動で起動されるまで実行されません。これは、タスクを作成し、後でスケジュールを設定するか、手動でタスクを実行する場合に便利です。

B.3 特定の日付

[特定の日付] スケジュールオプションでは、タスクを実行する1つまたは複数の日付を指定できます。

B.3.1 開始日付

 をクリックして、タスクの日付の選択に使用できるカレンダーを表示します。一度に複数の日付を追加できます。

B.3.2 イベントを毎年実行する

[開始日付] リストに表示されている日に毎年タスクを実行するには、このオプションを選択します。

B.3.3 スケジュールの実行を開始するタイミングを選択する

次のいずれかを行います。

- **開始時刻にただちに開始:** [開始時刻] フィールドで指定する時刻にタスクが開始されます。
- **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始:** [開始時刻] フィールドと [終了時刻] フィールドに指定した時刻の間でランダムに選択された時刻にタスクが開始されます。このオプションを使用して、複数のタスクが同時にスケジュールされてネットワークが過負荷になるのを防ぐことができます。

B.3.4 協定世界時 (UTC) の使用

開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯いるとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。

B.4 繰り返し

[繰り返し] スケジュールオプションでは、指定した間隔でタスクを繰り返すことができます。

B.4.1 曜日

このスケジュールでは、イベントを実行する曜日を指定できます。イベントは、毎週同じ曜日に実行されます。

[曜日] を選択して、次のフィールドに入力します。

- ◆ **日曜日 ... 土曜日** : イベントを実行する曜日を指定します。
- ◆ **開始時刻** : イベントを実行する時刻を指定します。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯いるとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始** : [開始時刻] フィールドと [終了時刻] フィールドに指定した時刻の間でランダムに選択された時刻にイベントが開始されます。このオプションを使用して、複数のイベントが同時にスケジュールされてネットワークがオーバーロードするのを防ぐことができます。
- ◆ **スケジュール実行を次の日付範囲に限定** : イベントの実行が開始日付と終了日付で指定された日付に限定されます。

B.4.2 月

このスケジュールでは、月の中でイベントを実行する日を 1 日または複数日指定できます。

[月] を選択して、次のフィールドに入力します。

- ◆ **日にち (月)** : イベントを実行する日にち (月) を指定します。有効な日は 1 から 31 です。29、30、または 31 を指定した場合、それらの日がない月にはイベントは実行されません。
- ◆ **最終日 (月)** : 日にちには関係なく、月の最終日 (28、30、または 31) にイベントが実行されます。
- ◆ **第 1 土曜日** : 週の特定日を指定します。たとえば、第 1 日曜日、または第 3 火曜日。 をクリックして、複数の日を追加します。

- ◆ **開始時刻** : イベントを実行する時刻を指定します。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯いとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始** : [開始時刻] ボックスと [終了時刻] ボックスに指定した時刻の間でランダムに選択された時刻にイベントが開始されます。このオプションを使用して、複数のイベントが同時にスケジュールされてネットワークがオーバーロードするのを防ぐことができます。
- ◆ **スケジュール実行を次の日付範囲に限定** : イベントの実行が開始日付と終了日付で指定された日付に限定されます。

B.4.3 固定間隔

このスケジュールでは、イベントを実行する日の間の間隔を指定できます。たとえば、14 日ごとにイベントを実行することができます。

[*固定間隔*] を選択して、次のフィールドに入力します。

- ◆ **月、週、日、時間、分** : イベントが実行される時間の間隔を指定します。月、週、日、時間、および分の任意の組み合わせを使用できます。たとえば、*7 日*、*8 時間*と *1 週間*、*8 時間*は同じスケジュールになります。
- ◆ **開始日** : 間隔の最初の開始日を指定します。
- ◆ **開始時刻** : 間隔の最初の開始時刻を指定します。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯いとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。
- ◆ **スケジュール実行を次の日付範囲に限定** : イベントの実行が、開始日付、終了日付、および終了時刻で指定された期間に限定されます。

ZENworks 向けの NMAP の設定

C

ネットワーク検出は、ユーザ名として zenworks を使用して、nmap コマンドを -O オプション付きで実行する ZENloader モジュールによって実行されます。ただし、nmap コマンドが正常に実行されるには、root 権限が必要です。したがって、zenworks のユーザ名で実行すると、NMAP 検出は失敗します。ZENloader を root のユーザ名で実行しないでください。この問題を解決するには、NMAP を ZENworks[®] 向けに設定し、zenworks ユーザが検出用に NMAP を root 権限で実行できるようにする必要があります。

NMAP を ZENworks 向けに設定するには、Linux プライマリサーバ上で次のことを実行してください。

- 1 root としてログインします。
- 2 visudo コマンドを入力し、sudo ユーザの設定ファイルを vi エディタで開きます。

ヒント: sudo の設定ファイルを vi エディタで開くと、正しい構文が使用されているかファイルの検証も行われます。

- 3 行頭に # を入力して、次の行をコメントとして入力します。

```
Defaults targetpw      # ask for the password of the target user i.e. root
ALL ALL=(ALL) ALL # WARNING! Only use this together with 'Defaults
targetpw'!
```

- 4 次の行の後に、zenworks ALL=(ALL) NOPASSWD:/usr/bin/nmap を追加します。

```
# User privilege specification
root    ALL=(ALL) ALL
```

- 5 変更を保存し、エディタを終了します。

検出、展開、およびリタイアのトラブルシューティング

以降のセクションでは、デバイスの検出、Adaptive Agent のデバイスへの展開、およびデバイスのリタイア時に発生する可能性がある問題の解決策について説明します

- ◆ 133 ページの「展開タスクを使用して ZENworks Adaptive Agent をインストールする際にエラーが発生する」
- ◆ 133 ページの「LDAP ディカバリタスクが開始後すぐに完了する」
- ◆ 134 ページの「ZENworks Adaptive Agent の手動インストールが起動中のステータスでハングする」
- ◆ 134 ページの「NMAP のインストール先の Windows プライマリサーバから、NMAP 検出が実行されない」
- ◆ 135 ページの「デバッグのログを使用可能にするには？」
- ◆ 135 ページの「PreAgent ログファイルの場所は？」
- ◆ 135 ページの「[展開] ページを更新すると検出タスクが繰り返し実行される」
- ◆ 135 ページの「プロキシを使用する展開タスクから、孤立ファイルおよび削除済みファイルがクリーンアップされない」
- ◆ 136 ページの「IP アドレス範囲が広い場合に検出タスクが保留状態のままになる」

展開タスクを使用して ZENworks Adaptive Agent をインストールする際にエラーが発生する

ソース： ZENworks 10 Asset Management 検出、展開、およびリタイア。

説明： .NET Framework 2.0 がインストールされた管理対象デバイス上に展開タスクを使用して ZENworks Adaptive Agent をインストールすると、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
An unhandled exception (System.Security.SecurityException)
occurred in
micasad.exe.
Additional Information: Ecall methods must be packaged into a
system module.
```

アクション： 管理対象デバイスで、.NET Framework 2.0 をアンインストールし、再インストールします。.NET Framework 2.0 のアンインストールおよび再インストール方法の詳細については、[Microsoft .NET Framework 2.0 ソリューションセンターの Web サイト \(http://support.microsoft.com/ph/8291\)](http://support.microsoft.com/ph/8291) を参照してください。

LDAP ディカバリタスクが開始後すぐに完了する

ソース： ZENworks 10 Asset Management 検出、展開、およびリタイア。

説明： LDAP ディカバリタスクが開始後すぐに完了します。タスクの完了を示すメッセージのみが ZENworks コントロールセンターに表示されません。


考えられる原因：LDAP ディカバリタスクに、検索コンテキスト/グループが設定されていません。

アクション：なし。

ZENworks Adaptive Agent の手動インストールが起動中のステータスでハングする

ソース：ZENworks 10 Asset Management 検出、展開、およびリタイア。

説明：MSI パッケージのダウンロード後、ZENworks Adaptive Agent の手動インストールが管理対象デバイス上で突然停止します。次のような症状があります。

- ◆  アイコンが、かなり長時間、インストールステータスを「開始中...」として表示します。
- ◆ Novell ZENworks PreAgent サービスのステータスが、Windows Service Control Manager 内で [Started(開始)] ではありません。
- ◆ %SystemRoot%\novell\zenworks\bin\zenpreagent.installerr ファイルに、次のエラーメッセージが含まれます。

```
Exception during start: Cannot start service ZENPreAgent on computer.
```

考えられる原因：Novell ZENworks PreAgent サービスが、タイムリーに開始要求に応答しなかったため、Windows Service Manager によって終了されました。この問題は、デバイスの速度が遅く、その負荷が高い場合に発生する可能性があります。

アクション：次を実行します。

- 1 次のように、Novell ZENworks PreAgent サービスを開始します。
 - 1a Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 - 1b [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 - 1c Novell ZENworks PreAgent サービスを開始します。

これにより、ZENworks Adaptive Agent のインストールが自動的に再開します。
- 2 それでも、問題が解決しない場合は、次の手順を実行します。
 - 2a zenpreagent.exe プロセスと zpa_iface.exe プロセスを強制終了します。
 - 2b ZENworks Adaptive Agent のインストールを開始します。詳細については、[102 ページのセクション 9.4 「手動でのエージェントの展開」](#) を参照してください。

NMAP のインストール先の Windows プライマリサーバから、NMAP 検出が実行されない

ソース：ZENworks 10 Asset Management 検出、展開、およびリタイア。

考えられる原因： Windows プライマリサーバ上で、NMAP (nmap.exe) が %ProgramFiles%\nmap ディレクトリにインストールされており、インストールしたユーザの PATH 変数に追加されています。その結果、ZENworks ユーザが PATH 変数を使用して nmap.exe を見つけることができません。

アクション： NMAP インストールディレクトリの場所 (%ProgramFiles%\nmap) を Windows のシステム環境変数 PATH に付加します。

デバッグのログを使用可能にするには？

ソース： ZENworks 10 Asset Management 検出、展開、およびリタイア。

アクション： このログを有効にするには、[Novell Support Knowledgebase \(http://support.novell.com/search/kb_index.jsp\)](http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 3418069 を参照してください。

PreAgent ログファイルの場所は？

ソース： ZENworks 10 Asset Management 検出、展開、およびリタイア。

アクション： %SystemRoot%\novell\zenworks\bin\ には、次の PreAgent ログファイルがあります。

zenpreagent.installerr

zenpreagent.installlog

zenpreagent.installstate

ZPA.status

cmdline.txt(管理対象エージェントパッケージの起動時に実行されたコマンドライン)

PreAgent サービスのインストール後、すべてのログ情報は、システムアプリケーションイベントログ内で利用可能になります。

〔展開〕 ページを更新すると検出タスクが繰り返し実行される

ソース： ZENworks 10 Asset Management 検出、展開、およびリタイア。

考えられる原因： ページを更新するために Web ブラウザが情報を再送信するのは通常の動作です。ZENworks は〔展開〕 ページのデータを 5 秒ごとに自動更新します。そのため、検出タスクの実行後に〔展開〕 ページを更新する必要はありません。検出タスクの実行後に ZENworks コントロールセンターで〔展開〕 ページを更新すると、ページを更新するために情報を再送信するかどうかを確認するメッセージが表示されます。このようにすると、検出タスクが再実行されます。

アクション： 検出タスクの実行後は〔展開〕 ページを更新しないでください。変更内容を確認するには、代わりにページを終了して再度表示してください。

プロキシを使用する展開タスクから、孤立ファイルおよび削除済みファイルがクリーンアップされない

ソース： ZENworks 10 Asset Management 検出、展開、およびリタイア。

説明： プロキシを使用する展開タスク時には、タスク前またはタスク後アクションのオーファンまたは削除予定ファイルはクリーンアップされません。

たとえば、Windows プロキシ経由で Linux サーバから展開タスクを実行した場合、Windows デバイス上の

`zenworks_installation_directory\novell\zenworks\bin\rfu_cache` ディレクトリにフォルダが作成されます。このフォルダには、タスク前コマンドまたはタスク後コマンドファイルが含まれます。ZENworks コントロールセンターでこのタスクを削除すると、このコマンドファイルは Windows プロキシデバイス上に残ります。ただし、6 日以上前のコマンドファイルは、同じ Windows プロキシを使用して他の展開タスクが実行されたときにすべて削除されます。

アクション： 孤立ファイルを `zenworks_installation_directory\novell\zenworks\bin\rfu_cache` ディレクトリから直ちに削除するには、手動で削除する必要があります。

IP アドレス範囲が広い場合に検出タスクが保留状態のままになる

ソース： ZENworks 10 Asset Management 検出、展開、およびリタイア。

説明： 検出タスクの IP アドレス範囲に 50,000 を超えるデバイスが含まれる場合、タスクは開始されず、保留状態のままになります。このため、その他の検出タスクの完了には長時間かかります。

考えられる原因： ZENworks ローダのメモリ不足で、IP アドレス範囲が広いタスクを実行できません。

アクション： 次を実行します。

- 1 IP アドレス範囲が広い検出タスクを停止します。
 - 1a [検出タスク] パネルで、IP アドレス範囲が広い検出タスクを選択します。
 - 1b [アクション] > [検出タスクを中止] をクリックします。
- 2 IP アドレス範囲が 50,000 デバイス未満のタスクを複数作成します。
- 3 (条件付き) その他の検出またはローダタスクの完了に長時間かかる場合は、ZENworks ローダを再起動します。
 - ◆ **Windows の場合**：次を実行します。
 1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
 2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
 3. [Novell ZENworks ローダサービス] を再起動します。
 - ◆ **Linux の場合**：コマンドプロンプトで `/etc/init.d/novell-zenloader restart` と入力します。
- 4 ZENworks ローダを再起動します。